



福島まで(新幹線) 大学まで

- 東京から約1時間40分
- 小山から約1時間10分
- 宇都宮から約45分
- 仙台から約30分
- 山形から約1時間10分
- JR/東北本線金谷川(かなやがわ) 駅下車 徒歩10分
- バス/福島駅から二本松方面行き乗車 福島大学下車 徒歩10分

高速バス

- 仙台駅から福島駅まで約1時間20分
- 会津若松駅バスターミナルから福島駅まで約1時間30分
- 新潟駅から郡山駅まで約2時間50分

茨城方面からお越しの場合

- 高萩駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約35分
- 日立駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約45分
- 水戸駅よりJR常磐線特急でいわき駅まで約1時間10分
- いわき駅より高速バスで福島駅まで約2時間



福島大学
公式マスコットキャラクター

めばえちゃん

プロフィール

4月7日生まれ。
出身地 福島県阿武隈高地
性格 のんびり屋 いつもニコニコ
お仕事 福島っ子の応援・福島県産品のPR
福島県の復旧・復興のお手伝い
福島大学のPR

福島大学入試課
公式LINE



入試に関する
お問い合わせ先

福島大学入試課 〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

TEL. **024-548-8064** (平日/9:00~17:00)

※お問い合わせは、できるだけ受験者本人が行ってください。



このフレットは環境に配慮した
「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい・植物油インキ
「VEGETABLE OIL INK」で
印刷しております。

福島大学
大学案内 2026

国立大学法人
福島大学 GUIDE
Fukushima University 2026

**FUKUSHIMA
UNIVERSITY**

福島イズム

この地とともに学び、歩む。





この地とともに
学び、歩む。

Fukushima Ism

福島イズム

街へ出よう。仲間と共に地域（フィールド）に入ろう。

ここでずっと暮らしてきた人々の声に耳をすまそう。

それがどんなに小さな声で、実現が容易ではないことであっても。

君たちが歩むのは、まだ誰も歩いたことのない道。

復興への想いと、難題に立ち向かう精神があれば、きっと越えていける。

青空に高く高く、希望の旗を掲げよう。



INDEX

- 01 福島イズム
- 03 学長メッセージ
- 05 福島大学グランドデザイン2040
- 07 学群・学類再編
- 09 特集 革新と協働で、様々な課題に取り組む
- 11 福島国際研究教育機構 F-REI
- 13 「正解のない問い」にチャレンジ
- 15 「地域×データ」実践教育プログラム
- 19 世界で学ぶ
- 21 学類・コースINDEX
- 23 人間発達文化学類
 - 24 社会で活躍する卒業生
 - 25 カリキュラムの特長
 - 27 学類長メッセージ
 - 28 実習ピックアップ・教員紹介
 - 29 コース紹介
- 33 行政政策学類
 - 34 社会で活躍する卒業生
 - 35 カリキュラムの特長
 - 37 学類長メッセージ・教員紹介
 - 38 学びピックアップ
 - 39 1年次の学び
 - 40 2年次の学び
 - 地域政策と法コース
 - 地域社会と文化コース
- 42 3年次・4年次の学び
- 43 夜間主紹介
- 45 経済経営学類
 - 46 社会で活躍する卒業生
 - 47 カリキュラムの特長
 - 49 学類長メッセージ・教員紹介
 - 50 活動ピックアップ
 - 51 経済学コース
 - 52 経営学コース
 - 54 コース横断プログラム
- 55 共生システム理工学類
 - 56 社会で活躍する卒業生
 - 57 カリキュラムの特長
 - 59 学類長メッセージ・教員紹介
 - 60 履修基準表
 - 61 コース紹介
 - 63 施設や教育プログラム
- 65 食農学類
 - 66 社会で活躍する卒業生
 - 67 カリキュラムの特長
 - 69 学類長メッセージ
 - 70 1年次の学び・教員紹介
 - 71 2年次の学び・コース紹介
 - 73 2年次前期～3年次の学び
- 75 大学院
 - 77 キャンパスマップ
 - 79 フクニチャージ図書館・食堂・生協・年間スケジュール
 - 81 福大生が語る「福大キャンパスライフ」
 - 83 STUDENT'S LIFE
 - 85 クラブ・サークル活動の紹介
 - 87 就職・進路支援
 - 88 進路状況
 - 89 入試データ
 - 90 学費・奨学金

福島大学でしか 学べないこと

President
Message

福島大学学長 三浦 浩喜



- 2045年、AIがすべての人類の知能を超える(米国の未来学者 レイ・カーツワイル氏)
- 2011年度にアメリカの小学校へ入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に「今は存在しない職業」に就くだろう(デューク大学 キャシー・デビッドソン氏)
- 2007年に日本で生まれた子どもは、107歳まで生きる確率が50%もある(イギリスの経営学者 リンダ・グラットン氏)
- この10年ほどで、日本の職業の約半数がAIやロボットに代替される可能性がある(野村総合研究所)
- 2040年には全国1,800ある市区町村のうち、半数の存続が困難になる(増田寛也氏)

科学の進歩によって、将来の姿はより精密に描れるようになりました。近年、世界中の研究者や政治・経済の専門家たちが、データを駆使してさまざまな未来予測を発表しており、その多くが私たちに衝撃を与えています。もちろん、これらの予測がすべての中するわけではありませんが、社会が確実に変化し、予測された方向に進んでいることは事実です。

人間にとって経験の積み重ねは大切ですが、一人の経験には限界があります。だからこそ、科学的な知見をもとに将来を予測し、「いま、何をすべきか」「何

をすべきでないか」を逆算して考える力が、ますます重要になっています。

もし予測通りに社会が変化していくとすれば、皆さんは、これまでの大人たちが経験したことのない「想定外」の時代を生きることになります。これまでなら、経験豊かな大人に相談すれば適切なアドバイスを得られたかもしれませんが、これからはその保証はありません。だからこそ、自分自身で考え、判断し、行動する力が求められるのです。

たとえば、

- 地球温暖化を効率的に抑える方法
- 誰もが困らずに使えるエネルギーの創出
- 災害で壊れた地域コミュニティの再生
- 人間にとって有益かつ安全なAIの活用方法
- 戦争を終わらせるための現実的な方法

これらは、いずれも単一の答えが存在しない問題ばかりです。多様な知識や視点を結集し、多くの人が試行錯誤を重ねながら、ようやく糸口を見つけていくしかありません。こうした現実社会では、唯一の正解にたどり着くの何年もかかることが珍しくありませんし、複数の選択肢の中から最適解を選び取る姿勢が求められます。

そこに必要なのは、課題に向き合う情熱、解決に必要な知識や技術、そしてそれを実行に移すための人と人とのつながりです。

福島は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故という未曾有の災害により、世界的に知られる「悲劇の

地」となりました。しかし同時に、さまざまな支援活動や新たな研究、外部からの知見や人材が集まり、いまや復興が着実に進む「希望の地」としての側面も持ち合わせています。

福島大学では、震災直後から学内に避難所を設け、住民や子どもたちを支援するボランティア活動を展開してきました。学生と教職員が一体となって困難に向き合い、地域に根ざした取り組みを重ねてきた経験があります。

私たちの教育は、教科書の知識を一方向的に教えることを目的としません。むしろ、学生自身が現実社会に飛び込み、複雑な問題を自らの視点で発見し、仲間と共に探究し、自分の生き方や社会のあり方を真剣に考える場を提供することを大切にしています。

未曾有の経験を乗り越えてきた福島という地で、福島大学でしかできない学びがあります。本学での学びと経験は、予測不可能・不確実・複雑・曖昧な“VUCA”の時代を生き抜く上で、きつとかけがえのない力になるはずです。

福島大学 グランドデザイン 2040

— 激変の時代に、柔軟に、かつ強靱に大学づくりをすすめるために —



「福島大学グランドデザイン2040」は、未来の福島大学の設計図です。

福島大学は、一人ひとりのWell-beingと、社会のWell-beingを実現する「新しい社会のあり方」を提案できる大学を目指します。
そして、時代の変化に強く、柔軟に対応できる大学に**進化**します。

「正解のない問い」に挑む力を育てる!

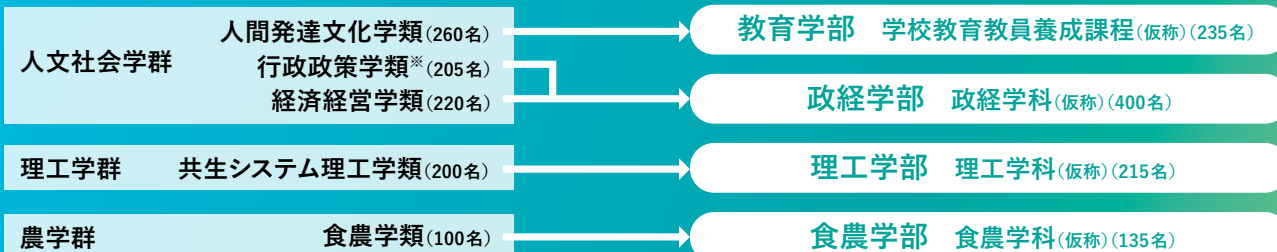
これからの社会は、教科書に載っていない問題ばかり。福島大学では、実際の地域の課題に向き合いながら、自分で考え、仲間と協力して答えを探す力を育てます。

地域と世界をつなぐ研究を強化!

東日本大震災以降、福島大学は多くの研究プロジェクトを生み出してきました。これからは、人文社会科学、環境やエネルギー、食と農など、最先端の分野を横断した研究を通じて、社会を変えていきます。



令和9(2027)年度 3学群5学類から 4学部に変わります。



※夜間主は廃止されます。

学部名や開設時期はいずれも予定であり、変更が生じる可能性があります。

福島大学グランドデザイン2040の要点

— 激変の時代に、柔軟に、かつ強靱に大学づくりをすすめるために —

VUCAの時代に直面する多様な課題の中、福島大学は法人化や震災を経て得た知見を活かしつつ、人口減少への対応などといった新たな課題に挑んでいます。

大学として対応すべき課題

- ◆国立大学法人としての機能強化・発展
- ◆少子化問題への対応

- ◆財政基盤の強化
- ◆社会における諸問題を解決・緩和できる人材育成

ミッション(使命)

- 「新しい社会のあり方」を提案できる大学
- 個人のWell-being、社会のWell-beingの実現を目指す大学
- 激変の時代に「柔軟に、かつ強靱に」取り組む大学

ビジョン(目標)

- 「正解のない問い」にチャレンジできるイノベーション人材の育成
- 地域と世界における現代的で複雑な課題解決のための研究強化

大学改革

ミッション、ビジョン実現へ向け、新たな教育研究組織を構築

- 教育と研究を一体的に行う新たな学士・修士・博士課程へ改組
- 学長のリーダーシップで意思決定を効率化するためのガバナンス体制の見直し・整備
- 持続可能な大学を目指す財政改革
- 組織と研究分野の再構築で本学の強みを強化
- 県内外の高等教育機関と連携を強化し、機能の共有を実質化

福島大学グランドデザイン2040の本文はこちら▶



バリュー(行動指針)

教育

- 問題解決型教育の推進
- 異分野融合を促進する教育組織の再編
- 教育の質保証徹底と学修者中心のカリキュラム構築

研究

- 異分野間の共同研究を推進
- 人文社会系との融合を期待した理・工・農学系の研究強化
- 環境放射能研究所、発酵醸造研究所、水素エネルギー総合研究所等の研究を進化・発展

地域社会との連携

- 地方国立大学の社会貢献の在り方を再構築・強化
- 研究者が問題解決に関わる地域貢献の実践研究を設計
- 将来の地域の姿や課題を明確化し、逆算して課題を提起

教員養成・附属学校園改革

- 震災・原発事故復興と少子化に対応した教員養成の福島モデルを構築
- 少子化を考慮した附属学校園の抜本的改革を実施

地域に即したグローバル教育を全学で推進

- Fukushima Ambassadors Programを発展させ、地域に即したグローバル教育を全学で推進
- 留学生増加、語学力向上、海外インターンシップ活性化
- 海外との共同研究数の増加

大学は、単に「知識を増やす、蓄積する」場所ではありません。
学修した多様な知識を体系的に理解し応用する力を身につけるための場です。
福島大学は、地域と世界をつなぎながら、未来の社会をつくる実験室です。

「正解のない問いにチャレンジしたい」「自分がやってみたいと思えることを見つけたい」
「地域の人と一緒に社会を変えてみたい」「世界を舞台にグローバルに活躍したい」

そんなあなたに、福島大学は、最適で最高の学修環境を提供します!

令和7年6月時点の情報です。

新しい福島大学で
身につけてもらいたい力

- ①「専門性と社会への応用力」 ②「課題の自分事化と解決への意欲」 ③「分野を超える知識と新たな発見」 ④「協働する力と遂行する力」 ⑤「積極的な働きかけと倫理」

“先生”になるだけじゃない“学び”を創る人になる。

新しい社会づくりの担い手

地域に根ざしたイノベーション人材

地域の未来をひらく「科学と技術」を身につける。

進化3

教育学部 (仮称)

地域課題を掘り起こし教育を通して解決を試みる
地域課題探究コース

国際的な視点で日本や諸外国の文化や生活を考える
グローバル探究コース

数学や理科、技術、アートをつないで課題を解決する
STEAM教育コース

学校現場での活動を通して教師の資質を身につける
教育臨床コース

多様な子どもたちが共に学ぶ教室をつくる
インクルーシブ教育コース

- 1 1年次には教員免許等に沿った<系>で学びます！
●国語系 ●英語系 ●社会科系 ●算数・数学系 ●理科系 ●保健体育系 ●心理系
- 2 以下のような教員免許を取得できます！
●小学校1種または2種(取得必須)
●中学校(国語、英語、社会、数学、理科、保健体育)1種または2種
●特別支援学校1種
●高等学校(国語、英語、地理歴史・公民、数学、理科、保健体育、情報^①)1種
※他学部の講義の受講が必要です。
※その他、公認心理師受験資格など取得可
- 3 2年次より課題別コースに分かれてプロジェクト学習を進めます！

地域のインフラや災害対策、再生可能エネルギーやAI活用、地域の課題の中から技術革新を生み出す「実践型エンジニア」を育てます。

進化5

理工学部 (仮称)

理論と実践力のバランスのとれた情報人材を育成する
情報理工学コース

物理学などを基盤に技術やシステムの創出を担う人材を育成する
メカトロニクスコース

水素などの先進的でクリエイティブな化学系人材を育成する
分子デザイン科学コース

環境を多面的に捉え、計画・管理する人材を育成する
環境システムコース

- 1 入学試験は学部一括で行い、2年次からは4つの専門コースに分かれ深く学びます！
- 2 1年次では、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング等の理工学の基礎を学びます！
- 3 廃炉や除染技術、再生可能エネルギーなどをテーマに多彩なフィールドワークで実践的に学ぶことができます！

「社会実装力」を身につけ、地域や産業の未来を創る。

基盤教育 × 専門

大学で学ぶための基礎力・問題意識

確かな知識、

教育 × 共創知教育*

最先端の技術

分野横断による「+α」の専門性

進化4

政経学部 (仮称)

地域資源や新技術を活用し新しい価値を創造する
産業・地域社会イノベーションコース

地域企業の新陳代謝をけん引し地域経済を再構築する
経済経営コース

公的な視点で新しい社会の姿をデザインし伴走する
公共政策デザインコース

ビジネス戦略、公共政策、地域経済、国際問題——身近なニュースの「その先」を深く考え、現場で学ぶフィールドワークを通して、社会にイノベーションをもたらす人材を育成します。

- 1 地域の様々な資源を有効に活用して、地域を活性化するための仕組みやサービスを実現できる力を身につけます！
- 2 新しく生み出される技術を多様な形で事業に活用し、企業や地域経済を元気にすることができる力を身につけます！
- 3 専門知識をベースに、連携する企業や自治体等をフィールドとして、基礎・応用・実践の3段階で社会実装力を養います！

持続可能な食のシステム、地域で生産される農作物。食と農を入り口に、よりよい人々の暮らしや社会の仕組みを考えます。

- 1 農業の現場での実習や、福島県全体をキャンパスにして実践的に学びます！
- 2 分野を横断したチームで、地域の食と農の課題に幅広く取り組みます！
- 3 1年次から「土」や「水」に触れ、農場で栽培実習に取り組みます！

進化6

食農学部 (仮称)

食品の栄養や機能を解明し豊かな食と健康を創造する
食品科学コース

気候変動に対応した革新的農業生産技術を開発する
農業科学コース

これからの地域社会と農業の活性化を担う
農業経営学コース

農山間環境の保全と利活用を推進する
フィールド環境学コース

福島大学では、学部教育以外にも様々な教育プログラムを全学生に提供しています。被災地へのフィールドワークとデータサイエンスを組み合わせたプログラムや、Fukushimaの本当の姿を体験しに来る留学生との交流、商品開発や農業の六次産業化をめざすプログラムなど多彩に富んでおり、地域からも高い評価を得ています。

自分の力で地域を理解し変えようとする力を育成する
地域×データ実践教育推進室

学生の留学を支援し海外留学生との交流を図る
国際交流センター

学校現場と多様な子どもを支援する
学校臨床支援センター

地域と連携して一緒に地域の未来を考える
地域未来デザインセンター

VUCAの時代

予測不能で、不確実で、

複雑で、曖昧な社会

*共創知教育

学部・コースの専門領域を超え、「+α」の新たな専門性を身につけ、より実践的で、より現実根ざした学修を目的とした教育です。協働プロジェクトに発展させることもできます。

学生の就職を支援し将来への見通しを形成する
キャリアセンター

学生の健康を守り健康的な生活をサポートする
保健管理センター

バイオマス由来の水素社会のシステムを築く
水素エネルギー総合研究所

原発事故後の環境研究を推進し世界と共有する
環境放射能研究所

発酵の研究を通して食品の価値を高める
発酵醸造研究所

多様な学生の生活をサポートする
アクセシビリティ支援室

進化7

福島大学では、地域社会の未来に必要な最先端の研究をしています。それらの研究は、教育に還元され、地域社会に実装されることにより、国立大学としての使命を果たすことになります。最近では、水素エネルギー総合研究所が設置され、地域の資源を生かしたエネルギーシステムの研究が始まっています。

研究力を向上させ、

地域とともに未来を創る

※本資料に記載の学士課程改革の構想は、今後、文部科学省等関係者と調整の上、令和8年度に文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査を受ける予定です。なお、構想は審査結果によって確定するものであり、変更の可能性あります。

革新と協働で 様々な課題に取り組む

PICK UP



高齢化・過疎化が進む地方都市で 車に頼らず暮らせる地域公共交通を提案

経済経営学類 吉田 樹 教授
専門：地域交通・観光政策、まちづくり、地域経済

福島大学を選ぶ学生は、社会や地域への貢献意欲が総じて高い特徴があります。私の「地域モビリティ戦略研究室」では、まちづくりの中でも交通政策を研究しています。高齢化社会の中で、車を手放しても暮らしていける移動手段の提案は非常に重要ですし、過度な車社会は渋滞による時間損失や、地球環境面からもマイナスになります。住民の方々に利用していただける公共交通が存在することは、都市や地域の持続性に大きく関わることなのです。

研究室では私が関わっている交通のプロジェクトに学生も参画し、専門的な知識から調査・分析のスキル、その結果を実際の施策に落とし込む社会実装までを、2年半のゼミで経験します。福島県内では会津若松市、いわき市、本宮市で活動しており、仙台市でもまちづくり団体と地元の企業が立ち上げたプロジェクトに関わっています。地域の方々も福島大学に期待や信頼を寄せてくれていますし、大学としても学生たちが地域に出て活動することを後押ししているので、地域で実践的に学んだり、経験したい学生には絶好の環境だと思います。



住民も旅行者も便利に使える公共交通機関

会津若松市の中心部で運行が始まったオンデマンド交通を利用して、地域住民と旅行者の双方が街を楽しむためのクーポンを学生が企画し、協力店舗の開拓などに関わりました。



専門の研究にも広い視野を 与えてくれる環境

様々な専門分野の学生と教授陣がワンキャンパスに集まり、専門を越えて交流しやすい環境は、自分の研究に意外なヒントや気づきを与えてくれます。



東北運輸局と共同で 「おでかけ交通博」を開催

地域公共交通活性化のため、東北6県持ち回りでトークセッションやポスターセッション、開催地でのエクスカッションを開催。その会場設営や運営に関わります。

地域と共に在るために

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故によってもたらされた様々な問題はもとより、人口減少や少子高齢化の問題は震災により10年早まったと言われています。東北を始め、これから日本全体で起こる社会の変容や問題に対応し、福島大学では地域の方々と共に地域の課題解決に取り組むのはもちろん、自治体や企業と協働してこれからの「新しい社会」を実現する研究に取り組んでいます。ここで学び、研究したことを社会に還元し、役立てること———それこそが福島大学がこの地に存在するゆえんです。

PICK UP

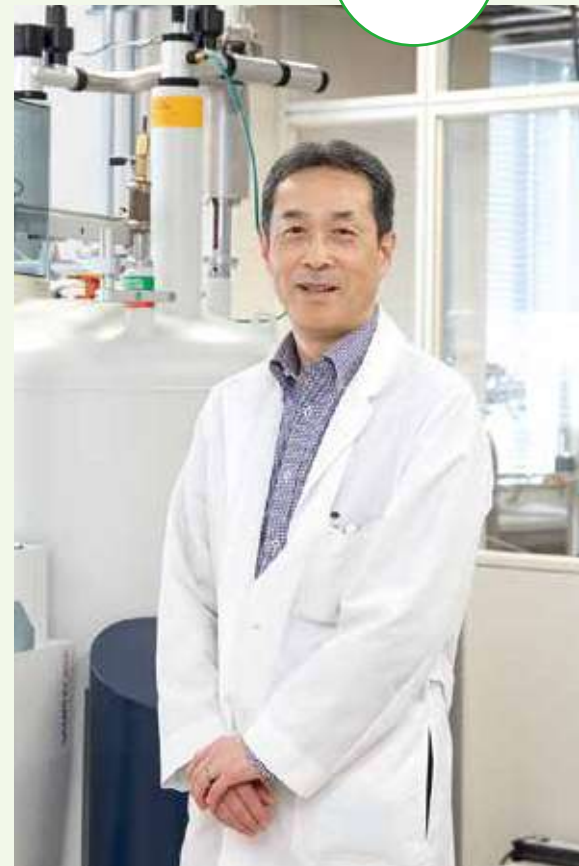
再エネ研究は君たちが主役 最先端の研究に加わって福島・日本の 未来を拓こう

共生システム理工学類 副学類長
水素エネルギー総合研究所 副所長 大山 大 教授
専門：金属錯体化学、触媒化学

私たちの研究室では、自然界にも豊富に存在する二酸化炭素や窒素、酸素、水などを有用な物質に変換する研究を行っており、その変換過程に必要な触媒を開発しています。高校の化学で「金属錯体」という名称で習うハイブリッドな有機・無機複合分子を触媒として設計・合成し、最近では特に水素の利活用を目指した触媒反応の開拓に重点を置いて研究しています。

福島県は福島第一原子力発電所の事故以降、水素を含めた再生可能エネルギーの導入に力を入れ、私たちも県と共に研究を進めてきました。さらに水素を普及させたいという県の強い要望もあり、このキャンパスに水素エネルギー総合研究所を令和6年に開設し、来年度には専用の施設が完成する予定です。当研究所は水素の地産地消を掲げ、福島の豊富な森林資源由来のバイオマスから水素を製造し、輸送コストを下げずに周辺地域に供給するシステムの構築を目指しています。研究所では様々な研究が行われますが、私が所属する「エネルギー貯蔵グループ」では、化学を基盤としてバイオマス由来の水素や炭化物をほかの物質に導入して付加価値を高める研究をメインに行います。

2050年のカーボンニュートラル達成に向け、この分野はこれからますます発展していきます。「水素」を中核に、県や水素関連企業と共に産学官が一体となった最先端の研究に君たちも加わりませんか？



化学実験の体験で 水素をもっと身近に

小中高生や一般市民向けに、水の電気分解や燃料電池の原理がわかる実験を学生とともに実施。将来の研究人材を育成する上でも重要な取り組みです。



金谷川キャンパスは ストイックに研究できる環境！

研究室では日々実験と分析・解析を繰り返しています。金属錯体はわずかな状態の違いで様々な色に変化する視覚的な面白さもあります。



福島、そして日本の未来を支えるプロジェクト

水素エネルギー総合研究所では、理工系だけでなく社会科学系や農学系の教員も加わり、様々なアプローチで水素エネルギーの普及・拡大を模索していきます。

福島、そして世界の課題解決に向けた福島大学の研究

福島国際研究教育機構 (F-REI) への参画

福島国際研究教育機関(Fukushima Institute for Research, Education and Innovation、通称F-REI)の公募事業に福島大学提案事業が採択され、研究が進められています。
令和6年度は4分野7研究が実施され、令和7年度も継続して研究が進められます。福島をはじめ、東北の復興の実現が期待されます。

令和6年度 事業内容

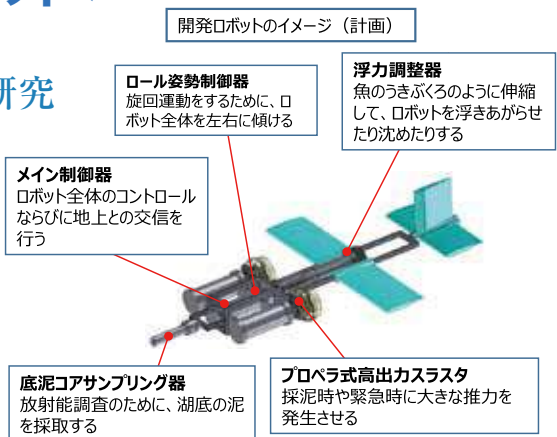
第1分野 ▶ ロボット ◀

◆ 環境放射能動態調査のための水中ロボットの開発とその応用に関する研究

共生システム理工学類: 高橋 隆行 教授(代表)

事業内容

水中の調査活動におけるロボットの活用を図るため、東京電力福島第一原子力発電所事故に起因する環境放射能の動態研究への応用を主として想定し、水深100m程度、淡水での底泥コアサンプリングを行うことのできる水中ロボットを開発する。
具体的な調査対象としては、猪苗代湖ならびに大柿ダム(請戸川)を想定し、岸から投入して自律的にコアサンプリングを行う機能を実現する。

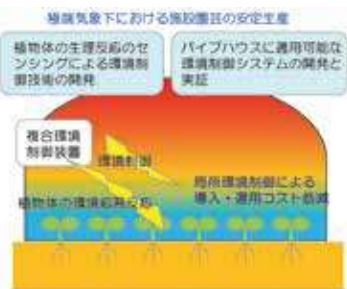


第2分野 ▶ 農林水産業 ◀

◆ 極端気象に適応する次世代型ハウス環境制御技術の開発

食農学類: 深山 陽子 教授(代表)

福島県を含む我が国でもっとも多いパイプハウスを利用した施設園芸をターゲットに、近年発生頻度が高い短期間の急激な気象条件変化に適応可能かつ持続的利用が可能な技術の開発と実証試験を行い、安定した生産と営農の実現に貢献する。



◆ 土壌低分子有機物の植物栄養学的影響の解明

食農学類: 菅波 眞央 特任講師(代表)

有機物の分解産物である低分子有機物が植物栄養における炭素源、窒素源となるという作業仮説を実証し、低分子有機物吸収メカニズムや根圏環境における植物-微生物間の物質輸送を解明し、その制御機構を明らかにする。さらに、植物が低分子有機物を有効利用する施肥条件を解明し、土壌肥沃度の新たな指標として安定生産に寄与する低分子有機物を導入することで、やませなど不安定な天候が懸念される浜通り地域に広がる除染圃場での効果的な農地再生を実現することを目的とする。

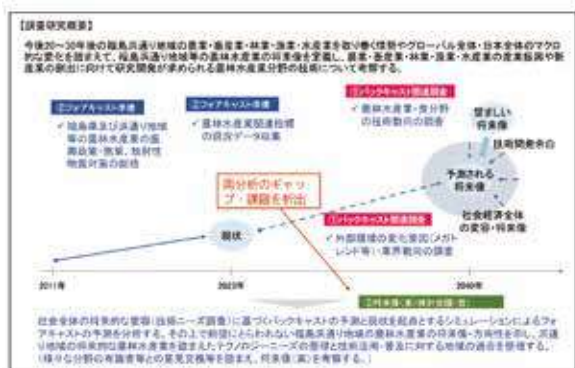


第2分野 ▶ 農林水産業 ◀

◆ 福島浜通り地域等の農林水産業の未来デザイン

食農学類: 小山 良太 教授(代表)

社会全体の将来的な変容(技術ニーズ調査)に基づくバックキャストの予測と現状を起点とするシミュレーションによるフォアキャストの予測を分析する。その上で前提にとらわれない福島浜通り地域の農林水産業の将来像・方向性を示すため、様々な分野の有識者等との意見交換等を踏まえ、将来像を考察し、浜通り地域の将来的な農林水産業を踏まえたテクノロジーニーズの整理と技術活用・普及に対する地域の適否を整理する。



◆ 果菜類収穫作業の軽労化につながる協働ロボットの開発及び新たな協調作業体系の構築

食農学類: 窪田 陽介 准教授(代表)

ピーマンの露地栽培における収穫作業について、作業姿勢や心拍指数から作業負担を評価し、収穫ロボット導入による協調作業体系の構築による負荷軽減の方策について検討する。その方策を踏まえて、露地栽培におけるピーマンの選択自動収穫を実現する新たな要素技術の開発と収穫ロボットの設計・製作を行う。また、本研究で作成するピーマン植物体モデルを配置した限定環境下において、年間を通したロボット性能評価試験の実施が可能となり、露地栽培における収穫ロボットに適した新しい栽培方法、環境、作業体系を構築する。

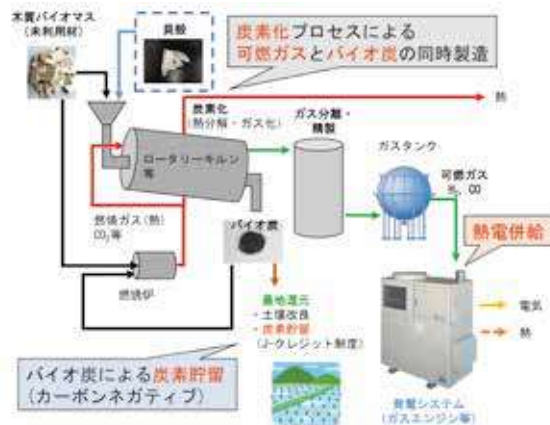


第3分野 ▶ エネルギー ◀

◆ 浜通り地域の資源を利活用した高効率・循環型ネガティブエミッション・地産地消システム

共生システム理工学類: 浅田 隆志 教授(代表)

未利用材等のバイオマスの炭化プロセスにおいて生成する水素や一酸化炭素等の可燃ガスを燃料としてガスエンジン等を用いて熱電供給するエネルギー利用システムを開発し、さらに、炭化プロセスにおいて同時に製造されるバイオ炭を農地施用することにより炭素貯留するネガティブエミッション技術を構築する。



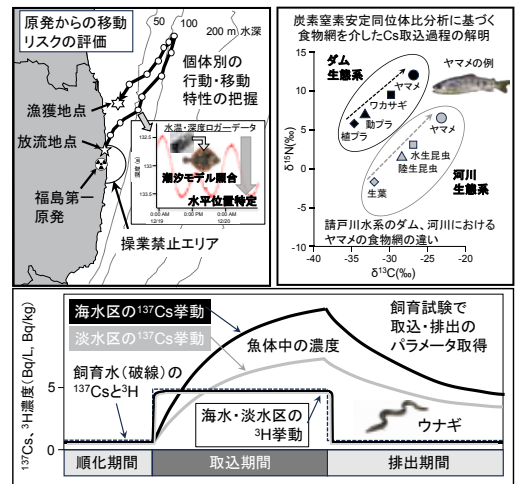
第5分野 ▶ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信 ◀

◆ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信 (放射性物質の魚類への取込・排出メカニズム)

環境放射能研究所: 和田 敏裕 教授(代表)

事業内容

原発事故からの時間経過とともに、放射性セシウムの基準値(100Bq/kg)を超える水産物の割合は低下している。一方、原発周辺の水域に生息する一部の魚類では、基準値を超える事例も報告されている。本事業では、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信の一環として、放射性物質の魚類(海水魚及び淡水魚)への取込・排出メカニズムを多面的なアプローチで解明することにより、水産物の安全性の評価などに必要となる科学的な知見を整理する。



正解のない問いに チャレンジ



自分を知る

自分自身のことを知る

福島大学が大切にしているものの一つに「自己の振り返り」があります。自分自身の長所や特徴を知ることが、学びと自立の第一歩だと考えるからです。自分はどんなことが得意なのか、特に何に関心があるのかを客観的に見つめることは、自分がどんな社会を創造したいのか、その未来にどんな方法で関わっていきたいのかに気づききっかけにもなります。

在学中はセメスターごとに学修目標を自分で設定し、どのような能力を伸ばすのか、どのように伸びたか「見える化」し、自己評価(振り返り)を行います。この一連のサイクルを4年間繰り返すことで、学びと自己研鑽を深化させ、自身の取り組むべき課題を発見することができます。

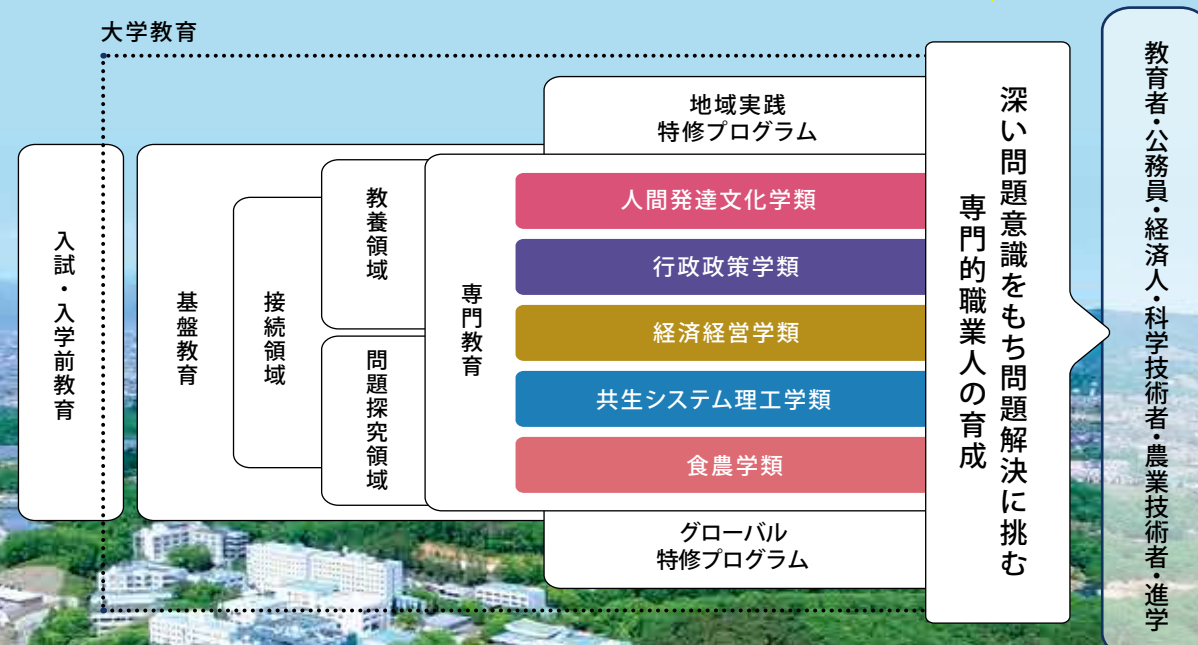
未来を考える

自分の、地域の、世界の未来を想像してみよう

皆さんが「未来」を考える土台を形成するために、本学では高校までの学びと大学での学修をつなげる教育体系として、「基盤教育」を充実させています。大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身につけるための「接続領域」、幅広い教養の基礎を形成する「教養領域」、現実の問題をフィールドワークやグループ学修を通して解きほぐしていく「問題探究領域」を設定し、現状を分析する力や問題解決のための能力を丁寧に育みます。そして文系・理系を問わず、分析や問題解決のツールとしての基礎的な数学や理工学を理解し、社会に有益な知見を引き出すデータサイエンス教育にも力を入れています。

未来をつくるのは、皆さん一人ひとりの力です。自分が何をしたいのか、何ができるのか。地域や世界で、どんな未来を創造しているのか。福島大学でともに考え、学んでいきましょう。

福島大学における教育体系のイメージ



福島大学でしか学べないことを学ぶ！

福島県は、2011年3月、東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故に見舞われ、甚大な被害を被り、「Fukushima」は世界に知れ渡ることとなりました。

福島大学は東日本大震災以降、被災地のフィールドワークや地域おこし、再生可能エネルギーなどの人材育成に取り組み、ユニークな教育を進めてきました。

世界も、日本も、地域も、大きな変化の中にあり、たくさんの課題を抱え、容易に「答え」を導き出せない問題に満ちあふれています。福島大学は「正解のない問い」にチャレンジする学生を育てる教育を創造します。

1 入学から卒業まで、手厚く教職員がサポートします。



入学前教育—入学後のサポート—授業・学修—サークルやボランティア—留学などの各種活動—就職支援—卒業研究、などの4年間の学生生活を、一貫した体制でサポートしていきます。これによって、誰でも目標に向かって意欲的に大学生生活を送ることができ、さまざまな活動にチャレンジできます。

2 情報教育を実践的に変えていきます。



現代の情報化社会にふさわしい教育体系に変えていきます。各自がパーソナルコンピュータを通して、学内外のさまざまな情報にアクセスし、情報の収集や分析、まとめ、プレゼンテーションを実践します。21世紀の読み・書き・計算を身につけます。

3 初年次の基盤教育を充実させます。



1年次生が学ぶ初年次教育(教養教育)は、本学独自の教育体系です。高校までの学び(教科書に書かれた知識を学ぶ)を大学での学修(自ら主体的に学ぶ)につなげる教育体系として「基盤教育」を充実させました。入学後、大学での学びを身につけるためのスタートアップとしての「接続領域」、幅広い教養の基礎を形づくる「教養領域」、現実の問題をフィールドワークやグループを通し、時には一人で、時には学生間で意見を交わし課題を深く掘り下げ、そして解きほぐしていく「問題探究領域」が設定されています。

4 地域に学ぶ活動を強化します。



地域は多様な課題を抱えています。「地域実践特修プログラム」の「ふくしま未来学」を中心として、本学で学べる地域学修を広げ、地域の現状に触れ地域で活動する学修を増やし、問題探究・問題解決の力を伸ばします。

5 身につけた力を「見える化」します。



科目や科目群の学修目標を明示して、どのような能力を伸ばすのか、どのように伸びたのかを情報技術を使って「見える化」します。アクティブラーニングや実践的な学修を取り入れ、学生の学びを活性化させます。

6 グローバル教育を充実させます



学類を超えて、語学教育をグレードアップし、欧米圏やアジア圏との国際交流の機会や、海外留学を希望する学生にさまざまな情報や機会を提供します。

7 キャリア教育と就職支援を強化します。



本学で先進的に取り組んできたキャリア教育をさらに発展させます。自治体や企業との連携を強化し、インターンシップの機会や就職支援を充実させて、就職に強い人材、社会に出て魅力的な仕事ができる人材を育てていきます。

足とデータで **地域** の未来をひらく力を 「地域×データ」 実践教育推進室

2023年4月、福島大学では教育推進機構内に「地域×データ」実践教育推進室を新たに設置しました。

「地域×データ」実践教育推進室は、地域の現場に根差しながら課題を実証的に発見・分析・解決する力を身につけ、地域におけるEBPM（Evidence Based Policy Making：証拠に基づく政策立案）に精通した人材の育成をミッションとし、全学的な実践教育プログラムである「地域×データ」実践教育プログラムの開発・運営を行っています。

「地域×データ」実践教育プログラム

全学を対象とする「地域×データ」実践教育プログラムは、「地域×データ」実践教育推進室開講科目など基盤教育科目と、各学類の専門科目によって構成されています。

本プログラムでは、「むらの大学」「自主学修プログラム」などのフィールドワーク科目による地域実践教育と「福島大学『解のない問い』に挑むデータサイエンス教育プログラム」などのデータサイエンス実践教育を掛け合わせ「地域へのかかわりを基礎として、地域の課題を科学的に捉え、その解決に向けた主体的な取組ができる個人」の育成を目指します。

また、本プログラム対象科目を履修し、必要な単位数を取得した学生に対しては、大学卒業時にプログラム修了を認定します。

「地域×データ」実践教育プログラムの目指す人物像

地域へのかかわりを
基礎として

地域の課題を
科学的に捉え

解決に向けた
主体的な取組ができる

「地域×データ」実践教育プログラム 履修基準表

領域・科目区分		開設科目等	必修	要認定 単位数
基盤教育	スタートアップ科目	社会とデータ科学の基礎	2	12
	学術基礎科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	—	
	問題探究科目	問題探究セミナーⅠ	2	
		ふくしま未来学入門Ⅰ・Ⅱ	2	
		むらの大学Ⅰ・Ⅱ	—	
		データ分析入門、福島の地域データ、データサイエンス実践演習	—	
		EBPM入門、地域課題と探究指導、地域課題とビジネス、地方と若者	—	
専門教育	自主学修プログラム（地域実践）		—	12
	問題探究科目	問題探究セミナーⅡ	2	
	学類専門科目	「地域×データ」実践教育プログラム科目	—	
上記の基盤教育または専門教育から				6
「地域×データ」実践教育プログラム修了認定に必要な単位合計				30

※「地域×データ」実践教育プログラム科目など、プログラムの詳細は学修案内やシラバスを参照してください。

データサイエンス実践教育

データサイエンス実践教育では、積み上げ式と地域における実践を重視した教育を展開しています。

「『解のない問い』に挑むデータサイエンス教育プログラム」を構成する3科目を中心としながら、学生の関心に合わせた多数のデータサイエンス科目を開講しています。



社会とデータ科学の基礎（1年・前期）

- 調査の方法論やデータサイエンス・AIの応用事例をとおして、データを構築したり、適切なデータ分析を行ったりするために必要な基礎的な考え方やスキルを学ぶ授業です。
- 質的調査と量的調査の基礎を学修できるほか、学生の専門分野に応じて各学類で数理・データサイエンス・AIの応用事例に関する講義を開講しています。
- 2023年度より全学類の1年生を対象に必修化しています。



データ分析入門（1年以上・後期）

- 科学的な考え方を学ぶとともに、実際に自ら手を動かすことでデータ分析の基本を学ぶ授業です。
- 自らの手でデータを可視化・分析できるよう、福島県に関するデータなどを用いた演習を中心とした授業となっています。
- より多くの学生が受講できるよう定員枠を拡大しています。



データサイエンス実践演習（2年以上・後期）

- データサイエンティストに求められる基礎スキルとビジネス現場での活用事例を学び、さらにプロジェクト型演習を通じてデータ分析を活用した課題解決・提言の一連の流れを経験し、理解を深める授業です。
- 福島県内の自治体から実際のデータを提供していただき、地域の課題解決に向けた一連のプロセスをプロジェクト型学習の形で学ぶことができます。



MDASH
Literacy
Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education

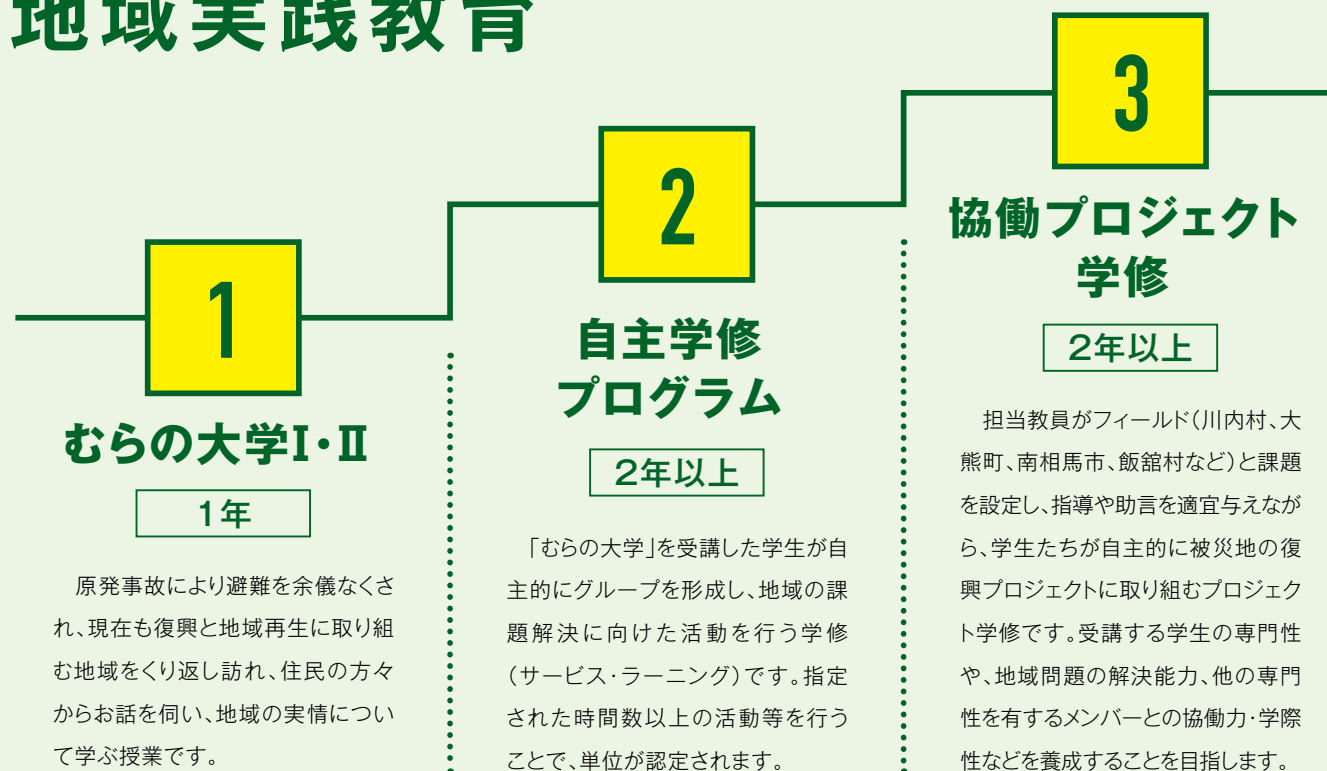
「社会とデータ科学の基礎」「データ分析入門」「データサイエンス実践演習」は「『解のない問い』に挑むデータサイエンス教育プログラム」として文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されています。

その他の主な開講科目

上記3科目以外にも、データから地域を学べる多彩な科目を開講しています。学生それぞれの関心に応じた多様な科目を、地域における実践を重視した内容で展開していきます。

- 福島の地域データ（全学年・前期）
- 地方と若者（全学年・前期）
- EBPM入門（3年以上・前期）
- 地域課題とビジネス（3年以上・前期）
- 地域課題と探究指導（3年以上・夏季集中）

地域実践教育



学内では

ふくしま未来学入門I・II

全学年

- 東日本大震災と福島第一原発事故が、人々にどのような影響をおよぼし、復興に向けてどのような取組がなされているのかを、福島大学の全5学類ほかの教員や多彩なゲスト講師から学ぶオムニバス形式の講義です。
- 現場での実体験を聞くという地域実践的な学びに加え、数値データを活用した学びの観点を取り入れています。

むらの大学I・II（1年）

原発事故からの復興に取り組む地域（川内村、大熊町、南相馬市小高区、飯舘村）をくり返し訪れ、住民の方々からお話を伺うインタビューとアーカイブ（記録を残す）活動や地域イベントのお手伝いなどを通じて、地域を深く学ぶ授業です。

より多くの学生に地域に足を運んでもらえるよう、定員枠や地域の拡大、スポットプログラム「むらの大学（滞在型）」の新設を行っています。

※フィールドワークにかかる自己負担費用は原則、食費程度です。



自主学修プログラム・協働プロジェクト学修（2年以上）

学生が被災地で課題を発見し、自主的に復興に取り組むプロジェクト学修です。文系・理系の5学類が1つのキャンパスに集まる総合大学の強みを活かし、異なる専門性を持つ学生と協働しながら課題解決を図ることで、実践的な力を身につけます。

主なプロジェクト例

- 地域の特産品を使った六次化商品の開発
- 祭礼やイベントの支援活動とアンケート分析
- 除染土処分に関する学生ワークショップ
- 農地・農作物の放射性セシウム移行調査
- 被災地での教育環境を考える など



みらいバス

地域と大学をつなぐ「みらいバス」は、学生・教職員を対象とした日帰りのスタディツアーです（参加費は原則無料）。授業以外で地域を訪問するきっかけをつくるため、年間10回程度実施しています。被災地域の訪問・見学やボランティア活動を通じ、それぞれの地域の現状を学びます。

主な行き先

- 東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉郡双葉町）
- 震災遺構請戸小学校（双葉郡浪江町）
- 大野駅および周辺市街地、中間貯蔵施設（双葉郡大熊町）など



アーカイブ

Archive

「むらの大学」の授業で、学生たちは地域住民の方にインタビューを行い、記録をまとめた小冊子を作成します。原稿の編集作業や追加取材、ご本人への確認なども全て学生たちの手で実施します。

小冊子に加え、インタビュー全文をホームページにアーカイブとして公開しています。

<https://region-data.net.fukushima-u.ac.jp/archive/>

インタビュー全文はこちらから▶



世界で学ぶ

国際交流

福島大学には、多彩な国際交流の機会が用意されています。
多くの留学生が在籍しているのも本学の特徴。国際交流は、キャンパスの中からはじまっています。

今の自分から一歩前へ パディ制度

活動期間：数日～6ヶ月程度

海外に留学してみたいけど不安がある。身近な場所で語学力を試したい。そんな皆さんに対応できるよう、福島大学には協定締結大学から来る交換留学生・短期留学生達のサポートをする「パディ」制度があります。パディとして留学生達と関わることで、彼らの文化を直接感じ、福島にいながら国際交流ができます。グローバル人材へのファーストステップとして貴重な機会となります。



多彩なプログラムで世界を学ぶ 短期研修・演習

実施期間：10日～5週間

長期休暇を利用して行う短期研修・演習では、海外の協定締結大学で語学を学んだり、フィールドワークを体験したりできます。例えば、コロラド州立大学ではアメリカの放射線研究について学ぶことができます。このほか韓国、中国、台湾、カナダ、オーストラリア等での語学研修など、多彩なプログラムが用意されています。



協定締結大学への長期留学 交換留学

派遣期間：半年または1年

大学間交流協定に基づき、海外の38大学と学生交流協定を締結し、「交換留学」を実施しています。「交換留学」とは協定締結大学への長期留学で、福島大学のみに学費を納める必要がある留学を指します。国際交流センターが留学先との調整役を務めるので、留学の準備から留学中の相談、帰国後の単位の互換まで、さまざまな手続きも安心して行うことができます。



海外で働くために必要なことを学ぶ 海外インターンシップ

実施期間：約2ヶ月

海外インターンシップ講座「WEA」は、「実際の現場で英語を使うことにより実用的な英語を身につける」がテーマです。海外で仕事をするには何が必要なのかを考えながら、海外で働くためのスキルや知識を学びます。長期休暇中に渡米して、現地でのインターンシップを行います。

例
Real English Business Internshipプログラム
(テキサス・ヒューストンでの8週間のインターン)など



専門家の指導も受けられる 語学力強化

開催期間：毎日(月曜～金曜)

英語圏への交換留学などを目指す学生に求められるのが、IELTS™やTOEFL®などの語学試験で目標スコアをクリアすることです。福島大学では、少人数制の語学力強化プログラムや、語学試験のコーチングで語学力アップをサポートしています。中でも国際交流センターが提供する「C1 Project」は、語学試験対策の専門家によるきめ細やかな受験指導に人気が集まっています。



奨学金制度について

「留学の費用に不安がある」という方も安心してください。福島大学には経済的な負担軽減を目的とした給付型の奨学金制度が準備されています。2024年度は、交換留学、短期研修、海外インターンシップに参加した多くの学生が奨学金を受給しました。

詳しくは、国際交流センターに
お問い合わせください！

交換留学

国際色豊かなアメリカの大学に身を置き、 政治や政策が社会に与える影響を実感

行政政策学類 地域社会と文化コース 4年
[宮城県立白石高等学校出身]

一條 紗矢香さん

留学先 オザークス大学[アメリカ]
(2024年8月22日～2025年5月14日)
※学年は取材当時のものです。



日本の政治や行政を専門的に学ぶ中で、国によって、政治制度や政治決定のプロセスにどのような違いが有るか興味を持つようになりました。アメリカは多様な人種や文化を持つ人々が共存しているため、どういった政策が形成・運営されているのか現地で学ぶことで、日本の行政との比較を深めることができると考えました。

2025年の春学期では、4つの授業を履修しており、アメリカの政治体制の歴史や、選挙制度の仕組みについて学んでいます。アメリカは三権分立が明確となる大統領制を採用し、連邦政府と州政府の権限が分かれる独特の体制を敷いている点や、それぞれの州や地域のニーズに応じた政策が展開されている点も、日本の政治体制とは異なる特徴です。こうした違いを実際に現地で学ぶことで、日本の制度をより客観的に捉えられるようになりました。

アメリカの大学では、ディスカッションが重要視される特徴があります。学生が積極的に意見を述べ、活発に教授との議論が交わされています。英語で自分の考えを伝えることに大変苦労しましたが、徐々に自信がついてきました。オザークス大学は少人数制の授業が多く、教授との距離が非常に近いことも魅力の一つです。多くの教授が学生の学びを支援するために個別相談の時間を設けており、課題や授業内容について直接指導を受けることができます。また、約800人の学生のうち、約200人は26カ国以上からの留学生です。そのため、国際色が豊かで、アットホームな雰囲気

が特徴です。週末には、現地の学生や他の留学生と大学周辺をサイクリングしたり、ボランティア活動に参加したりしています。異文化の中で生活するには、柔軟な考え方や積極的な姿勢が必要です。

今後は、アメリカでの留学経験を生かし、日本と海外との政治制度や行政の違いを取り入れた、より良い多文化共生が可能となる政策の立案に貢献したいと考えています。

福島大学では、英語で行われる講義を積極的に履修し、英語力の向上に努めました。留学を決意した3年次からは、国際交流センターで開催されているC1 Projectに毎日参加しました。また、日頃から海外のニュース番組や英語のポッドキャストを聞くことで、日常で使われる英語に触れるようにしました。

現在、アメリカ社会全体で、政治に関する議論がより活発になっていると感じます。このような環境の中で学ぶことで、政策が社会に与える影響をより実感できるようになりました。



Fukushima Ambassadors Program

2012年にスタートした本プログラムは、これまでのにべ680人以上の福大生が世界各国17大学の留学生と共に、福島「過去」「現在」「未来」について学んできました。震災経験者の講話、福島第一原子力発電所の視察、研究所や農地などでの実地研修、地域の復興を支援する体験活動など、多面的・多角的かつアクティブなアプローチで参加者の理解を深めます。本プログラムに参加することで、留学生をサポートしながら、他の参加者との協働学習を通じて、地域の国際アンバサダーとなり、世界からみた福島イメージ変革にも貢献できます。きっと一生の友人もできることでしょう！



Fukushima University International Center

国際交流センター

平日 9:00～12:30 / 13:30～17:00



福島大学国際交流センターは、国際交流の窓口として学生の皆さんのサポートや、情報発信を行っています。ここでは、本学と学術・学生交流協定を締結している大学の情報や、留学の報告書などを閲覧することもできます。また、留学や語学学習に関する図書の貸出や、希望者には語学試験対策も提供しています。留学に関わる生活や学習の相談、在留資格、地域のイベント案内、手続きなども確認することができます。



文化や歴史を学び
人を育て
地域を支えたい

生涯を通じた学びや
人の成長を支える人材を育成

人間発達文化学類

Faculty of Human Development and Culture

コース

- ▶ 教育実践コース
- ▶ 心理学・幼児教育コース
- ▶ 特別支援・生活科学コース
- ▶ 芸術・表現コース
- ▶ 人文科学コース
- ▶ 数理自然科学コース
- ▶ スポーツ健康科学コース

学びのキーワード

学校教員	教育
心理学	幼児教育
発達支援	生活科学
音楽	美術
言語・歴史・文化	学校教員
自然科学	数学
健康	地域貢献

想定される
将来の活躍フィールド

- 保育士・幼稚園教員
- 小・中・高校教員
- 社会教育主事
- 学童保育指導員
- 医療・福祉関連
- 専門コンサルタント など

学類の
HPはこちら



詳しくは
P.23

持続可能な
地域づくりに
貢献したい

「地域・自治の時代」のニーズへ
学際的に取り組む

行政政策学類

Faculty of Administration and Social Sciences

コース

- ▶ 地域政策と法コース
- ▶ 地域社会と文化コース
- ▶ 夜間主(社会人教育)

学びのキーワード

自治	まちづくり
地域社会	地域活性化
地域問題	社会福祉
考古学	法律

想定される
将来の活躍フィールド

- 国家公務員
- 地方公務員
- 教員(公立学校、私立学校)
- 司法書士・行政書士
- 法人職員 など

学類の
HPはこちら



詳しくは
P.33

経済・経営の世界で
グローバルに
活躍したい

グローバルな視野で
経済社会をリードする人材を創出する

経済経営学類

Faculty of Economics and Business Administration

コース

- ▶ 経済学コース
 - 経済理論モデル
 - グローバル経済モデル
- ▶ 経営学コース
 - 地域経営モデル
 - 会計ファイナンスモデル

学びのキーワード

経済理論
地域経営
地域経済
ファイナンス
グローバルEP

想定される
将来の活躍フィールド

- 公共機関・各種団体
- 金融機関
- 鉄道・航空・観光
- エネルギー
- 建設・不動産 など

学類の
HPはこちら



詳しくは
P.45

理工系人材として
21世紀的課題を
解決したい

21世紀の課題を
「共生の科学・技術」で解決する

共生システム理工学類

Faculty of Symbiotic Systems Science

コース

- ▶ 情報理工学コース
- ▶ メカトロニクスコース
- ▶ 分子デザイン科学コース
- ▶ 環境システムコース

学びのキーワード

数学	再生可能エネルギー
情報工学	水素エネルギー
ソフトウェア	省エネ・創エネ・蓄エネ
経営工学	マネジメント
企業等の経営	計画
ものづくり	生態学
物理・機械・電気	生物保全
生体・メカトロニクス	地球科学
生理学	持続可能性
心理学	地球温暖化
心と脳	気候変動緩和策・適応策
化学	進化・系統
先端材料	文理融合
新素材開発	放射線科学

想定される
将来の活躍フィールド

- 大学院進学
- 情報通信・ソフトウェア関連企業
- 製造業・家電・自動車関連企業
- 医療・福祉関連企業
- 化学・エネルギー・流通関連企業
- 水・環境・防災・建設関連企業
- 国家・地方公務員
- 中学・高校教員、学芸員 など

学類の
HPはこちら



詳しくは
P.55

現場と共に
食と農の課題解決に
取り組みたい

主体的・創造的に対応する
地域リーダーの育成

食農学類

Faculty of Food and Agricultural Sciences

コース

- ▶ 食品科学コース
- ▶ 農業生産学コース
- ▶ 生産環境学コース
- ▶ 農業経営学コース

学びのキーワード

食品加工学	稲作学
栄養	農業経営
発酵・醸造	地域農村社会
地域の食の伝統	農業経済
作物栽培	生産資源
農業生産	森林・農地・水環境
農業被害管理	里山管理

想定される
将来の活躍フィールド

- 食品関連企業
- 農業生産法人
- 農林技術系公務員
- 農業・農村起業家
- バイオマス関連企業 など

学類の
HPはこちら



詳しくは
P.65



人間発達文化学類

Faculty of Human Development and Culture



子どもたちに寄り添い、
成長を支える学校教員や、文化を通じて、
地域の人々を支える人を養成します。

学類紹介MOVIEを
チェック!



■ 教育実践コース

■ 人文科学コース

■ 心理学・幼児教育コース

■ 数理自然科学コース

■ 特別支援・生活科学コース

■ スポーツ健康科学コース

■ 芸術・表現コース



こんな人に学んでほしい

- 保育士、幼稚園や小学校・中学校・高校・特別支援学校の先生になりたい人
- わかりやすく教えられる先生になりたい人
- 人間の心理や行動の不思議について学びたい人
- 現代生活に関わる衣食住や生活経営について学びたい人
- 音楽や美術について学びたい人
- 日本・アジア・欧米の言語や文学について学びたい人
- 地域や世界の地理・歴史・経済・社会・思想について学びたい人
- 数理科学や自然科学について学びたい人
- スポーツ科学や健康科学について学びたい人

SHINING GRADUATES



社会で
活躍する
卒業生

Interview

いわき市立平第五小学校
人間発達文化学類 人間発達専攻 教育探究クラス 2021年卒業

佐久間 勇気さん

※勤務先は取材当時のものです。

子どもの目線に立って 考えることのできる先生に

入学当初は高校の日本史の先生を志望していました。大学に入ってから小学生と関わる機会が多く、学びの一番最初である小学生に関わる楽しさを感じて小学校の先生になりました。大学1年生の時に、小中学生が参加する自然体験のキャンプを0ベースから企画する自然体験実習は、大きな転機となりました。この経験をきっかけとして、県内各地の学校を見学したり、学習支援のボランティアなどで様々な子どもたちと関わったりできたことは、福大に入っての一番の収穫でした。また、仲間と立ち上げた学習支援のサークルでは、年齢や興味関心の違う子どもたちどう関われば一緒に成長していけるのかや子どもたちの関係づくりを学ぶことができました。そのことは今の教室での関係づくりにも活きていると思います。ゼミでお世話になった坂本先生とは



随分一緒に飲みましたし、今も相談に乗っていただいています。

今でも深く心に刻んでいる言葉は、教育実習の時に指導教員の先生がおっしゃった「子どもの目線に立ちなさい」という言葉です。今年で3年目、今後も目の前にいる子どもたちが何を考えどう感じているのかを考えながら、子どもたちと向き合っていきたいと思っています。

卒業後の 主な進路

- 保育士
- 幼稚園教員
- 小・中・高校教員
- 特別支援学校（盲学校・聾学校・養護学校）教員
- 社会教育主事
- 児童館専門員
- 学童保育指導員
- 塾講師
- 国家公務員
- 地方公務員
- 専門コンサルタント
- 医療・福祉関連
- 一般企業
- 英会話講師
- NGO職員
- 銀行員
- SE、マスコミ・出版業
- 旅行・サービス業
- 不動産業
- 商社・企業（国際交流・海外事業担当）
- 社会人教育サービス
- 大学院進学 など
- 音楽教室講師
- 音楽サークル指導者
- イベント企画者
- 劇伴・コマーシャル音楽制作者
- 印刷・広告業
- イラストレーター
- インテリア用品デザイナー
- スポーツ選手
- スポーツ指導者
- フィットネスクラブ
- マスコミ・出版業（スポーツ分野）
- スポーツマネジメント業
- 健康増進産業 など

カリキュラムの特長

コース専門プログラム制による確かな学力と実践的な応用力の形成

人間発達文化学類では、生涯にわたる人間の発達を個人・社会・文化との関わりにおいて支援していく人材の養成を目指しています。学類生は、自らの興味・関心や目指す進路に応じて、1年次からいずれかのコースに所属し、各コースの用意するプログラムを選択して学んでいきます。それにより、専門に関する確かな知識・技術と実践的な応用力を身につけることができます。**公認心理師および保育士・幼稚園教員は心理学・幼児教育コースで、特別支援学校教員は特別支援・生活科学コースで、小学校・中学校・高等学校教員は全コースで養成しています。**

学士号と
取得できる
教員免許・資格

- 学士(発達文化)
- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状 ※1
(国語/社会/数学/音楽/美術/保健体育/英語/理科 ※2)
- 高等学校教諭一種免許状 ※1
(国語/地理歴史/公民/数学/音楽/美術/保健体育/英語/理科 ※2)

- 特別支援学校教諭一種免許状 ※3
- 社会教育主事(基礎資格) ※4・社会教育士
- 保育士 ※5
- (公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 ※6
- 社会福祉主事(任用資格) ※7
- 公認心理師 ※8

※ 1 家庭科については令和7年度以降の入学生は取得できません。
※ 2 理科については他学類で開講されている授業の単位を取得する必要があります。 ※ 3 特別支援学校教諭の免許状は単独では取得できず、小学校、中学校、高等学校及び幼稚園教諭免許状のいずれかを併せて取得しなければなりません。
※ 4 必要単位を修得し、卒業後1年以上の社会教育主事補あるいは5年以上の学校教員などの教育関係職に従事することが必要です。
※ 5 15名の定員があります。心理学・幼児教育コースに所属する学生のみ取得可能です。他のコースに所属する学生は取得できません。同時に取得可能な免許は幼稚園と小学校の教員免許のみです。
※ 6 指定する科目を修得することにより「スポーツリーダー」資格を取得できます。また各種スポーツ指導者資格の取得に必要な講習の免除資格が、指定された科目を修得することにより取得できます。この制度は、スポーツ健康科学コースに所属する学生が対象となります。
※ 7 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。
※ 8 国家資格「公認心理師」の受験資格取得に必要な科目を開講します。公認心理師の受験資格取得に必要な学類の科目を全て履修するためには、心理学・幼児教育コースに所属する必要があります。
また保育士資格や教員免許を同時取得することはできません。実習先の受け入れ可能数を超える場合には選考することがあります。最終的な受験資格取得のためには、大学卒業後に大学院への進学または認定施設での実務経験が必要となります。
なお、編入学・学士入学生で入学された方は、公認心理師の資格取得はできません。

		1年次 		2年次 		3年次 		4年次 								
学びの目標		発達・文化のリテラシー(基礎・基本)を学ぶ 学びのプログラムを選択する		発達・文化の専門的な知識・技術を学ぶ 問題解決型学習の基礎を学ぶ		自ら課題を立て、専門的知識・技術を活用して課題を 解決するなかで、専門的知識・技術の実践力を身につける		専門的知識・技術をさらに深めるとともに、 学びの集大成である卒業研究を完成させる								
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター							
専門教育		小・中・高教員は 全コースで養成		学類・教養科目	コース専門科目以外の学類科目を履修することで、発達・文化に関する学びの幅を広げる											
							卒業研究科目	■ 卒業研究基礎演習	■ 卒業研究演習	■ プレゼンテーション演習	■ 卒業論文					
		コース専門科目	教育実践コース		・日本教育史 ・教育課程論		・社会科学習指導論 ・子どもと特別活動		・教育と社会 ・数学科教育法Ⅰ・Ⅱ		・国語科教育法Ⅳ ・生活科学習指導論		・生涯学習社会と学校・家庭・地域 ・外国の教育			
			心理学・幼児教育コース		・知覚・認知心理学 ・幼児発達心理学		・発達心理学 ・保育内容(人間関係)		・心理学的支援法 ・保育内容(表現Ⅰ・Ⅱ)		・障害者・障害児心理学 ・保育カリキュラム論		・公認心理師の職責 ・総合表現(劇)			
			特別支援・生活科学コース		・知的障害者教育課程論 ・知的障害者の行動観察とアセスメント		・重複障害・軽度発達障害教育総論 ・食物理学		・生活経営学 ・知的障害者学級経営論		・知的障害者の心理・生理・病理 ・人間と衣服		・住生活学 ・食品加工学概論及び実習			
			芸術・表現コース		・器楽演奏研究 ・彫刻		・指揮法研究 ・絵画		・音楽史 ・映像メディア論		・声楽アンサンブル ・美術史		・ピアノアンサンブル ・芸術学		・音楽科教育法 ・美術科教育法	
			人文科学コース		・日本古典文学演習 ・日本語の変異		・自然災害と人間 ・日本史史料講読		・英語学概論 ・初期近代英米文学		・英語学演習 ・英米文学演習		・現代日本経済論 ・ヨーロッパ古代・中世史		・書道	
数理自然科学コース		・代数学Ⅱ ・幾何学Ⅱ		・確率論・統計学 ・理科学習指導論		・理科の実験指導 ・代数学統論		・幾何学統論 ・物質化学		・生命環境の科学 ・地球惑星の科学						
スポーツ健康科学コース		・スポーツ運動学 ・スポーツと文化		・体力トレーニング ・スポーツ政策論		・運動処方 ・健康科学演習		・野外活動 ・生理学		・コーチング論 ・スポーツ医学						
基盤教育		接続領域		・スタートアップ科目 ・ライフマネジメント科目												
		教養領域		外国語コミュニケーション科目								アドバイザー教員 学修や進路など大学生活全般のアドバイスをを行います。 下記の担当教員をアドバイザーとする小集団教育を行います。				
				学術基礎科目		健康・運動科目	情報科目					1年次前期 スタートアップセミナー教員 1年次後期～3年次前期 問題探究セミナー教員 3年次後期～4年次 卒業研究指導教員				
				外国語科目												
						キャリアモデル学習		教職入門								
				・問題探究セミナーⅠ		・問題探究セミナーⅡ										
		問題探究領域		問題探究科目		自主学修プログラム										
自由選択		自らの興味・関心にしたがって、基盤教育及び学類内外の科目から選んで履修する														





主体的で実践的な学びを通して、
「成長を支えられる人」を目指します

「人の成長を支える専門家を育てる」ことを目標に、人間の発達を支援する教育や文化に関する基礎的・専門的知識、技術を学びます。それらを基盤に、社会における現代的、地域的課題解決に、実践的に取り組むことのできる人を養成します。学類生は、1年次から7つのコースに所属し、学類基礎、学類専門、学際・教養、卒業研究のカリキュラムを通じて学んでいきます。また、より深い学びと経験ができるコース専門プログラムを設置しています。

学類長 メッセージ

Message

人間の発達と文化に関する学びを
追究し、自分を高めよう

人間発達文化学類という名前から皆さんは何をイメージしますか。たしかに少しわかりにくいかもしれません。ここでいう人間の「発達」とは、誕生から死までの生涯にわたる成長の過程を指します。また「文化」とは、人間が生み出してきた知識・信仰・芸術・法や生活習慣の総体であり、社会の基盤をなすものです。つまり、本学類は、社会との関わりから人間の成長を支える条件を追究すること、そして人間がよりよく生きること支援する人材を育てることを目的としているのです。

この目的を達成するためには、幅広い分野の学びが欠かせません。本学類には、人文・社会・自然の諸分野を網羅した多様なコースが用意されています。皆さんは自分の関心や進路にあわせてコースを選択し、そこからさらに専門に特化したカリキュラムを自分で選ぶことができます。

人間発達文化学類でしかできない学修と実践を、そして自己を高める挑戦を——そう願っています。



人間発達文化学類長 牧田 実 教授



1年前期

自然体験実習

☑ 伝える力、聴く力、そして企画力が身につく。

小中学生が参加する「自然体験学校」を企画運営します。8月の本番に向けて、仲間とともに企画を考え、話し合い、準備する中で、考えを伝える力や聴く力、企画力が身につく、子どもとの関わりイメージがつかめるとともに、多くの仲間を得られます。

2年前期～

学校教育支援実習

☑ 教員としての資質能力を高める。

学校現場で教員の実務の補助にあたり、実践的指導力を養い、学校理解を深めます。2年次では3年次の教育実習への準備、3・4年次では教育実習で身につけた知識や技能を活かし、教員としての資質能力を高めます。教職登録をした2年生以上が対象です。



3年前期～

教育実習

☑ 培った理論を実践力につなげる。

理論を知っているだけでは教師は務まりません。理論を実践力として働かせる必要があります。実際の教育現場での「教育実習(4週間)」を通じて、理論を実践力につなげていきます。教員免許取得のための必修科目です。



教員紹介

※2025年4月1日現在

教育実践コース

植田 啓嗣 (教育学、比較教育学)
太田 孝 (国語科教育学)
神山 真由 (教育行政学、教育制度論)
菅家 礼子 (質の高い身体教育の探究)
坂本 篤史 (授業研究、教師論)
志賀 匡行 (学習指導、理科教育)
高橋 英子 (社会教育学、教育社会学)
谷 雅泰 (日本教育史、近代学校の起源)
中野 真悟 (道徳教育、生徒指導)
鳴川 哲也 (学校経営、理科教育)
森本 明 (算数・数学の授業とカリキュラムの構成に関する研究)

心理学・幼児教育コース

市川 英雄 (福祉領域における心理支援)
伊藤 雅隆 (認知行動療法の効果と実践方法)
生島 浩 (少年非行・犯罪に関わる家族への援助実践)
鈴木 清 (児童福祉領域における心理支援)
住吉 チカ (認知心理学、認知機能障害、及び認知機能の発達)
高谷 理恵子 (発達に影響を及ぼす諸要因の検討)
原野 明子 (幼児の仲間関係の発達)
保木井 啓史 (集まり場面での子どもと保育者の相互作用、保育者の専門性)
村木 洋子 (ピアノ演奏と幼児への音楽基礎教育)

特別支援・生活科学コース

角間 陽子 (家庭科教育の研究、生活経営学)
小椋山 宗浩 (特別支援教育における教育環境の整備)
佐藤 玲子 (快適な住生活と住環境について)
高橋 純一 (能力の多様性と障害理解、障害児・者の見え方と感じ方)
千葉 桂子 (快適で安全な衣服のデザインと機能)
中村 恵子 (調理のコツとおいしさについて)
柳沼 哲 (特別な教育的ニーズに応える支援)
和田 恵 (障害児の社会的認知について)

芸術・表現コース

新井 浩 (彫刻制作、彫刻教材の研究)
今尾 滋 (声楽・オペラ)
加藤 奈保子 (西洋美術史・美学)
杉田 政夫 (音楽科教育の理論的、実践的研究)
中畑 淳 (音楽、ピアノ演奏法、作品解釈研究)
横島 浩 (作曲、楽曲分析研究)
渡邊 晃一 (絵画、現代美術、制作学)
渡部 憲生 (図画工作科、美術科教育)

人文科学コース

朝賀 俊彦 (言語の仕組みについての研究)
井実 充史 (日本古典文学、古典教育)
小野原 雅夫 (戦争と平和の倫理学、科学技術と環境の倫理学)
鍵和田 賢 (ドイツ近世史、ヨーロッパ宗教社会史)
川田 潤 (主に英語圏の文化の研究)
小松 賢司 (日本近世史)
佐久間 康之 (外国語活動・英語教育と心のメカニズム)
佐藤 佐敏 (国語科教育学、学習指導論)
佐藤 元樹 (理論言語学、統語論、意味論)
益澤 尚 (漢文学、漢字文化、古代文学・思想・神話、本草学)
高木 修一 (英語リーディングのメカニズムを探究する/英語テストを科学する)
高田 英和 (イギリス文学、文化研究)
高橋 由貴 (日本近代文学・比較文学)
中村 洋介 (自然災害科学・防災教育)
野木 勝弘 (社会科教育学)
初澤 敏生 (地域文化構造の調査と分析)
半沢 康 (日本の方言の研究)
牧田 実 (コミュニティとまちづくり)
渡邊 健順 (社会科教育学)

数理自然科学コース

柴田 崇広 (代数幾何学)
鈴木 昭夫 (理科教育)
中田 文憲 (微分幾何学、STEAM教育)
平中 宏典 (ICTを活用した理科教育、地域地質を活かした地学教育)
水澤 玲子 (島嶼生態学、植物の繁殖生態学)
村上 正義 (小学校理科教育)
和田 正樹 (解析学、確率論)

スポーツ健康科学コース

小川 宏 (体育・スポーツの意義と目的)
杉浦 弘一 (スポーツと健康の医科学)
竹田 隆一 (武道の独自性と国際化)
蓮沼 哲哉 (スポーツ社会学)
松本 健太 (体育科教育学・スポーツ教育学)
本嶋 良恵 (スポーツバイオメカニクス)
安田 俊広 (骨格筋の疲労と損傷のメカニズム)

学類附属 学校臨床支援センター 学校連携部門

教育相談部門

青木 真理 (臨床倫理学、教育臨床学)
岸 竜馬 (精神分析的な心理療法・精神病理)

現職研修部門

宗形 潤子 (生活科における実践的研究)
高野 孝男 (特別活動と学級経営の研究)



専門知識・技術と実践的な応用力を身につける **7**つのコース**教育実践**
コース学校現場で活躍する
実践力のある学校教員を育成する

教育実践コースは、学校教員になることを目指す学生が中心になるコースです。学校現場は社会・地域の変化など複雑な環境に晒されています。その中で子どもの学びを支え、確実な成長を助ける教員が求められています。本コースでは学校教員として求められる実践力をつけることを目指します。

主な科目

- カリキュラム・教育方法論
- 生涯学習社会と学校・家庭・地域
- 学校と教育の歴史
- 子どもと道徳
- 教育の方法・課程論A
- 国語科教育法
- 数学科教育法
- 音楽科学習指導論
- 理科学習指導論
- 体育科学習指導論
- 子どもの生活と遊び
- 子どもと自然
- 外国の教育
- 教育行政学

特徴的な学び

教育の方法・課程論A

これからの学校教育に向け、何をどのように教えるかについて広くかつ深く学びます。授業では、今まで受けてきた学校教育を教師側の視点に立って振り返りつつ、具体的な事例や文献資料を基にした学生同士での意見交流や話し合いを通して、自身の授業観を磨いていきます。

特徴的な学び

算数科学習指導論

算数科の学習指導に必要な基礎的・基本的な資質・能力を身につけます。小学校算数科の目的・目標、育成すべき資質・能力、学習指導の内容及び学習指導の方法について理解するとともに、指導案作成や模擬授業を通して、算数科授業を構成・実践できるようにします。

**心理学・幼児教育**
コース人の行動・心理の研究と幼児期の教育を
研究する

本コースは、人の行動・心理についての知見を得るとともに、実験・調査・観察などの科学的手法によって研究を行う心理学の分野と、乳幼児の発達を学びつつ、幼児期に相応しい経験とは何かを探る幼児教育分野で成り立っています。なお、1年後期から心理と幼児教育のクラスにわかれます。小学校教員や心理専門職（公認心理師・公務員心理職）、幼稚園教諭や保育士を目指す人に向いています。

主な科目

- 発達心理学
- 公認心理師の職責
- 産業・組織心理学
- 心理学演習・実習
- 心理学的支援法
- 心理学統計法
- 社会・集団・家族心理学
- 保育原理
- 幼児発達心理学
- 保育カリキュラム論
- 保育内容(表現I)
- 幼児と音楽
- 保育方法実践論
- 総合表現(劇)

特徴的な学び

心理学に関する学び

実験、観察、調査など各研究手法、及びデータを分析するための統計手法を学びます。これらの知識を活かして、人の行動や発達、集団行動などについて研究を進めていきます。さらに、公認心理師を目指す人は実習を通して、臨床的な技能も学んでいきます。

特徴的な学び

幼児教育に関する学び

幼児教育分野では、保育・幼児教育についてのこれまでの歴史や思想、制度等の幼児教育、子どもの発達等に関する理論を学びます。これらの知識を活かして、保育現場で必要となる技術・技能を身につけ、実習や卒業研究等を通して、さらに研鑽を積んでいきます。

**特別支援・生活科学**
コース障害のある子どもの教育や
家庭・地域に関わる生活科学を学ぶ

知的障害・肢体不自由・病弱などサポートを必要とする子どもの発達支援に関する理論や、家庭や地域に関わる生活科学の基礎について広く学び、実践を通して理解し身につけ、探究していきます。子どもたちの発達を支援し特別支援学校教諭を目指す人や、生活の基礎を学びたい人、家庭科に強い小学校教員を目指す人に向いています。（令和7年度入学生から中高家庭科教員免許は取得できません。）

主な科目

- 特別支援教育概論
- 知的障害者の行動分析
- 病弱者の生理・病理・心理
- 知的障害者教育指導法
- 知的障害者教育課程論
- 食と健康
- 食生活論
- 衣服のデザインと機能
- 住生活学
- 生活経営学

特徴的な学び

特別支援教育概論

大学での学びを始めた、主に1年生を受講対象として「障害」に関する基礎的なことを広く学びます。障害特性や支援方法だけでなく、障害者政策や障害者差別など広い分野から「障害」に対してアプローチします。

特徴的な学び

生活経営学

「生活資源」の視点から、生涯にわたって生活の質を追求していくための知識とスキルを学びます。生活資源を活用して個人や地域・社会の生活ニーズや生活困難の解決を図るなど、生活経営力を高めるさまざまなアクティビティを取り入れながら、受講生が主体的・協働的に学びを深める実践的な授業を行います。

**芸術・表現**
コース芸術の意義を理解し、芸術関連の教員や
コーディネーターとして活躍する

芸術や表現の意義、本質を理解し、音楽や美術に関わる力量を理論的・実践的に身につけるための、芸術の薫り高いコースです。芸術表現者の育成とともに、芸術領域（音楽・美術）を活用できる学校教員（小・中・高）、さらにはアートコーディネーターといった芸術の力を地域で活かせる人材を育成します。

主な科目

- 子どもの音楽表現
- 作曲基礎
- 声楽演奏研究
- ピアノ演奏研究
- 音楽科教育法
- 器楽演奏研究
- 指揮法研究
- 子どもの造形活動
- 絵画
- 彫刻
- 工芸デザイン
- 美術史
- 芸術学
- 映像メディア論

特徴的な学び

素描

この授業ではさまざまな美術、造形表現の基礎となる見方、考え方を学びます。現代のメディアから発信される現代的イメージを押さえながら、優れた表現者、教育者に必要な知識、技能とともに、興味を持って対象に迫る探究心を養います。

特徴的な学び

ピアノアンサンブル

この授業では、基本的な演奏技術を修得しながら、作品解釈を通じて伴奏法、共演形態の演奏法について学びます。1台4手（連弾）、2台4手（2台ピアノ）をはじめ、ピアノを含む共演形態の作品を幅広くとりあげ、各パートの理解を深めつつアンサンブルによる演奏表現を仕上げていきます。

専門知識・技術と実践的な応用力を身につける7つのコース

人文科学
コース

様々な文化を学び
地域の文化の継承・発展に貢献する

言語や文学、地域や社会のあり方、その歴史や思想など、文化について深く学ぶことができます。そのような学びを踏まえて、地域の文化を継承し、発展させていく力を養います。人文学諸分野の知識を活用した仕事に就きたい人、国語・英語・社会に強い小学校教員や、中学・高校の国語・英語・社会の教員を目指す人に向いています。

主な科目

- 漢字・漢文学概論
- 日本文学特講
- 英語学概論
- 英米文学史
- 日本近世社会史
- 都市とまちづくりの地理学
- 現代社会と文化
- 国語科・英語科・社会科教育法

特徴的な学び

言語文化や国語教育に関する学び

日本語学、日本文学（古典・近代）、漢文学、国語科教育学といった言語文化・言語教育（国語教育）について、文献を収集したり、実地調査をしたり、模擬授業をしたりして、その専門性を学びます。



特徴的な学び

外国語の言語文化や教育に関する学び

英語学、英語教育学、英米文学・文化、異文化理解、英語コミュニケーション等について、文献調査やグループワークなどを通じて、その専門性を学びます。



特徴的な学び

歴史や地理や公民に関する学び

古文書や外国語文献から直接歴史を学んだり、現地で実際に調査することによって地理や経済や社会を学んだり、グループワークを通じて倫理について考えを深めたりしていきます。

数理自然科学
コース

自然や数学の問題を探究し
諸問題を解決する専門性を高める

身近な自然や先端的課題の中から数学や自然科学に関わる諸問題を見だし、それらを探究的に解決する学びを重ねていくことで専門性を高めていきます。社会において数学や自然科学に深く関わっていきたい人、算数や理科に強い小学校教員、中学・高校の数学教員を目指す人に向いています。

主な科目

- 行列とベクトル
- 基礎解析学
- 代数学
- 幾何学
- 確率論・統計学
- コンピュータ
- 数学科教育法
- 理科学習指導論
- 子どもと自然
- 物理学
- 物質化学
- 生命環境の科学
- 地球惑星の科学
- 地域理科実践演習I・II

特徴的な学び

解析学統論

高校で学んだ数列の極限や関数の連続性について厳密な定義を学びます。それにまつわる証明の方法や、関数列の極限などの新しい概念、それを踏まえた高度な計算の技術について学びます。



特徴的な学び

地域と学ぶ
未来の理科先生
特修プログラム

小学校・中学校での理科教育を支えるため、地域にある身近な自然を活かした教材の開発手法を学び、学校や科学館等で実践する経験を通じて、子どもとともに理科の学びを創っていく資質・能力を身につけます。

スポーツ健康科学
コース

スポーツ技術の向上と指導力を高め
体育教員や一流のアスリート、コーチを目指す

最新のスポーツ理論と実践を通して、スポーツ技能の向上と指導力を高めるとともに、生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフを送るための技能や専門知識を学ぶことができます。体育教員になりたい人、一流のアスリート、コーチを目指す人、さらにスポーツを通して地域に活力を与える仕事に就きたい人に最適なコースです。

主な科目

- 生理学
- 解剖学
- 生涯スポーツ論
- 運動処方
- スポーツと文化
- スポーツ政策論
- スポーツ運動学
- 保健体育科教育法
- コーチング論
- スポーツ医学
- 生涯スポーツ演習
- 健康科学演習
- スポーツ指導論
- スポーツ実技各種

特徴的な学び

器械運動

マット・とび箱・鉄棒運動を対象に、段階的な練習方法と補助方法について実践的に学びながら、技の習得や習熟を目指します。さらに、学生同士で教え合いながら練習に取り組むことで、それぞれの技についての理解を深めるとともに、指導を行う上で必要となる運動観察力を身につけていきます。



特徴的な学び

スポーツ企画演習

受講生が地域の課題やニーズを調査したうえで、スポーツイベントを企画し、準備から当日の運営まで行う授業です。学外の団体や地域と連携しながら準備を進めていくことで、社会で必要な実践力を身につけていきます。

在学生からの
メッセージStudent's
Message

人間発達文化学類 心理学・幼児教育コース 2年 [岩手県立一関第一高等学校出身]

吉田 大悟さん

※学年は取材当時のものです。

高校の時に会った心理学の本がきっかけで、心理学を学びたいと思いました。特に行動分析学に興味があります。興味のある分野を深く学べることや、レポートも何を書こうか悩みつづ、自分の考えを表現できることが楽しいです。福島大学には震災という課題がありますが、それに詳しい教授たちが揃っており、その課題に取り組める強みがあります。心理学でも災害が起きた後のメンタルケアなどが、自分の専門に繋がると思います。

サークルはお笑い同好会。以前から興味があり、大学選びをしている時に福大にもあることを知って入りました。コンビで漫才やコントをやっています。月1で開催される仙台でのライブやお祭りなど、舞台に立つ機会も多くなりました。勉強も趣味も、入学してから視野がぐんと広がりました。



人間発達文化学類 スポーツ健康科学コース 2年 [福島県立橋高等学校出身]

佐藤 愛華さん

※学年は取材当時のものです。

小学生の時からずっとバスケットを続け、中学と高校の体育の先生を目指していたのですが、福島大学への学校推薦入試で小学校が主免許という条件があり、小中高すべての教員免許の取得を考えています。小学校では体育の好き嫌い関係なく、みんなが楽しめる授業づくりをやりたいと考えています。体を動かす楽しさが子どもたちに伝わると嬉しいです。スポ科では地域の小学生や子どもたちと関わる機会も多く、スポーツイベントを企画・運営する演習もあります。そういった授業構成や教え方を学び、体育に強い小学校教員を目指します。

大学では女子バスケット部の人数が足りず、活動できないため野球部のマネージャーをしています。南東北大学野球連盟のリーグ戦やほかにも試合が多いので、土日スポーツ漬けの毎日を送っています。

行政政策学類

Faculty of Administration and Social Sciences



震災からの復興、コミュニティの再生といった地域が抱えるさまざまな課題に取り組み、持続可能な地域づくりに貢献できる人を育てます。

学類紹介MOVIEを
チェック!



■ 地域政策と法コース

■ 地域社会と文化コース

■ 行政政策学類夜間主

(社会人教育)
・地域政策と法コース
・地域社会と文化コース

こんな人に学んでほしい

行政政策学類では、現代の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の5つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。特に夜間主は、働きながら学ぶ人、さまざまな社会経験をもとに学びたいと考える人を対象とします。

- 法・政治・行政・社会・文化などの研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- 国・地域・社会における諸課題を自ら発見し、調査・分析する能力
- 発見し、調査・分析した諸課題につき、解決する能力
- 学際的な創造力で社会に貢献する応用的な能力
- 修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力



SHINING GRADUATES

社会で
活躍する
卒業生

Interview

学生時代に培った力を 街づくりに生かしていきます

市役所に入って2年目、子ども会関係の仕事を担当し、子どもたちの他県との交流会などのサポートをしています。生まれ育った会津若松市がとても好きで、将来はここで貢献できる仕事がしたいと、高校時代から公務員を志望していました。大学3年の時にインターンシップで会津若松の県の出先や市役所に行き、街づくりに熱心な公務員の姿を見て、目標が定まりました。

地域と行政専攻の中で、映像制作をするゼミに所属していました。コロナの影響で個々でしか活動できませんでしたが、東北電力の「第3回TOHOKU LOVE GAKUSEI MOVIE CONTEST」ムービー部門のショートムービーの部で準グランプリになりました。撮影も出

会津若松市 教育委員会 あいづっこ育成推進室
行政政策学類 2022年卒業

向山 寛人さん

※勤務先は取材当時のものです。



演もすべて自分ひとりで撮った「あなたの暮らしによりそうマン!」という、東北を愛するパワーを描いた作品でした。

そういった活動や大学生活を通して、発想力や考える力が身に付いたと思います。それを生かして、公務員として市民の方々の暮らしに貢献し、会津の良さをもっと広く知っていただけるよう頑張りたいと思います。

卒業後の 主な進路

- 国家公務員(一般職、裁判所職員、国税専門官など)
- 地方公務員(都道府県庁、市町村職員、警察官など)
- 教員(公立学校、私立学校)
- 司法書士・行政書士などの法律専門職(法科大学院進学者を含む)
- 民間企業(建設、製造、運輸、情報通信、金融、医療、専門サービス業など)
- 法人職員(社会福祉法人、商工会議所など)
- NPO/NGOなどのスタッフ

- 大学院進学(福島大学、東北大学など)
- 民間プランナー
- 各種協同組合の職員
- 学芸員(博物館・埋蔵文化財)
- 社会教育関係(公民館)職員
- マスコミ

カリキュラムの特長

地域課題に取り組む「知と活動の拠点」、行政政策学類。
多様な「学びのかたち」で道を切り拓く!

行政政策学類では、理論研究からフィールドワークまで、さまざまな「学びのかたち」を使って、現代社会の課題や、地域が抱える問題の核心に迫ります。1年次には、幅広い教養を学びながら、「大学での学びの基礎（大学生としての基礎力）」を修得します。2年次には、それぞれの関心にしたがってコースを選択します。3、4年次には、教員＋少人数の学生で運営する「専門演習」を基盤に、自分が「解き明かしたい!」「解決策を提案したい!」と思う課題に、より専門的に迫ります。「卒業研究」は4年間の学生生活の総まとめ。斬新で個性あふれる研究成果が期待されています。

アドバイザー教員

研究の方法や進路など大学生活全般のアドバイスを行います。下記の担当教員をアドバイザーとする少人数教育(最大で20名程度)を行います。

1年次：スタートアップセミナー/問題探究セミナーⅠ担当教員
2年次：問題探究セミナーⅡ・Ⅲ担当教員
3年次～4年次：専門演習担当教員

学士号と
取得できる
教員免許・資格

- 学士(法学) ● 学士(社会学)
- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)
- 社会教育主事(基礎資格) ※1・社会教育士
- 学芸員 ※2
- 社会福祉主事(任用資格) ※3

※ 1 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事することが必要です。

※ 2 「博物館に関する科目の単位」を修得することが必要です。

※ 3 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。

※ 行政政策学類夜間主では、教員免許状の取得はできません。

		1年次 		2年次 		3年次 		4年次 	
学びの目標		行政政策学類における学びの基礎を学ぶ		専門教育の本格的開始 アクティブ・ラーニングの実践		専門知識の応用力・実践力を身につける		専門知識を深めるとともに、 大学における研究の成果を示す	
		第1セメスター 第2セメスター		第3セメスター 第4セメスター		第5セメスター 第6セメスター		第7セメスター 第8セメスター	
専門教育		学類共通科目 ・現代法学論 ・民法総則 ・現代政治論 ・社会学原論 ・社会と文化の理論 ・現代社会のアプローチ		学類基礎科目 ■ 憲法 ■ 法社会学 ■ 行政学 ■ 地方行政論 (2コースとも共通の科目群です)		■ 社会計画論 ■ 地域社会学 ■ 社会福祉論 ■ 社会調査論 ■ 比較地域文化論 ■ 考古学 ■ 文化史 ほか			
		問題探究セミナー 第2セメスターの「問題探究セミナーI」から専門的な教育が始まります。問題探究セミナーは、少人数で行う演習形式の授業で、文献講読、討論、実地調査(フィールドワーク)などさまざまな手法で、テーマや課題に迫ります。		コースの選択 地域政策と法コース 地域社会と文化コース 問題探究 セミナーⅡ・Ⅲ ■ 地域政策と法コース型 ■ コース横断型 ■ 地域社会と文化コース型		コース専門科目 ■ 地方自治法 ■ 労働法 ■ 国際政治論 ■ 地方政治論 ■ 社会保障法 ■ 民事裁判法 ほか 専門演習の実施 専門演習の実施		卒業研究の提出 学士(法学) 学士(社会学)	
						コース専門科目 ■ 地域史 ■ ジェンダー論 ■ 欧米文化論 ■ 地域福祉論 ■ 社会教育実習 ■ メディア論 ほか			
基盤教育	接続領域	・スタートアップ科目(スタートアップセミナー、社会とデータ科学の基礎) ・ライフマネジメント科目 ・外国語コミュニケーション科目							
	教養領域	・学術基礎科目 ・健康・運動科目 ・外国語科目 ・情報科目		・キャリア設計科目				専門演習 専門演習では、より高度で専門的な手法を用いてテーマや課題に迫ります。参加者はより少人数となり、教員も含めそれぞれの学生が、自らの研究テーマをもって演習に参加することが求められます。専門演習での学びを通じて、4年間の学生生活の集大成としての卒業研究をまとめ上げていきます。	
	問題探究領域	・問題探究科目 ・自主学修プログラム		・問題探究セミナーI					
自由選択領域		自らの興味・関心にしたがって、基盤教育及び学類内外の科目から選んで履修する							



「地域の時代」「分権化の時代」のニーズに

応えることができる人材の育成を目指します

学類長
メッセージ

Message

自らつくる
行政政策学類の学びのかたちを

時々、就職試験の面接を控えた学生たちから、行政政策学類の説明を求められる質問が最も困る、と言われます。でも、私はにやりとして教えません。なぜなら、この学類の学びのかたちは既存の学問の枠組みに止まらない、学生の皆さんが考えてつくりあげるものだと思うからです。

この学類の学びの特徴は現実の社会に接すること、そのためのフィールドワークやワークショップだとよく言われます。もちろんアクティブに、外に出て行くきっかけをこの学類では多様に用意しています。しかし、そのためにはもちろん、既存の学問も大切です。法学、政治行政、社会計画、地域文化、比較文化、社会学…。この学類ではこうした学術の基礎的な分野を幅広く学修できるよう科目を配し、じっくり読む、書く、話す、聞く、調べるといった時間を大切にしています。

そうした「動」と「静」に触れながら、あなたならどのような行政政策学類の学びのかたちをつくりますか？歴史に学び未来を眺め、地域社会から国際社会まで、4年間であなたの可能性が無限に広がることを、心から楽しみにしています。



行政政策学類長 今西 一男 教授

教員紹介 ※2025年4月1日現在

地域政策と法コース

荒木田 岳	(地方制度史、地方行政論)
浦谷 知絵	(民事訴訟法、家事事件手続法)
上床 悠	(行政法、公法学、法政策)
垣見 隆樹	(行政法・地方自治法)
金井 光生	(憲法、憲法哲学)
岸見 太一	(現代政治理論)
黒崎 輝	(国際政治学、国際政治史)
阪本 尚文	(憲法史)
塩谷 弘康	(法社会学)
鈴木 めぐみ	(国際法)
大黒 太郎	(政治過程論、先進産業社会の比較政治【ドイツ】)
高橋 有紀	(刑事法・刑事政策・司法福祉)
中里 真	(民法【特に契約法】・消費者法)
西田 奈保子	(行政学、都市行政、都市・地域政策)
福島 雄一	(商法【特に保険法】)
山崎 暁彦	(民法、方法論)

地域社会と文化コース

浅野 かおる	(社会教育論、職業教育・訓練論、教育学)
阿部 浩一	(日本中世史)
今西 一男	(都市計画論、都市社会学、社会調査論)
岩崎 由美子	(社会計画論、農村生活論)
小田 和正	(社会学史・社会学理論・経済社会学)
菊地 芳朗	(考古学による古墳時代社会の復元)
金 敬雄	(言語文化交差論)
久我 和巳	(文芸社会学)
坂本 恵	(スコットランド・イギリス文学、現代思想)
佐々木 康文	(情報社会学、情報経済論、災害情報論)
鈴木 典夫	(地域福祉、地域援助技術【コミュニティワーク】)
高橋 準	(社会学【現代社会学論、社会運動論、ジェンダー論】)
田村 奈保子	(フランス文化、フランス文学)
照沼 かほる	(アメリカ文化・文学と映画を中心に)
徳竹 剛	(日本近代史・地域史)
廣本 由香	(環境社会学、地域環境論、沖縄研究)
真歩 しょうん	(第二言語習得、英語教育、文学)
村上 雄一	(日蒙関係史)

詳しい
経歴は
こちら

大学で学ぶ方法の修得を目指す スタートアップセミナー

学び
PICK UP!

☑ 日常の政治と原発事故

誰の声が聴かれ、誰の声が無視されてきたのか、という日常の政治に焦点をあてて、原発事故の問題について学びます。日常の政治における社会的な権力作用について文献から学ぶことに加えて、それぞれの立場で震災・原発事故に関わってきたゲストスピーカーの方々の話を傾聴し、議論をすることを通じて、日常の背後にある構造的な問題について学びます。



岸見ゼミ

☑ 文献から学び、これからの地域社会を考える

このセミナーでは、15名の1年生が、「これからの地域をどのような場所にしていくなか」というテーマで、文献を読み、議論しています。地域の衰退の現状とメカニズムを学び、この流れにどのように向かい合うべきかを考えています。加えて、「観光」「居場所」「子育て」などのような、地域に存在する、より細かいテーマも検討し、これからの地域をどのような場所にすべきかを考えています。



佐々木ゼミ

コースを選択し専門的に学ぶ 問題探究セミナーⅡ・Ⅲ

地域政策と
法コース☑ 大学でまち探検？
～まちの歴史を知ろう～

荒木田ゼミでは、特に江戸時代に城下町であった都市の近代化について研究しています。授業では、江戸時代の城下絵図を見ながら、現代の街並みとの比較をしたり、実際に外に出てフィールドワークを行い調査したりします。私たちが住むまちの“街並み”の歴史を深掘るための「まち探検」とも言えるでしょう。また、フィールドワークを通して、ゼミの仲間と仲良くなれること間違いなし！とても楽しく、学びのあるゼミです。

〔仙台育英学園高等学校出身〕
宮川 蒼平さん

地域社会と
文化コース

☑ 居場所づくりとフィールドワーク

今西ゼミでは「居場所づくりを考える」と題して、駅前や公園など、まちのなかの具体的な空間を選び、よりよい居場所とするためのフィールドワークを行います。現地での活動に加えて、演習室ではその空間の背景や役割を考えるワークショップも行います。まちと演習室を往復し、調べたことを考察して、提案まで考えます。

今西ゼミ



古文書学実習

☑ 古文書類の記録保全の手法を実践的に学ぶ

古文書学実習では、古文書類のデジタル撮影や記録保全の手法を実践的に学びます。東日本大震災を機に、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」や協定を結んでいる富岡町などと連携し、被災家屋から救出された古文書などの歴史資料の記録・整理に取り組んでいます。毎年夏には、2日間にわたる夏季集中作業を行っています。



行政政策学類 あぶくま学生支援事業

☑ 行政政策学類の学生および院生の取り組みを支援します

あぶくま学生支援事業は、行政政策学類の学生および院生が、自主的に計画・実行する、学びと地域活動等に関わる取り組みを支援するものです。これまでに伊達市梁川をフィールドとした「地域まるごと博物館」や、福島県沖地震で被災した相馬市・新地町での資料記録整理等の活動を助成しました。行政政策学類の発展と地域課題の解決等のために、学生および院生の皆さんの豊かな発想を活かした企画を募集しています。



1 年次

新たな科目に心躍る1年
基礎を固めつつ、興味を広げる

行政政策学類生のはじめの1年は、学びの基礎をしっかりと築くもっとも重要な期間といえます。英語に加えて、第2外国語の授業もはじまります。高校では出会うことなかった新たな科目に心を躍らせながら、1年次から卒業後の進路や生活を考える時間もしっかり用意されています。特に1年次に意識しておきたいのは、2年次以降、どのような専門領域に進んでも必ず必要とされる基礎知識を、しっかりと自分の中に定着させるということです。重要な指定科目をはじめ、これまであまり関心を持っていなかった科目も含めて、幅広く学んで視野を広げることが大切です。



学生生活は自分たちでつくる!

学友会と学生自治



私たち学友会学生部会は学生自治の理念に基づき、行政政策学類に入学された皆さんの学生生活を少しでも豊かにするために活動しております。学類の「生徒会的立ち位置」が私たちだと捉えて頂けると幸いです。学類主催イベントの企画・運営やオープンキャンパスでの学類説明などが主な活動です。企画を一から考えていくので大変ではありますが、学類の皆さんに楽しんでもらえた時にはやりがいや喜びを感じることができます。私たちと共に活動してみませんか?学友会室でお待ちしております!

地域社会と文化コース 2年 米倉 輝さん

〔宮城県泉館山高等学校出身〕

※学年は取材当時のものです。

学生の自主的な活動

ウェブサイトはこちらから▶



合宿ガイダンスとシニター制度



私たちシニターは、行政政策学類の2年生を中心とした新入生サポート団体です。主に、新入生の履修指導や新入生同士の交流を深めるためのイベントの企画・運営を行っています。スタートアップセミナー内の仲を深める「ゼミ交流会」や、ゼミの垣根を越えた交流を目的とした「新企画」を行っています。新入生の大学生活は私たちシニターが全力でサポートします。ぜひ、行政政策学類にお越しください!

地域社会と文化コース 2年 花坂 直樹さん

〔宮城県泉館山高等学校出身〕

※学年は取材当時のものです。

新入生合宿ガイダンス

ウェブサイトはこちらから▶



2 年次

コース選択と
アクティブ・ラーニング

行政政策学類には、「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つのコースがあります。これらは「地域社会の課題に取り組み、よりよい地域社会に向けた新しい道を切り開く」といった目的に沿って設置されました。学生は、自らの関心に従ってコースを選択し、2年次(3セメスター)から研究に取り組みます。現代の地域社会が抱える課題は計り知れず、学生が興味を持つ研究テーマも無限にあります。そのため本学類では、学生一人ひとりの研究テーマに必要な講義を、コースの枠を超えて自由に受講することができる環境を整備しています。関連文献の検索、フィールドワークの計画と実施など、主体的に研究が進められるようになっています。



地域政策と法コース

地域政策と法コースにおいては、法学、政治学及び行政学を中心とした科目を履修していきます。その教育目標は、「新しい地域づくり」を目指し、①「法政治」及び「地域行政」にかかわる知識を総合的、多角的に身につけ、②国及び地域の課題を自ら発見し、必要な法令・判例や文献を紐解き、地域の調査に行ったりすることにより実情を十分に把握し、基本的なりテラシーを活用し、③市民としての政治参加、企業法務及び公務員としての政策形成などにあたり、国及び地域のさまざまな社会現象に対応する問題解決を、地域の諸主体とともに考え、社会貢献ができる、というような人材を養成することにあります。



主な専門科目

- 「現代政治論I・II」
(現代の政治の諸現象を考える際の基本的視点や方法を学ぶ)
- 「政治過程論I・II」
(政治・行政を動的に学ぶ)
- 「行政学I・II」、「地方行政論」
(国と地方の行政について、歴史的・構造的な捉え方を学ぶ)
- 「国際政治論I・II」
(政治行政を国際的視点から学ぶ)
- 「憲法(人権)I・II」
(全世界の国民の平和的生存権に基づく人権について学ぶ)
- 「民法(不法行為)」
(私人間における損害賠償のルールと判例について学ぶ)
- 「刑法I・II」
(罪刑法定主義に基づき犯罪と刑罰について学ぶ)

「問題探究セミナーII・III」テーマ例

- 原発訴訟
- 医療問題を通して紛争解決と法の役割・機能を考える
- 交通事故の法律問題
- 災害と平時一住まいの観点からー
- 世界からみた日本の人権問題

「専門演習」テーマ例

- 憲法学の名著を読む
- 民法を使いこなす
- 労働問題・社会保障問題の法的な解決
- 高齢・障がい犯罪者の社会的包摂と権利擁護
- 原発事故からの避難と自己責任
- 復興行政の課題を探る
- 比較の視座で捉える日本の政策課題とその対策



地域社会と文化コース

地域社会と文化コースには、社会計画系の科目、社会学系の科目と、多様な文化研究系の科目（教育、歴史、ジェンダー、比較文化など）が置かれています。

このコースの大きな特長は、「新しい地域づくり」という課題に応えるために、社会学系の科目を基礎にすえつつ、社会や文化が直面している諸問題を地域に即して、歴史的にあるいはグローバルな視野から考えていく力をつけるために各科目が配置されていることです。こうした力を獲得すること——それは公務員／民間企業を問わず、これからの日本社会の担い手にとって必要不可欠なものです。また、このコースが提供する多様な学問領域や問題領域にわたる科目群は、皆さんの幅広い問題関心を受けとめる懐の深さがあります。自分の問題関心や将来の進路に合わせて時間割を組み、学修を主体的に進めていけるという魅力があります。1年次の学類基礎科目である「社会と文化の理論」と「社会学原論Ⅰ」が、「地域社会と文化」コースの導入的な科目です。2～4年次ではどのような科目を履修していけばいいのでしょうか？参考のために4つの分野を示し、説明します。

①「社会計画」分野を中心に学ぶ

まちづくりやコミュニティづくり、より良い地域環境の形成など新しい地域づくりに関連した科目や、高齢社会に対応した人々の基礎的なライフスタイルや社会福祉のあり方に関連する科目を配置しています。

主な専門科目

- 「社会計画論」
（社会計画的思考やその歴史と方法、望ましい計画のあり方などを学ぶ）
- 「社会調査論」
（計画づくりに不可欠な地域社会や住民生活の現状を、現地調査を通じて科学的に把握する方法を学ぶ）
- 「社会福祉論」
（高齢社会に対応した福祉社会・福祉政策のあり方、社会福祉の技術と方法について学ぶ）

②「社会学」分野を中心に学ぶ

激動する地域社会の動きや社会的な諸問題を総合的にとらえること、そしてそれらをよりよい方向に導いていくにはどうすればいいのかを追究することです。

主な専門科目

- 「社会と文化の理論」
- 「社会学原論Ⅱ」
- 「メディア論」
- 「社会学原論Ⅰ」
- 「地域社会学」

③「地域文化」分野を中心に学ぶ

地域社会の歴史や社会教育、ジェンダーといった問題を中心に学ぶことになります。

主な専門科目

- 「考古学」
- 「社会教育論（生涯学習論を含む）」
- 「古文書講読」
- 「文化史」
- 「ジェンダー論」
- 「古文書学実習」



④「比較文化」分野を中心に学ぶ

地域社会の国際化にともなってきた諸問題を解決するために、多文化を理解するとはどういうことか、多文化受容とはどうあるべきかを追究することです。

主な専門科目

- 「比較地域文化論」
- 「英語コミュニケーション」
- 「言語文化論」
- 「English Presentations」
- 「欧米文化論」
- 「中国語コミュニケーション」
- 「国際文化交流論」

「問題探究セミナーⅡ・Ⅲ」テーマ例

- 地域再生と関係人口
- 映画館とまちづくり
- 孤立を防ぐ
- 他者のジェンダーに関する経験を聴く
- 雑誌から見える社会の一面とその変化

「専門演習」テーマ例

- “食”と“エネルギー”から生産と消費のあり方と地域の自立を考える
- 都市の再生と住民による「まちづくり」ーコミュニティ・空間・計画ー
- 「吾妻鏡」を輪読する
- 社会教育と生涯学習をめぐる諸問題
- 多文化主義の過去・現在・未来ーオーストラリアと日本、そして、世界ー
- 物語から文化&社会を知るーフィクションと社会の影響関係の考察
- 支援・ケアの社会学

3年次 | 4年次

4年間の学びと経験の集大成 個性あふれる「卒業研究」を完成

すべての行政政策学類生は、卒業時に「卒業研究」を提出します。「卒業研究」は、4年間の学びと経験、学生生活の集大成ともいうべき大切なものです。その作成に向けて、どのような講義を受講するのか、また専門演習を履修して、どのような調査やインターンシップを実施するかなど、学びのプロセスを自分の手で計画し、作りあげていくことになります。たくさんの先輩たちもそうであったように、途中で困難な状況に遭遇した場合は、アドバイザー教員がサポートします。個々の問題意識やテーマに従い、個性あふれる卒業研究をまとめることが求められます。



センパイの学び

「全世界の国民の平和的生存権」から 3.11以後の人権保障を考える

金井ゼミ(憲法)に所属。
学生サークル「災害ボランティア」での活動などに取り組んできました。

3年次に選択した科目

- 憲法(人権)Ⅰ・Ⅱ
- 行政法総論Ⅰ・Ⅱ
- 民法(不法行為)(債権総論)
- 憲法(統治)Ⅰ・Ⅱ
- 刑法Ⅰ・Ⅱ

4年次に選択した科目

- 行政救済法Ⅰ・Ⅱ
- 地方自治法Ⅰ・Ⅱ
- 民法(債権各論)・(家族)
- 国際法Ⅰ・Ⅱ

卒研のテーマ

これからの震災に備えて
ー東日本大震災は何を残したのかー

メディアづくりを学び、 地方創生への活かし方を考える

佐々木ゼミ(情報社会論)に所属。
映像制作やローカルメディア分析を通して、自治体支援のあり方を研究しました。

3年次に選択した科目

- 演習Ⅰ・Ⅱ
- 福祉国家論
- 情報社会論
- 地域史Ⅰ
- 地域福祉論
- 国際公共政策論
- 地方政治論Ⅰ
- 言語文化論Ⅰ
- 国際政治論Ⅰ
- 行政救済法Ⅰ
- 欧米文化論Ⅰ

4年次に選択した科目

- 演習Ⅲ・Ⅳ
- 卒業研究

卒研のテーマ

クリエイティブディレクターと挑む地方創生

Student's Message

在学生からのメッセージ

地域政策と法コース 3年〔福島県立橋高等学校出身〕 熊田 愛莉さん

※学年は取材当時のものです。

公務員になってまちづくりに関わりたいと考えています。自治体の仕事は法律と密接に関わるし、暮らしの身近なところに意外と法律があると知り、法コースを選びましたが、3年からは飯館村の復興に関わるゼミに入り、地域での活動にも力を入れたいと思います。
以前から地方と都市の格差や、なぜ都市に人が集まるのかに興味がありました。私は高校の頃に興味のあった「まちづくり」の視点から入りましたが、福大で学んで様々な視点から物事を見ることができるようになりました。視点が広がれば、夢や将来の選択の幅も広がると思います。



在学生からのメッセージ

地域社会と文化コース 3年〔新潟県立柏崎高等学校出身〕 上村 光さん

※学年は取材当時のものです。

地元である新潟県柏崎市の自治体職員として地域発展に貢献できるよう、震災を経験した福島でしか学べない災害復興と地域再生について学んできました。なぜならば、故郷の柏崎とは原発が立地している点と中越沖地震で被災し、復興に取り組んできたという点で共通しているからです。これまで「むらの大学」や環境社会学を専門としているゼミでの活動を通して、地域社会の課題と環境問題の解決策、そうした実践やノウハウを活かした地域づくりについて考えてきました。行政・NPO・大学・地域等の連携や地域の主体になりうる関係人口の創出について、地域の中から学修できることは行政政策学類の一つの魅力だと思います。



講義だけじゃない！行政政策学類 まなびのかたち

法律討論会



行政政策学類「地域政策と法コース」では、法律系ゼミによって法律討論会を開催する年度があります。専門的な知識と論理が必要とされる法律に関する問題を学生が中心となって立論を作成し発表・討論していきます。難題をゼミの議論を通じてみんなで考え、立論を作成して、上手く伝えて討論することなど、生きた学びを体験できます。

学生論文集「嶺風(れいふう)」



嶺風編集委員会では、学生が中心となり、行政政策学類の学生論文集「嶺風」を編集・発行しています。「嶺風」には、学生が執筆した論文をはじめとして、エッセイ・小説なども掲載されています。大学での学びの場のひとつに「嶺風」はなっています。ぜひ、「嶺風」を手にとってみてください。

地域は大学生のフィールドだ

社会福祉課題研究



現場で福祉を学ぶ科目です。介護老人保健施設で5日間の実習を体験します。介護の役割の広さを知り、利用者さんとの接し方など自らの課題を見つける力も身につけることができます。

考古学実習



実測図や拓本などの基本的技術を学んだ後、夏休み中に福島県内外の遺跡の発掘調査を行います。後期には発掘調査成果を報告書にまとめます。これらを通じ、考古学の専門職に就けるだけの知識・技術の習得を目指します。

行政政策学類 夜間主

「学び」と「仕事」の両立をサポート
専門的に社会と向き合いたい人へ

夜間主は、「大学で専門的な知識を得て、キャリアアップを目指したい」、「仕事と学生生活を並行して、社会経験を豊かにしたい」など、「働きながら学びたい」という願いに応えるために開設されました。学ぶコースは「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つ。2年次(3セメスター)への進学時に、それぞれの関心と目標に合わせて、どちらかのコースに進みます。卒業時に得られる学位は、それぞれ「学士(法学)」(地域政策と法コース)と「学士(社会学)」(地域社会と文化コース)。長期履修制度や放送大学の活用、昼開講の授業の受講など、行政政策学類夜間主は、「学び」と「仕事」を両立させるための柔軟なカリキュラムを用意して、皆さんの大学生活を支えます。



Point!

1

夜間開講の授業の履修を基本としながら、柔軟な単位取得を可能にするカリキュラム

行政政策学類の昼開講授業の履修、放送大学や資格試験を利用した単位取得、長期履修制度などを組み合わせ(受講数に制限あり)、それぞれの就労状況に合わせて柔軟に学生生活を設計可能です。

2

入学科・授業料は半額

入学科や授業料等は、半額となっています。

3

2つのコースから選んで地域課題に学際的にアプローチ

2年次(3セメスター)から、それぞれの関心と目標にしたがって、「地域政策と法コース」もしくは「地域社会と文化コース」を選択します。

4

卒業時に得られる学位は「学士(法学)」もしくは「学士(社会学)」

卒業時には「学士(法学)」もしくは「学士(社会学)」が授与されます。

5

アルバイト・パートのみなさんもチャレンジ可能!

入学する年の3月31日時点で年齢が22歳に達している人、もしくは、年齢が22歳に達していなくとも入試出願時に就職している人(主婦・主夫業も含みます)、就職が内定している人、または、入学後に就業しながら大学に通う意思がある人は、受験・入学することができます。

※就職・就業にはアルバイト、パート等を含み、「労働時間が週平均20時間以上のもの」に限ります。詳しくは募集要項をご確認ください。

在学生からのメッセージ

Student's Message

地域政策と法コース 3年 滝田 秀子さん

※学年は取材当時のものです。

高卒で小中学校の事務職員になり、定年間近になって心の隅にあった「大学に行きたかったな」という気持ちに気づき、主人も背中を押してくれたので、自分の生活に関わる法律を学べたらと思い入学しました。法律だけでなく、社会学全般を幅広く学べる学部です。社会人になってからのほうが勉強はやりがいがある楽しいですね。

仕事を持っている社会人学生は2割程度なので、私くらいの方々にもっと入ってきて欲しいと思います。若いクラスメイトたちも年齢にこだわらずに接してくれますし、必死に勉強して単位を取っています。今後は資格取得にも挑戦していこうかなと思っています。



「学び直し」ではなく
初めての挑戦で
大学へ!

地域政策と法
コース

卒業時に得られる学位 学士(法学)



こんな人に学んでほしい

- 1 公共部門の仕事に関心があり、法律の運用や政策形成について学びたい人
- 2 職業で法律の専門知識を必要とする人や、地域や市民の合意形成に関心のある人
- 3 まちづくりや地域の活性化に興味があり、とくに法や政策の視点から学びを深めたい人

主な専門科目

- 日常生活と民法
- 裁判と法
- 行政と法I
- 地方自治と法
- 現代の地方行政
- 地域行政政策論
- 現代の国際政治
- ほか、指定された放送大学の科目など

地域社会と文化
コース

卒業時に得られる学位 学士(社会学)



こんな人に学んでほしい

- 1 農山村や地方都市の生活実態を知り、地域の持続可能性を高める施策や計画に関心のある人
- 2 地域社会や歴史・文化に関心があり、公共部門やNPOなどで専門的業務に携わりたい人
- 3 法律の運用や政策形成に社会の実態や課題をよりリアルに反映させたいと考える人

主な専門科目

- 社会計画論
- 地域福祉論
- ジェンダー論
- 地域史
- 言語文化論
- 国際文化交流論
- メディア論
- ほか、指定された放送大学の科目など

在学生からのメッセージ

Student's Message

地域社会と文化コース 3年 [山形市立商業高等学校出身] 山田 純也さん

※学年は取材当時のものです。

国公立大学進学を考え、進路担当の先生から薦められて夜間主を受験しました。夜間の授業はもちろん、昼開講授業も履修して勉強し、空いている時間はバイトを入れています。社会に出るための知識を蓄えたり、自分なりの考えを持って受ける授業は面白く、グループワークで意見を交わす機会もあります。

故郷の山形は、人口減少や高齢化などの地域問題の緊急性が日本の中でも高く、その問題の解決に向けた取り組みを自分なりに考えたり、教授やほかの学生と討論して深めていきたいと思っています。そして福島での取り組みを山形に持ち帰り、地域問題の改善・解決を考えるような仕事に就きたいと思っています。



自分なりの
考えを持ち
授業に取り組む
面白さ



経済経営学類

Faculty of Economics and Business Administration



100年の伝統と実績をもとに次の学びへ
幅広い教養と経済・経営の専門知識を身に付け、
グローバルに活躍する人材を育成します。

学類紹介MOVIEを
チェック!



■ 経済学コース

・経済理論モデル / ・グローバル経済モデル

■ 経営学コース

・地域経営モデル / ・会計ファイナンスモデル

こんな人に学んでほしい

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身に付け、
現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成することを目標とし、
卒業までに次の知識および能力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- 経済学と経営学の専門知識
- エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
- フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力
- グローバルに思考し実践に進む力
- キャリアを見据え自立し協働する力

SHINING GRADUATES



社会で
活躍する
卒業生

Interview

東北電力株式会社 ビジネスサポート本部 経理部
経済経営学類 経済学コース 2021年卒業

國分 菜々子さん

※勤務先は取材当時のものです。

お客様の顔の見える場所で インフラから暮らしを支えたい

福島大学では地域経済を学び、交通政策で街づくりを考えるゼミ
に属していました。バスを使って高齢者の生活をどう変えていくかな
ど、フィールドワークを通して解決策を考えていました。地域の方々に
アポイントを取って取材したり、考案した企画への協力・協賛をお願
いしたので、相当コミュニケーション力が鍛えられました。実際に社会
に出て役立つ能力が身に付いたと思います。

東北電力に入社したほとんどの方がそうだと思うのですが、震災
をきっかけにインフラの大切さを痛感しました。当時郡山で暮らして
いた私も、電気や水道が止まり、家族で県外の親戚のところに避難し



ました。そのインフラを維持することで地域を支える仕事がしたいと
思い、こちらに入社しました。現在は経理部で会社の損益予算を管理
するチームにいます。決算の数字が最初に見えてくる部署なので、会
社全体の動きが見える場所かもしれません。弊社には様々な部門が
あり、いずれは直接お客様と関わり、より地域に近い部署で働きたい
と思っています。

卒業後の 主な進路

- 国家公務員
一般職(経済産業省、国土交通省、農林水産省、金融庁など)
国税専門官、財務専門官、労働基準監督官など
- 地方公務員
自治体(福島県、宮城県、仙台市、福島市、郡山市、山形市など)
県警、消防
- その他公共機関・各種団体(日本年金機構、農業協同組合など)
- 金融機関
都市銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行など)
地方銀行(七十七銀行、東邦銀行、山形銀行、足利銀行、常陽銀行など)
保険(東京海上日動、第一生命、住友生命、日本生命、かんぽ生命など)
証券(野村證券、大和証券など)
大手政府系金融機関(日本政策金融公庫、農林中央金庫など)
- エネルギー(東北電力、北海道電力、東京ガスなど)
- 鉄道・航空・観光(JR東日本、成田空港、JTBなど)
- 製造業(クボタ、小松製作所、福島キャノン、キーエンスなど)
- 建設・不動産
(三井不動産レジデンシャル、住友不動産販売、積水ハウスなど)
- メディア(福島放送、テレビユー福島、福島民報、福島民友など)
- 情報通信(NTT東日本、NTTドコモ、富士通など)
- コンサルタント、マーケティングリサーチ(アクセンチュア、マクロミルなど)
- 専門職(公認会計士、税理士、社会保険労務士、商業高等学校教諭など)
- 大学院進学
(東北大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、福島大学など)

カリキュラムの特長

小集団学習をベースにした積み上げ式の教育体系

経済経営学類に入学したらまず全員が「リテラシー科目」を第1セメスターから第3セメスターまで学び、経済経営の基本を身につけます。そのうえで第4セメスターから専門演習に所属し、それぞれの活動や研究を展開します。第7セメスターから卒業論文をまとめていきます。この積み上げ式のカリキュラムによってグローバルな思考と実践力を養成します。

学士号と
取得できる
教員免許・資格

- 学士(経済学)
- 高等学校教諭一種免許状(商業)



		1 年次 		2 年次 		3 年次 		4 年次 															
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター							
経済学・経営学の 基礎を修め 垣根を越えて学ぶ		リテラシーA（必修：7科目）												経済学コース		経済理論モデル							
		・入門マクロ経済学 ・入門政治経済学 ・入門経営学 ・簿記概論I				・入門ミクロ経済学 ・簿記概論II				・入門統計学													
リテラシー科目（A・B） 経済経営学類の学生に、まずは必ず学んでほしい基本的な科目が「リテラシー科目」です。リテラシーAの7科目はすべて必修で、リテラシーBの9科目はそのうちの7科目を自分で選択して必修としています。入学から1年半の間に、順番に履修することになります。		リテラシーB（選択必修：9科目中7科目）												経営学コース		地域経営モデル							
		・歴史と経済 ・基礎経営学I ・多文化理解				・ミクロ経済学I ・マクロ経済学I ・世界経済論I ・地域と経済 ・基礎経営学II ・入門会計学																	
これからの 「働き方と暮らし方」 を考える		・キャリア形成論								・キャリアモデル学習 ・ワーキングスキル						専門演習（ゼミ）、卒業研究演習 2年次の後半から、自分の学びたい分野、教わりたい教員のゼミを選んで所属します。本を輪読して議論したり、国内外へ調査に行ったり、地域の課題に実践的に関わったりと、その活動はさまざまです。その成果を卒業論文へとまとめていくことになります。経済経営学類での小集団学習の中核となるもので、その充実した内容には自信があります。							
										・組織行動論				・労働経済									
		・社会とデータ科学の基礎		アドバイザー教員 スタートアップセミナー、問題探究セミナー、専門演習の教員が学修や進路など大学生生活全般のアドバイスをを行います。専門演習に所属しない学生は別途アドバイザー教員となる教員を決定します。						調査・分析スキルズ													
												コーオプ演習／連携講義											
		調査力・分析力を身につける																					
フィールドで学ぶ、アクティブに学ぶ		地域をフィールドに実践する																					
		学問と協働の作法を学び研究活動を実践する		スタートアップセミナー		問題探究セミナーI		問題探究セミナーII		専門演習				卒業研究演習I		卒業研究演習II							
		グローバルに学び実践する		・アドバイザー教員制度												卒業研究※							
		グローバル・エキスパート・プログラム（グローバルEP）																					
基盤教育		外国語を学ぶ		外国語コミュニケーション科目（英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国朝鮮語）																			
		幅広い教養を身につける		学術基礎科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）				情報リテラシー		健康運動科学実習		スポーツ実習		問題探究科目		自主学修プログラム							
さらに幅広く学ぶ		自由選択領域（他コース専門科目、他学類開放科目など）																					

※優秀な卒業研究に対して「飯塚賞」を授与しています

飯塚賞とは、飯塚毅氏の同窓会への寄付金及び氏の栄誉を永く記念する「飯塚基金」の運用益金をもって毎年度の優秀卒業生を表彰するものです。



幅広い教養と経済・経営の専門知識を身に付け グローバルに活躍する人材を育成します

学類長 メッセージ

Message

暮らし働くための知恵 他者の生への想像力 したたかな批判の知性

大学進学を考える皆さんに対して、世間も政府も大学も、もしかしたら皆さんのご家族も、「こんな力をつけてこんな何者かになれ」と語るでしょう。しかし、さしあたりそんなことは頭の片隅に留めておけば、あとはあんまり気にしないでいいと思います。もちろん具体的な目標を定めて、教室や図書館で、そしてできれば自宅でも電車の中でも、勉強はしてほしい。しなくていいわけがない。そのための大学です。

しかし、大学でしかできない勉強を通じて身に付けてほしいのは、具体的な知識の先にある、もっと大切な3つのことです。それをタイトルに掲げました。勉強はやはり暮らしと仕事の役に立つのです。知恵は自分を守りもします。また、学ぶことで他者の生をわがこととして想像理解できます。私たち自身が他者から理解されるためにも、その想像は不可欠です。そして私たちが生き辛くするあらゆる物事を正しく批判しそれに屈しない勁(つよ)さこそが、知性の別名。これを心に覚えて卒業するとき、皆さんはすでに「何者か」になっているはず。南東北のこの地で経済経営会計の学府を営んで百有余年、戦争も経済変動も地震も原発事故も経験してきた福島大学経済経営学類は、そんな教育に自信があります。



経済経営学類長 熊沢 透 教授

教員紹介

※2025年4月1日現在

経済学コース

荒 知宏 (国際経済学)
石川 大輔 (マクロ経済学)
井上 健 (統計学、計量経済学)
岩本 吉弘 (社会思想史)
大川 裕嗣 (西洋経済史、ドイツ農業史・社会経済史)
菊池 智裕 (労働経済、社会政策、社会保障)
熊沢 透 (産業組織論)
佐藤 英司 (経済学[近代経済学])
佐藤 寿博 (開発経済学、アジア経済)
佐野 孝治 (アジア経済論、中国経済論)
朱 永浩 (経済地理学)
末吉 健治 (アメリカ経済論)
十河 利明 (環境経済学)
沼田 大輔 (地域経済学、地方財政論、環境経済学)
藤原 通 (労働過程論、労働社会学)
三家本 里実 (都市・地域計画、地域交通政策、観光政策)
吉田 樹

経営学コース

生島 和樹 (会計学、財務会計)
稲村 健太郎 (租税法)
奥本 英樹 (ファイナンス)
奥山 修司 (マネジメント会計、取引デザイン)
奥田 同 信 (簿理会計、原価計算)
金 善熙 (組織行動論)
高橋 晶和 (会計学【財務諸表論、原価計算論】、監査論)
根建 晶寛 (財務会計、企業評価分析)
野口 寛樹 (組織論、非営利組織論)
村上 早紀子 (地域づくり、住居学、都市計画)
尹 卿烈 (経営戦略、国際経営論、ビジネスイノベーション論)

グローバル・エキスパート・プログラム

伊藤 俊介 (朝鮮近代史)
井本 亮 (日本語学、日本語教育)
吉高 伸明 (国際公共政策論、国際関係論)
クズネツォーフ・マリナ (社会論)
グンズケフォンケルン・マルティナ (外国語教育法)
手代木 有見 (中国近代思想史)
福富 靖之 (理論言語学、比較統語論)
マッカーズランド・フィリップ (英語教育法【異文化コミュニケーション】)
横内 裕一郎 (スピーキング、英語教育学)
吉川 宏人 (十九世紀ロシア文学)

詳しい
経歴は
こちら



活動
PICK UP!

ゼミナール合同報告会

演習系科目での学生による研究活動の集大成として、12月下旬にゼミナール合同報告会を開催しています。経済経営学類における年末の恒例行事で2007年から毎年開催されています。各ゼミナールのアプローチは経済理論に基づく政策分析、統計学を活用したデータ解析、日本と海外における制度の比較、地域や海外でのフィールド調査など多岐に渡り、本学類における研究活動の多様性を象徴するホットなイベントとなっています。



海外インターンシップと 「Work Experience Abroad I・II」

本学類では、年間を通じた教育プログラムとして海外インターンシップを提供しています。まずインターンシップに先立ち、身につけておくべき文化や技術をネイティブスピーカーの教員から英語で学ぶ授業があります(WEA I)。そして8月から9月の約2ヶ月間、米国テキサス州ヒューストン市役所でインターンシップに参加します。職場体験だけでなく、現地の大学(University of St. Thomas)で福島について発表するなどの機会もあります。帰国後は各自の体験を英語で報告する授業が用意されており、学びをさらに深めることができます(WEA II)。



まちづくりのためのフィールドワーク

地域経営モデルでは、机上の学習に留まらず、実際にフィールドに出向くことで地域課題に取り組む点が特徴です。村上ゼミでは、空間の再編集および利活用、コミュニティビジネスなど地方都市が抱える課題をキーワードにしながら、地域の住民の皆さんや、まちづくり会社をはじめとした地域組織との議論および連携により研究活動に励んでいます。



“会計人”を目指したプログラム

2019年度より開始した「会計エキスパート・プログラム」では、会計専門職や経理財務担当者、高校教諭や研究者など、多様な“会計人”を目指した主体的な学修を支援する体制を整えました。系統的な学修、所定の検定試験への合格、一部の大学院授業の履修などの基準を満たした学生に「会計エキスパート・プログラム修了証」を授与しています。学類棟1階には専用の自習室を設けているので、意識の高い仲間とともに緊張感を持って学修に取り組んでください。





経済学コース

経済理論モデル / グローバル経済モデル



主な科目

- ミクロ経済学
- 政治経済学
- 公共経済学
- 産業組織と規制の経済学
- 国際経済学
- 世界経済論
- 経済学史
- マクロ経済学
- 財政学
- 労働経済
- 計量経済学
- 国際関係論
- アメリカ経済論
- 日本経済史
- 入門金融論
- 経済政策
- 環境経済学
- 日本経済論
- 開発経済学
- アジア経済論
- 比較経済史

経済学コースでは、経済社会の課題はもちろん、

歴史と現在、そして未来を考えるために、各教員が連携、協力し合い、研究と教育を進めます。

学生の皆さんにとっても、科目が選びやすくなり、

経済社会をより多角的に理解できる環境が整っています。

経済理論モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適應することができる人材を目指します。



グローバル経済モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだうえで、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材を目指します。



経営学コース

地域経営モデル / 会計ファイナンスモデル



主な科目

- 経営戦略論
- 人的資源管理論
- 地域企業経営論
- 国際経営論
- 経営情報分析
- 中級簿記
- 原価計算
- 経営組織論
- マーケティング論
- 地域経済論
- 調査法
- 財務管理論
- 上級簿記
- 管理会計
- 組織行動論
- 消費者行動論
- 地域政策論
- 租税法
- 現代ファイナンス
- 財務諸表論
- コスト・マネジメント

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPOなど)も対象としながら、

より幅広い視点で経営現象をとらえます。

特に地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、

基礎を修めながら垣根を超えて学ぶことができるのが特徴です。

地域経営モデル

少子高齢化や人口減少は現在の日本社会全体が抱える課題ですが、とりわけそれが著しいのが地方都市です。そこで地域経営モデルでは、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材を目指します。



会計ファイナンスモデル

企業活動の結果を分析し、将来に向けて適切な経営意思決定を行うためには、会計情報を活用する知識の習得が不可欠です。会計ファイナンスモデルでは、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学習し、会計数値を経営行動に活用できる人材を目指します。



在学生からのメッセージ

Student's Message

〔 経済学コース 〕



実践的な学びから
地域に役立つ提案を

経済経営学類 経済学コース 2年〔福島県立磐城桜が丘高等学校出身〕

渡邊 茉凜さん

※学年は取材当時のものです。

東日本大震災当時、富岡町に住んでいて、最初に避難したのが川内村でした。小学1年生で一週間程度しかいませんでしたが、お世話になったことは覚えており、地域実践学習プログラム「むらの大学」の対象に川内村があると聞いて、改めてどんな村なのか知りたいと思い福島大学を選びました。

経済学では経済事象の要因などを理論的に学び考えることが多く、ニュースを見ていてその学びから点と点が繋がると楽しくなります。2年のゼミでは大内宿の人口減少や県内の道の駅への立ち寄りを増やす方を研究しました。3年では中小企業と連携して、経営について実践的に学ぶ予定です。地域経済や交通政策など地域に関する勉強に力を入れており、将来は地域の方々に貢献できる仕事に就きたいと考えています。

〔 経営学コース 〕



実務的な学びで
会計のエキスパートを
目指す

経済経営学類 経営学コース 3年〔栃木県立宇都宮南高等学校出身〕

小林 賢征さん

※学年は取材当時のものです。

経済経営学類は2022年に創立100周年を迎えた伝統があり、OBも多く就職にも強いと考え福島に来ました。将来は企業の経理部門で働きたいので、会計に重点を置いて学んでいます。普通高校出身なので会計の知識はなかったのですが、リテラシーAで取った簿記の授業が大変わかりやすく、資格も取ることが出来ました。租税法のゼミで小学生に税金について教えるカルタを作り、市内の小学校の学童保育で試したりもしました。

入学当初はコロナ禍で授業がオンラインになったり、サークルも出来ない時期がありましたが、逆に勉強する時間がありました。会計のエキスパートを目指しながら、最終的には税理士になりたいと思っているので、福島大学での学びを土台にして、社会に出てから実戦経験を積んで勉強を続けたいと思います。



コース横断プログラム

グローバル・エキスパート・プログラム(グローバルEP)

中国、韓国、ロシア、ドイツ、米国出身の教員を擁する経済経営学類。異なる国籍、文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える。これが経済経営学類の目指す国際性です。グローバルEPには、学生が海外に飛び立てる、また福島で外国人留学生と交流できる特色ある授業があります。少人数の英語ゼミに所属し、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また日本語、英語とともに、欧州評議会が提案している複言語主義に基づき、英語以外の外国語を学び、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた語学力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなどさまざまな異文化体験を積むことができます。



Step out of your comfort zone! 成長を望むなら「快適な場所から飛び出さない」という意味です。このプログラムは、あなたがその一歩を踏み出す一助となるはずです。ぜひ福島で世界を感じ、世界とコミュニケーションしましょう。

Fukushima Workshop

世界各国の協定大学から短期で来日する留学生と、東日本大震災の被災地を訪問したり、市内の農家で桃狩りなどをしつつ交流を深めるFukushima Workshop(Fukushima Ambassadors Program)を開講しています。

ドイツ語実践演習／ロシア語実践演習

ドイツに渡航し、ロシアはリモート留学を通して、語学研修を受けます。同時にさまざまな社会的・文化的なエクスカッション(小旅行)に参加します。

毎日英語

「毎日英語」として英語授業を毎日受講できます。ネイティブスピーカーの英語による授業も選べます。

Work Experience Abroad (WEA)

米国テキサス州の最大都市ヒューストンに2ヶ月間ホームステイし、現地の企業や市役所で実務研修を受けます。研修で使用する言語はもちろん英語です。研修期間が終了する頃には、英語力が飛躍的に向上すると評判です。

海外調査

中国、タイ、ベトナムなどのアジア地域やドイツなどのヨーロッパ地域に渡航し、現地の企業活動や社会問題に関する調査を行い、同時に現地のさまざまな文化に触れることのできる授業です。

○調査・分析スキルズ

さまざまな意思決定の場において、経験に基づく判断のみでは対応できない状況が生じています。そこで、必要となるのが、データに基づく判断です。まずは、課題を正しく把握したうえで、その課題の解決に向けた計画を立てる必要があります。計画の中では、適切な調査のやり方、収集するデータの種類などについて丁寧に確認していくことが要求されます。調査の実施後、集まったデータを適切に処理し、そこから具体的な解決方法を見つけていきます。このようなデータに基づく意思決定を行うための方法を習得するために、「調査設計を身につけるための科目」「データの分析方法を身につけるための科目」の2種類の領域についてさまざまな科目を開講しています。また、それらの科目の中では、データの処理に不可欠となるコンピュータによる処理方法についても学んでいきます。



○コーオプ演習／連携講義

企業や業界団体など、さまざまな外部組織と提携した実践的な科目を多数揃えています。演習形式の「コーオプ演習」と講義形式の「連携講義」があります。コーオプとは「cooperative(協同の)」のことで、外部組織と大学が協同運営する新しい演習形態です。短期のインターンシップでは得られない、実践的な課題解決を体験することができます。連携先には、アクセントチュア(コンサルティング会社)、自治体、NPOなどがあります。一方、連携講義は、連携先の外部組織が講義を担当するもので、現実のケースを通じて専門的な内容を学ぶことができます。租税法概論(東北税理士会)、財務諸表監査(日本公認会計士協会東北会)などがあります。



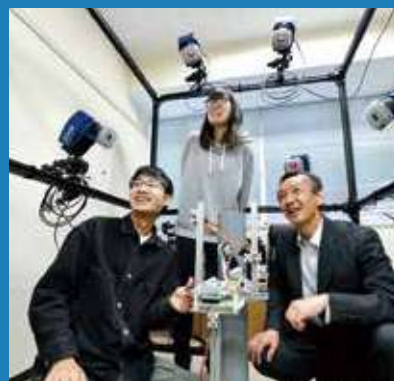
共生システム理工学類

Faculty of Symbiotic Systems Science



共生システム理工学類は、共生システムの名の下に、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学び、21世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成することを教育目標に掲げています。この教育目標を実現するため、4つのコースを設定しています。

学類紹介MOVIEを
チェック!



■ 情報理工学コース

■ メカトロニクスコース

■ 分子デザイン科学コース

■ 環境システムコース

こんな人に学んでほしい

共生を科学する新しい教育・研究システムのもとで、卒業までに次の4点を身につけたい学生を受け入れます。

- 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- 論理的で的確な立案力と決定力
- 学際的・国際的に実践する力
- 積極的かつ持続的な貢献意識

SHINING GRADUATES



社会で
活躍する
卒業生

Interview

福島市小鳥の森 レンジャー NPO法人 野鳥の会ふくしま
共生システム理工学研究科 博士前期課程 環境システム分野 2015年修了

増淵 翔太さん

※勤務先は取材当時のものです。

福島 naturally 生きものたちの魅力を伝えたい。

「福島市小鳥の森」では環境教育と環境保全を柱としており、小学校などの団体利用の対応や、小学校を訪問して小鳥や自然の話をしたり、来園される方向けのイベント企画や自然についてお伝えしています。

大学2年の時に福島市内の川で水生昆虫の調査をする授業があり、子どもの頃に昆虫好きだった気持ちにスイッチが入り、昆虫の研究をしている研究室に入りました。卒業研究では裏磐梯の湖沼群に生息する底生動物相、大学院ではその過程で確認された未記載種のカゲロウの形態学、生態学的研究を行いました。大学では先生方に恵まれ、ほかの分野の先生方との交流も刺激になりました。今でも研究室



の先生に声をかけていただき、福島県内の昆虫や鳥類に関する情報提供などのお手伝いをしています。

虫や鳥に興味を持ってきて、5歳の時からここに通ってくれている子が小学4年生になりました。これからも生きものの楽しさや魅力を伝えて、自然好きな人たちを増やしていきたいと思っています。

卒業後の 主な進路

【情報理工学コース】

- ソフトウェア・情報通信業
- 製造業(ソフト設計、生産管理)
- 運輸・サービス業(分析部門)

【メカトロニクスコース】

- 電機・自動車・プラント関連製造業
- 医療・福祉機器関連製造業
- 電子・情報通信関連企業

【分子デザイン科学コース】

- 化学関連製造業
- エネルギー関連企業

【環境システムコース】

- 水・環境・防災関連企業
- 環境・建設コンサルタント
- 博物館の自然史系学芸員

【学類共通】

- 大学院進学
- 中学校・高等学校教員(理科・数学・情報)
- 国家公務員および地方公務員(技術職・総合職)

カリキュラムの特長

異分野の専門家と協働できる人材を育成するために

1年次では数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミングなどを幅広く学び、2年次からは4つの専門コースに分かれて深く学びます。3年次後期からは研究室に配属され、各コースで学んだ知識を基に新しい知識を生み出す研究のプロセスを、教員や大学院生による指導・助言のもとで体験します。ここでは、自分と異なる分野の専門家と適切な討論を行えるようになることも重視されます。



- 学士(理工学)
- 中学校教諭一種免許状 (理科/数学 ※)
- 高等学校教諭一種免許状 (理科/情報/数学 ※)
- 学芸員資格

※数学については他学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状。

資格試験受験の補助制度

福島大学共生システム理工学類後援会では、会員の1～4年生を対象に資格試験受験料を補助しております。

- 資格試験1種類につき、3,000円を補助 (3,000円以下の場合は半額補助)
- 年度内、1人3回まで補助可能

		1年次 		2年次 		3年次 		4年次 											
学びの目標		複数分野の理工系の基礎を学ぶとともに、諸課題を学際的・システム的に捉える力を養います。		コースの専門科目を学びながら、自分がどのような分野で活躍したいかを見つけ、必要な知識や経験を修得します。		より踏み込んだ専門的な知識・技能を修得するとともに深化させます。その上で、4年間の学びの集大成として「卒業研究」に取り組みます。													
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター			
		高校の学びを大学の学びに高め、諸課題をシステム的に捉えるために、複数分野の理工系の基礎科目を学びます。		2年次の前期（3セメスター）から、4つのコースのいずれかに所属して専門領域を深く学びます。必要に応じて、社会科学系の科目を学ぶこともできます。		3年次後期（6セメスター）からは研究室に配属されて、演習や卒業研究を行います。													
専門教育		共通カリキュラムで複数分野を学ぶ 学類専門科目 ・共生の科学I 接続領域科目 ・接続数学 ・接続理科 学類基礎科目 (1,2セメ) ・プログラミング基礎 ・物理学I・II ・化学I・II ・生物学 ・地球科学 ・数学I・II・III (3セメ) ・環境放射能学概論 横断的に学問の面白さを学ぶための基礎内容を「接続領域科目」として学びます。さらに「学類基礎科目」を学ぶことで広い分野から自分の目指す専門分野を絞り込んでいきます。「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・システム的に捉える力を養います。		2年次前期からコース所属 情報理工学コース ・線形写像と幾何I ・集合と位相I ・計算機システム論 ・アルゴリズムとデータ構造I ・データベースシステム ・ソフトウェア設計開発論 ・マルチメディアシステム論 ・ネットワークシステム ・人工知能と知識処理(*6セメ) など メカトロニクスコース ・数理モデリング ・材料力学 ・物理学実験 ・制御工学 ・人間工学 ・量子力学 ・流体力学 ・デジタル信号処理 ・電子・生体工学実験 など 分子デザイン科学コース ・物理化学 ・分析化学 ・化学実験I ・化学工学 ・機器分析 ・化学実験II ・高分子化学 ・再生可能エネルギーI ・化学実験III など 環境システムコース ・水循環システム学概論 ・環境計画論 ・気象学 ・生物・地球環境システム概論 ・環境保全論 ・地球環境科学実験 ・森林生態学 ・保全生物学実験 ・サイエンスライティング演習(*8セメ) など		3年次後期から研究室配属 4年間の指導体制 1年次から3年次前期まではグループアドバイザー（教員）が生活と修学の指導を行います。3年次後期からは研究室に配属され、研究室の指導教員が演習や卒業研究を指導します。													
								・スタートアップ科目 ・ライフマネジメント科目		外国語コミュニケーション科目									
								学術基礎科目		健康・運動科目		情報科目							
基礎教育		外国語科目		キャリア設計科目															
		・問題探究セミナー																	
		問題探究科目		自主学修プログラム															
自由選択領域		他学類の科目		海外演習															



横断的に複数の分野で学問のおもしろさを学んで

自分の目指す専門分野を絞り込み知識を増やす。

学類長 メッセージ

Message

システム科学を 志向しよう

高度情報化社会への対応、人支援技術と産業の創出、カーボンニュートラルの実現、自然環境・災害・温暖化と社会との関わり、これらの課題に取り組むには、理学と工学、科学と技術、自然と社会をシームレスに俯瞰することが求められます。共生システム理工学類は、地球規模で顕在化している21世紀的課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を育成することを教育目標としています。

理工系人材として巣立った皆さんに社会から期待されているのは、データや論理に基づく丁寧な説明力と的確な判断力であったり、卓越する技能や実践力です。皆さんは、21世紀的課題あるいは学問的興味にどのような専門性を備えて取り組みますか。専門性を磨くと共に、広い視野をもち多面的に物事を捉える素養とシステムとして物事を捉える思考が諸課題の解決には欠かせません。

大学入学はゴールではなく、スタートです。皆さんと知的な創造活動を楽しみ、時には熱く、時には苦しくとも、最後までお付き合いします。



共生システム理工学類長 長橋 良隆 教授

教員紹介

2025年4月1日現在

情報理工学コース

石岡 賢 (技術経営、製品開発戦略、マーケティング戦略)
石川 友保 (ロジスティクス、オペレーションズ・リサーチ)
内海 哲史 (情報ネットワーク)
大沼 亮 (データ工学)
寛 宗徳 (経営工学、教育工学)
笠井 博剛 (非線形偏微分方程式論、応用数学)
ザビル サラウディン (情報ネットワーク、ネットワークセキュリティ、IoT、人工知能の応用)
董 彦文 (経営情報システム)
中川 和重 (非線形解析)
中村 勝一 (データ工学、教育工学、HCI)
中山 祐貴 (HCI)
西嶋 大輔 (環境システム分析、環境経済学)
長谷川 真吾 (暗号理論、情報セキュリティ)
樋口 良之 (経営工学、資源・廃棄物に関わる計画、管理、評価)
藤本 勝成 (非加法的集合関数、知能情報学)
三浦 一之 (アルゴリズム論、グラフ理論)

メカトロニクスコース

稲田 シュンコ アルバーノ (医用工学、光生物学)
衣川 潤 (ロボット工学)
島田 邦雄 (流体工学、エネルギー工学)
高橋 隆行 (ロボット工学、制御工学)
高原 円 (精神生理学、睡眠科学)
田中 明 (医用工学)
馬場 一晴 (素粒子的宇宙論)
松本 正晴 (計算科学)
山口 克彦 (物性物理学、放射線科学)

分子デザイン科学コース

浅田 隆志 (環境衛生科学、バイオマス資源学)
生田 博将 (無機固体化学、固体電気化学)
猪俣 慎二 (無機化学、有機金属化学)
岩村 振一郎 (化学工学、材料化学、電気化学)
大橋 弘範 (物理化学、X線γ線分光学)
大山 大 (合成化学、金属錯体化学)
杉森 大助 (生物学)
高貝 慶隆 (分析化学、分離化学、分子機能学)
高安 徹 (有機化学、構造有機化学)
中村 和正 (材料工学、材料物性、材料分析)

環境システムコース

兼子 伸吾 (保全生態学、分子生態学)
川越 清樹 (河川工学、水文学、防災工学、環境影響評価)
川崎 興太 (都市計画、まちづくり)
黒沢 高秀 (植物分類学、生態学、地域の植物相)
後藤 忍 (環境計画、環境システム工学、環境教育)
柴崎 直明 (地下水盆管理学、水文地質学、応用地質学)
簡井 雄二 (実験心理学、神経科学、災害心理学)
塘 忠顕 (昆虫の比較形態学、地域の昆虫相・カニムシ相)
長橋 良隆 (地質学、火山地質学、第四紀地質学)
永幡 幸司 (サウンドスケープ)
難波 謙二 (環境微生物学)
廣田 峻 (植物生態学、進化生態学、保全生物学)
横尾 善之 (流域水文学、水資源工学)
吉田 龍平 (気象学、応用気象学)

附属水素エネルギー総合研究所

大樂 武範 (核融合学)
宗像 鉄雄 (伝熱工学、エネルギー工学)
諸岡 哲朗 (電気化学、燃料電池、界面化学)

共生システム理工学類は、「共生」をテーマに現代社会や地域の問題をシステム科学的にとらえ、解決できる理工系人材の育成を目指しています。そのため1年次では、基盤教育に加え、数学、プログラミング基礎、物理学、化学、生物学、地球科学、共生の科学といった専門教育の基礎となる科目に力を入れます。幅広いジャンルの学問にふれ、実践的・体験的な学びを通して、自分の将来を見つめる視点も養います。

共生システム理工学類 履修基準表

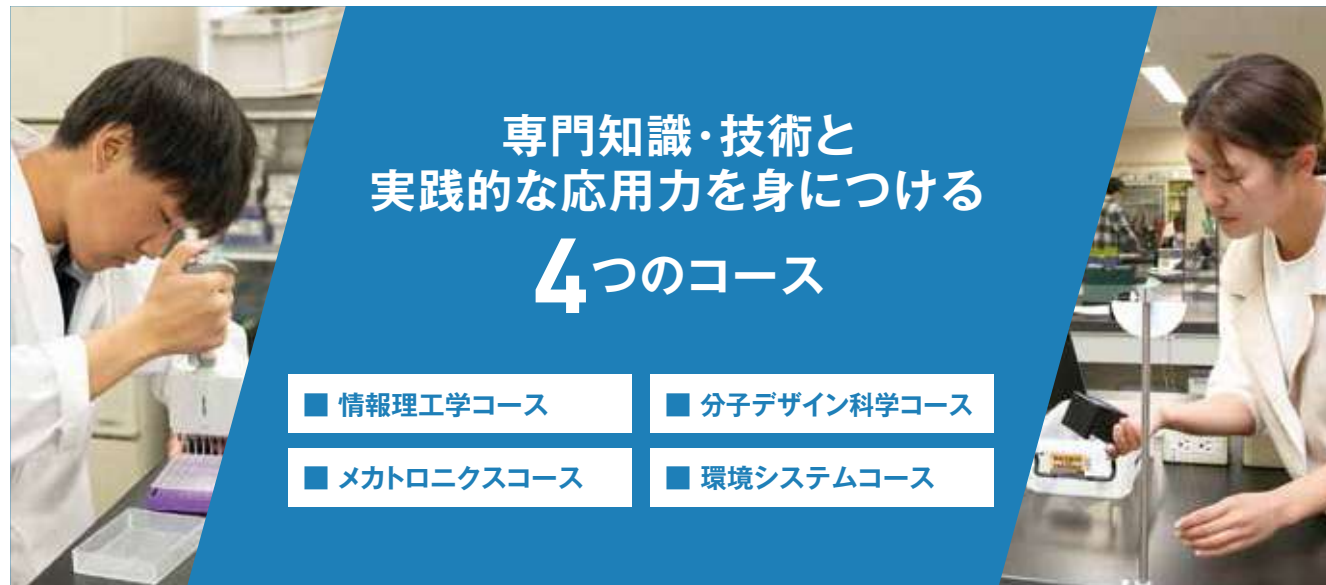
	領域区分	科目区分	開設科目等	履修年次	セメスター	1科目単位数	卒業要件必修	卒業要件選必
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	/
			社会とデータ科学の基礎	1	1	2	2	/
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	/
			健康運動科学実習	1	1	1	1	/
	教養領域	外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ・AⅡ	1～	1～	1	4	/
			人文科学分野の科目	1～	1～	2	2	7
			社会科学分野の科目	1～	1～	2	2	
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2～	3～	2	2	
			ワーキングスキル	2～	3～	1又は2	/	
		健康・運動科目	スポーツ実習	1～	2～	1	/	
			外国語科目	英語BⅠ・BⅡ	2～	3～	1	
		応用英語		1～	1～	1		
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ		1～	1～	1		
	英語以外の外国語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	1～		1～	1			
	問題探究領域	情報科目	情報リテラシー	1～	1～	2	/	
		問題探究科目		1～	1～	2	2	
		自主学修プログラム		1～	1～	1又は2	/	
問題探究セミナー		問題探究セミナーⅠ	1	2	2	2	/	
小計						34		
専門教育	学類共通領域	学類共通科目	共生の科学Ⅰ	1	1	2	2	/
		接続領域科目	接続数学・接続理科	1	1	2	4	/
		学類基礎科目		1～	1～	2	4	10
	コース領域	学類専門科目	共生の科学Ⅱ	3	5	2	2	/
		コース基礎科目(必修)		2～	3～	2	12又は8*	/
		コース専門科目(選択必修)		2～	3～	2	/	28又は32*
	演習	演習	問題探究セミナーⅡを含む	2～	3～	1又は2	6又は2*	4又は8*
		演習Ⅰ・演習Ⅱ	3,4	6,7	2	4	/	
	卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	4	7,8	2	4	/
小計						80		
自由選択	自由選択領域						10	
全体	総計					124		

※所属コースにより科目区分における卒業要件単位数が異なります。

専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準

	領域区分	授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター
学類共通領域	学類共通科目	共生の科学Ⅰ	2	2	/	1
	接続領域	接続数学*	2	4	/	1
		接続理科*	2	/	/	1
	学類基礎科目	数学Ⅰ(解析学)	2	4	/	1
		プログラミング基礎	2	/	/	2
		物理学Ⅰ(力学)	2	/	10	1
		化学Ⅰ	2			1
		生物学	2			1
		数学Ⅱ(線形代数)	2			2
		数学Ⅲ(統計学)	2			2
		物理学Ⅱ(電磁気学)	2			2
		化学Ⅱ	2			2
		地球科学	2			2
		環境放射能学概論	2			3
	学類専門科目	共生の科学Ⅱ	2	2	/	5

※入学後の1年次前期に、高校での学びと大学での学びをスムーズにつなげるために、接続数学と接続理科の2科目を履修します。これらの科目では、高校での学習を振り返るとともに高校で履修しなかった科目の内容にも触れて、大学での勉学を進めるにあたり不可欠となる基礎的な知識を学びます。



専門知識・技術と
実践的な応用力を身につける
4つのコース

- 情報理工学コース
- 分子デザイン科学コース
- メカトロニクスコース
- 環境システムコース

情報理工学コース



数学やアルゴリズムなどの理論から、プログラミングを含めた情報システム設計・開発スキル、データ分析や問題発見が行える実践力まで、バランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。

理論から、システム開発、実践までバランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。特に、現実の事象のモデリングや分析を支える数学のスキル、ソフトウェアの設計開発に不可欠なネットワークやデータベース、人工知能など情報科学のコア知識とプログラミングスキル、さらに、生産技術や物流などITの社会実装に必要な経営工学的な視野を備え、技術の変化に対応することのできる実践力を養います。

- ①多様な事象を的確にモデル化し、データを分析・活用するために必要な数学の基礎知識。
- ②計算機やコンピューターネットワークの仕組みを理解し、ソフトウェアシステムを設計・実装・運用する能力。
- ③ITの社会実装における問題を経営工学的な観点から自ら発見し、解決策を導く能力。

主な専門科目

- 線形写像と幾何I・II
- 集合と位相I・II
- 計算機システム論
- プログラミングI～III
- アルゴリズムとデータ構造I・II
- データベースシステム
- ソフトウェア設計開発論
- 人工知能と知識処理

メカトロニクスコース



物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、さまざまな分野で役立つ“技術”や“システム”の創出を担う研究者・開発者を育てます。

人々の生活を豊かにする新たな「技術」や「システム」の創出を担うために必要となる、ものごとの基礎的理解から分析・設計・シミュレーション・実装・検証までの能力を有する研究者・開発者を養成します。そのために、物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、新機能を持つデバイスなどの要素技術や新たな測定手法、ロボティクスや生体医工学における制御技術・数値シミュレーション・信号処理技術や人理解などの研究を通して、物・人・現象などのモデル化、システム設計、製作などの技術の体系的な学びを提供します。

- ①物理を基本とする工学的知識の理解。
- ②物事・人・現象などをシステムとみなしてモデル化する方法の理解と応用。
- ③人の生活に役立つものづくりのための設計と製作技術の修得。

主な専門科目

- 数値モデリング
- 電気回路
- 制御工学
- 材料力学
- 人間工学
- 量子力学
- 神経・生理心理学
- 物理学実験 など

分子デザイン科学コース



物質・材料関連分野について、化学に関するさまざまな講義や実験を通して体系的に学ぶことで、先進的でクリエイティブな化学系人材を育成します。

高機能で環境負荷の少ない新しい物質や材料を生み出すために、また新しい省エネ・創エネ・蓄エネなどのエネルギー技術の開発のために、化学実験をはじめとする様々な「化学」を学びます。これを基に、小分子レベルからナノレベル、バルクレベルで物質や材料を捉え、現代社会における諸課題を解決するための最先端の研究に取り組みます。

- ①化学に関する体系的な基礎知識と応用力の修得。
- ②実験や機器分析を重視した研究手法の修得。
- ③化学的なアプローチによって、現代社会における諸課題を解決する方法を提案し、自らの行動できる力を修得。

主な専門科目

- 物理化学
- 有機化学
- 無機化学
- 分析化学
- 機器分析
- 化学工学
- 資源・エネルギー工学
- 化学実験I～IIIなど

環境システムコース



自然災害の予測や防災、環境や生物の保全、持続可能な社会の構築に関して、実践的かつ技術的に対応できる人材や、教育・普及に専門的に携わることのできる人材を育成します。

環境をシステムとして多面的、体系的にとらえるために、環境に関する諸問題を、文理の垣根を越えて実践的に学び、研究するコースです。地球科学、自然史、生物多様性など自然環境に関する専門知識に加え、社会環境や文化環境に関する幅広い理解と自然を含む社会システムを多面的に計画・管理する能力を養うための学修・研究を行います。

- ①さまざまな分野で利用される地球科学、生物学、環境学の基礎的な知識。
- ②多彩で豊富な実験や野外実習で修得する、地球環境や多様な生物、環境問題を調査する能力。
- ③自然災害の予測や防災、環境や生物の保全、持続可能な社会の構築などに関する調査・分析の技術やこれらを計画・管理する能力。

主な専門科目

- 生物・地球環境システム概論
- 水循環システム学概論
- 環境保全論
- 環境計画論
- 地球環境科学実験
- 保全生物学実験
- 社会計画演習
- サイエンスライティング演習

在学生からのメッセージ

Student's Message

数理・情報科学コース 4年 [宮城県白石高等学校出身] 十文字 快さん

※学年は取材当時のものです。

共生システム理工学類では1年次で基礎科目を学び、2年から専門領域のコースに分かれます。僕は高校の時は大学で化学を学ぼうと考えていたのですが、入学後にほかの分野に触れ、数理・情報のほうに惹かれてこちらに進みました。やりたいことを吟味する時間があつたのは良かったと思っています。

3年の後期から藤本研究室に配属して、機械学習について学んでいます。4年では機械学習を使って、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた研究を行います。実際のデータを分析して研究ができることは、地域に根差した福島大学ならではの学びだと思います。

入学後に広がった
知識から未来が
生まれる



水素エネルギー総合研究所

Hydrogen Energy Research Institute



福島県の重点課題の一つである水素・再生可能エネルギーに関する教育研究を推進するため、令和6年度より「水素エネルギー総合研究所」を共生システム理工学類の附属研究所として設置しました。

この研究所では、水素を中心とした再生可能エネルギーの製造・貯蔵・輸送・利用・管理という一連のエネルギー循環を強く意識した研究を行うため、以下の2部門4グループを組織します。あわせて、共生システム理工学類の学生教育にも積極的に参画し、関連産業に携わることのできる高度な専門人材を育成します。

【エネルギー地産部門・エネルギー製造グループ】

福島県内の豊かな自然資源を活用した水素製造技術の開発や、地球内部を起源とする新たな水素源の探索を行います。

【エネルギー地産部門・エネルギー貯蔵グループ】

水素をより安全かつ簡単に貯蔵・輸送するための「水素キャリア」への分子変換技術や、水素を物理的に貯蔵・輸送するための高強度複合材料等を開発します。

【エネルギー地産部門・エネルギー活用グループ】

水素需要の主流となる燃料電池や小規模水素発電・水素ボイラー等に関連した要素技術や、発電に伴う廃熱回収システム等を開発します。

【エネルギー地産部門・エネルギーマネジメントグループ】

水素の需給予測や各種設備の最適化等のマネジメント技術を開発します。また、水の電気分解による水素製造に不可欠な水資源管理、水素社会実現に向けた社会実装を県内自治体と連携して推進します。

環境放射能研究所 (IER)

Institute of Environmental Radioactivity

環境放射能の先端研究・教育拠点



大気、森林、農地、河川湖沼、海洋等の環境・生態系における放射性物質の物理、化学、生物作用による動態および動植物への放射線影響、さらにこれらの基盤となる分析、計測、シミュレーション技術の開発や被曝防護で研究と教育を行っています。福島県環境放射能の課題について取り組み、国際協働による海外への情報発信を目指す研究を通じて、これらを担う研究者や技術者等の育成教育を行っています。

特修プログラム

特定のテーマに沿った特修プログラムを設定しています。
必要な単位を修得することにより、各プログラム修了の認定を受けることができます。

■ 放射線科学専修プログラム



原子力発電所災害をきっかけとして関心が高まった放射線について、科学的に理解し対応することのできる人材の育成を目指したプログラムです。「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位修得を課しています。

■ 水素・再生可能エネルギー専修プログラム



水素・再生可能エネルギーに関する理工系的な知識修得を目的とした科目を多数設定し、複数のコースを横断した幅広いエネルギー教育を提供するプログラムです。

■ 実践情報工学プログラム



学士課程から大学院までの学修を通して、情報工学に関する基本的な実践力を有した人材の育成を目指したプログラムです。そのために、大学院進学希望者を対象として、1) 情報工学に関する基本的な知識・実践力、2) 学士課程の段階から大学院での学びや修了後の活躍像を含めた志望分野に応じた視野を獲得するとともに、本プログラム受講者を希望コースに優先所属するインセンティブが与えられます。

■ 地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラム



自然環境を土台としつつ多様な視点で地域を捉え、地域素材を用いた教材開発の手法や指導法をプロジェクト学習や問題解決型学習などを通じて学ぶプログラムです。小・中学校における経験を通じて子どもが持つ考え方や問題意識を学ぶほか、科学館等の施設における経験を通じて、子どもと保護者、地域における科学活動に対する理解を深め、地域の理科の先生に必要なとされる資質・能力の総合的な修得を目指します。

在学生からのメッセージ

Student's Message

共生システム理工学研究科 物理・メカトロニクスコース 1年 福島県立郡山東高等学校出身

熊田 有華さん

※学年は取材当時のものです。

小学校高学年の時に震災と原発事故があり、放射線について学びたいと思い福島大学を選びました。当時様々な情報が飛び交い、本当に正しい知識はどれなのだろうと悩みました。研究することで正しい知識を身に付け、それを伝えたいと思い学んでいます。

山口研究室の放射線の研究は、先輩たちから引き継がれてきたもので、現在行われている廃炉作業に関わる研究です。今後原子炉建屋内の燃料デブリの取り出しや保管をする際に、その放射線量の量や種類を推定する技術を開発しています。大学院でもこの研究を継続し、将来はそれを活かす専門性のある仕事に就き、廃炉作業に貢献できる技術を残したいですね。



正しい知識で議論し、
伝えられる専門家に

教員からのメッセージ

Message

共生システム理工学類
メカトロニクスコース

田中 明 教授

医工学の分野で、主に人工心臓の制御法や、肌の映像から心拍や血行を解析する方法などの研究開発を行っています。共生システム理工学類はコンパクトながら、各コースの基礎の学修はもちろん、融合分野についても学ぶことができ、教員と学生との距離が近いことが特徴です。研究室配属が3年後期からなので、就活や大学院を視野に入れたキャリア形成を考える際に、指導教員と直接相談することも本学類のメリットです。

コースや研究室を考える時、得意不得意で決めることが多いかと思いますが、でも、何か興味をもって取り組みたいことがあるなら、それを「やる」という気持ちを大切にしてください。研究では、様々な課題と直面します。得意かどうかとは関係なく「やる」力が求められます。興味をもった分野で苦手が得意になる喜びを、ぜひ感じて欲しいと思います。



「やる」という
気持ちに込める学びの場

食農学類

Faculty of Food and Agricultural Sciences



「農学専門教育」と「農学実践型教育」からなる
新たな農学教育により、食と農の課題に
主体的・創造的に取り組めるリーダーを育成します。

学類紹介MOVIEを
チェック!



こんな人に学んでほしい

本学類では、食品産業や農林業の第一線で活躍することや、
行政や教育機関などで食品産業や農林業を支えることを目指す
意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと
考える学生を受け入れます。

- 農学の専門知識を関連産業や地域社会の実践的な取り組みにつなげる力
- 異なる専門分野との学際的な交流によってチームプレイを推進できる力
- グローバルな科学的知見や国際比較の情報を地域の課題解決に活かす力
- 温かい眼差しと冷静な分析力によって地域社会への貢献を持続できる力

SHINING GRADUATES



社会で
活躍する
卒業生

Interview

福島県 農林水産部 環境保全農業課
食農学類 農業生産学コース 2023年3月卒業

佐藤 実結さん

※勤務先は取材当時のものです。

現場と一緒に課題を解決しながら 福島県の農業を支えたい。

高校2年の終わりに福島大学に農業県悲願の農学系学部である
食農学類が新設されると知り、そこで様々なことを学びたいと思い
入学しました。大学では応用昆虫学研究室に入り、まだあまり生態の
わかっていない「クビアカスカシバ」というぶどうの害虫に関する
研究をしていました。また、大学の演習活動や「福島大学農林サークル
福桃(フータオ)」で生産者と一緒に作業をしたことで、栽培技術や
経営戦略の工夫と努力を知り、生産者と福島県の農業の支えになり
たいと思い、技術職で県庁に入庁しました。

この1年は農作物の鳥獣被害対策を担当し、鳥獣対策研修会の
開催や市町村の被害対策支援などの業務を行っています。大学生の頃



と比べ福島県の農業について深く知ることが出来るようになり、生産
者の抱える問題を一緒に考え、取組を応援し、役に立ちたいと思い
ながら日々業務に励んでいます。今後は行政事務のほか農業普及や
試験研究などの業務に携わり経験値を上げ、最終的に「とりあえず
佐藤さんに聞けばわかる」と生産者に言ってもらえる職員になること
が目標です。

卒業後の 主な進路

- 食品関連企業
- 農業生産法人
- 農林技術系公務員
- 高校教員(農業、理科)
- 農業・農村起業家
- バイオマス関連企業
- 医薬品メーカー
- 試験研究機関
- IT・エレクトロニクス産業
- 復興支援員
- 観光・宿泊企業
- 土木建設企業
- 流通企業 など

カリキュラムの特長

「農学専門教育」と「農学実践型教育」

「農学専門教育」では、有機的に結びついた「4つの専門コース」で教員と学生が密接に連携しながら共に学び、専門性と学際的な思考力を養います。「農学実践型教育」では福島県全域を教育のフィールドとして、地方自治体・農業関係組織と密接に連携しながら、地域が抱えている課題の解決を目指します。学生・教員全員が地域に通いながら、課題の発見から解決策の提案までを経験し、現場ニーズへの対応力や専門知識を応用する実践力を身につけます。

学士号と
取得できる
教員免許・資格

- 学士（農学）
- 高等学校教諭一種免許状（農業、理科※）
- 食品衛生管理者（任用資格）
- 食品衛生監視員（任用資格）
- 食の6次産業化プロデューサー

- 危険物取扱者（受験資格）
- 自然再生士補
- 環境再生医初級
- ビオトープ管理士（受験科目一部免除）

※理科については他学類で開講されている授業の単位を取得する必要があります。

農学実践型プログラムの
サイトを開設!

ウェブサイトはこちらから▶



		1年次 		2年次 		3年次 		4年次 		
学びの目標		基礎教育と農業関連産業の基礎を身につける		グローバルな視点から専門をとらえる教養と農学の専門基礎を身につける		食料・農業の実践に関する専門知識・技術の習得と社会基盤の理解		ディプロマポリシーの達成		
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
課 程		教養・農学基礎課程			農学専門教育課程 ―専門を基礎とした実践的農学―					
					2年次後期よりコースの選択	食品科学コース				
						農業生産学コース			講 義	
						生産環境学コース			実 験	
						農業経営学コース			実 習	
専門教育		学類共通専門基礎科目			コース専門科目					
		数理リテラシー ・基礎数学 ・化学 ・統計学 ・生物学 ・物理学 農学リテラシー ・食品科学概論 ・生産環境学概論 ・農業生産学概論 ・農業経営概論 ほか ・農場基礎実習Ⅰ（1年次前期） 学内及び周辺に設けた農場で、米・果樹・野菜などの栽培実習や収穫・貯蔵などの実習を実施 ・農場基礎実習Ⅱ（1年次後期）			・世界の食料と農業	・食農データサイエンス（2年次後期） 1年次実習の成果を踏まえ、農産物加工、生産環境整備、農業経営に関する基礎的な情報処理・データ活用演習を実施	専門知識と実践力を融合させます		研究室配属 ・卒業研究基礎演習	・卒業論文 ・卒業研究演習Ⅰ（前期） 各研究室で関連領域の研究を行い、より高度な専門知識と実践力を修得 ・卒業研究演習Ⅱ（後期）
		学類共通専門科目			1年次から4年次まで切れ目なく演習・実習科目に取り組みます					
		・食農実践演習Ⅰ（2年次前期） 福島県内の地域概要や農業と食をめぐる課題等について学び、実践的な学修に向けた基礎事項の整理を実施			・食農科学英語演習 ・食農地域実習（就業体験科目） ・食農実践演習Ⅱ（3年次通年） 4コース横断でチームを編成し、地域課題解決型プロジェクトに取り組んで実践力を養成					
接続領域		・スタートアップセミナー ・社会とデータ科学の基礎 ・キャリア形成論 ・英語 ほか								
教養領域		・外国語（英語 ほか） ・情報リテラシー ほか								
問題探究領域										
自由選択		自らの興味・関心にしたがって、基盤教育及び学類内外の科目から選んで履修する								
		アドバイザー教員 クラス担任等のアドバイザー教員が定期的に面談し、履修や学修、生活、進路等について助言します。 1年次前期～2年次前期 クラス担任 2年次後期～3年次前期 コース担任 3年次後期～4年次 卒業研究指導教員								





食と農のリーダーに求められる

知識と技術、考え方を学ぶ4年間

食農学類は、よりよい社会の創造に向けて農学の専門性を活用し、新たなフードシステムの創出に貢献できる人材を養成します。日本やモンスーンアジア等の農林業と食生活を深く理解するために、設けた学びは「農学専門教育」と「農学実践型教育」の2つの柱からなる新たな農学教育。1年次から基礎科目、専門基礎科目を学び、2年次後期から4つのコースに所属して専門科目を学びます。特色のひとつは「実践的な農学の重視」であり、入学の直後から農場実習がスタートします。また、学際的な連携力を育みながら、専門性を深めていきます。それによって身につけた分野に固有の概念や思考法を、他分野の人々にわかりやすく伝える力も養います。2年次前期から3年次にかけては、県内各地で農学実践型教育を実施し、学生・教員の混成チームで取り組みます。これは、学際性の向上を意図して行われています。

学類長
メッセージ

Message

食農学類は、福島県や東北、そして地域や産業界からの強い熱意を受けて2019年に開設され、すでに3学年(約300名)の学生さんが卒業して社会や地域、企業で活躍しています。大学院の修士課程(食農科学研究科)、そして博士課程(岩手大学大学院連合農学研究科)でも、学生さんが先鋭的な研究を進め、成果を学会や社会で発信しています。学修や研究では、本学類の理念「実践性」、「学際性」、「貢献性」が強く意識されています。地域や世界における食と農の問題、解決することによってよりよい社会や生活、経済や世界を生み出せること、それらに積極的に取り組んでいます。福島で学んで研究し、地域と世界に貢献。一緒に。



食農学類長 新田 洋司 教授



1年次 入学後すぐに始まる「農場基礎実習」

基礎教育と農業関連産業の基礎を学ぶ

福島のブランド農業

福島のもも(あかつき)、岩瀬キュウリ、南郷トマト、伊達のあんぼ柿、奥会津金山赤力ボチャ。福島県には、長い年月をかけてブランドを築いてきた農産物や食品が数多く存在します。震災と原子力災害に立ち向かい、乗り越えようとするなかで、新たにブランディングを図る挑戦も各地で始まっています。福島県が誇る主要品目や各地の実践事例を学びながら、これからの「福島のブランド農業」の課題と方向を一緒に考えてみましょう。



震災農村復興論

東日本大震災と原子力災害の発災から、復興をめぐる行政、政策、制度が大きな転換点を迎えています。この授業では、放射能の基礎的な知識を修得した上で、福島の原子力災害を自然・社会・経済など多角的観点から学びます。また、残された課題を検討するとともに、被災地域並びに我が国や国際社会に対して、食農科学が果たすべき役割について考えます。

教員紹介 ※2025年4月1日現在

詳しい経歴はこちら



食品科学コース

松田 幹 (食品機能学Ⅰ)
平 修 (食品機能学Ⅱ)
尾形 慎 (食品素材科学)
吉永 和明 (食品加工学Ⅰ)
熊谷 武久 (食品加工学Ⅱ)
升本 早枝子 (食品保蔵学)
島 純 (発酵・醸造学Ⅰ)
藤井 力 (発酵・醸造学Ⅱ)
種村 菜奈枝 (食品安全学)
金子 大作 (食品分析学)

農業生産学コース

高橋 秀和 (作物育種学)
新田 洋司 (作物学概論)
渡邊 芳倫 (環境保全型農業論)
深山 陽子 (蔬菜・花き園芸学)
高田 大輔 (果樹園芸学)
高梨 琢磨 (応用昆虫学)
岡野 夕香里 (植物病理学)
大瀬 健嗣 (土壌科学)
二瓶 直登 (植物栄養学)
寺田 圭 (畜産学)

生産環境学コース

(森林生物資源管理学)
福島 慶太郎 (森林生態系管理学)
望月 翔太 (森林保全学)
藤野 正也 (森林利用学)
石井 秀樹 (里山管理論)
神宮宇 寛 (農村計画学)
申 文浩 (環境水利学)
原田 茂樹 (土壌物理学)
牧 雅康 (農業リモートセンシング)
窪田 陽介 (スマート農業論)

農業経営学コース

福田 洋介 (農業経営学)
原田 英美 (農産物流通論)
河野 恵伸 (食品マーケティング論)
則藤 孝志 (フードシステム論)
高山 太輔 (農業経済学)
小山 良太 (協同組合学)
高野 真広 (農業政策学)
林 薫平 (農林資源経済論)

2 年次 後期からはじまる「農学専門教育」

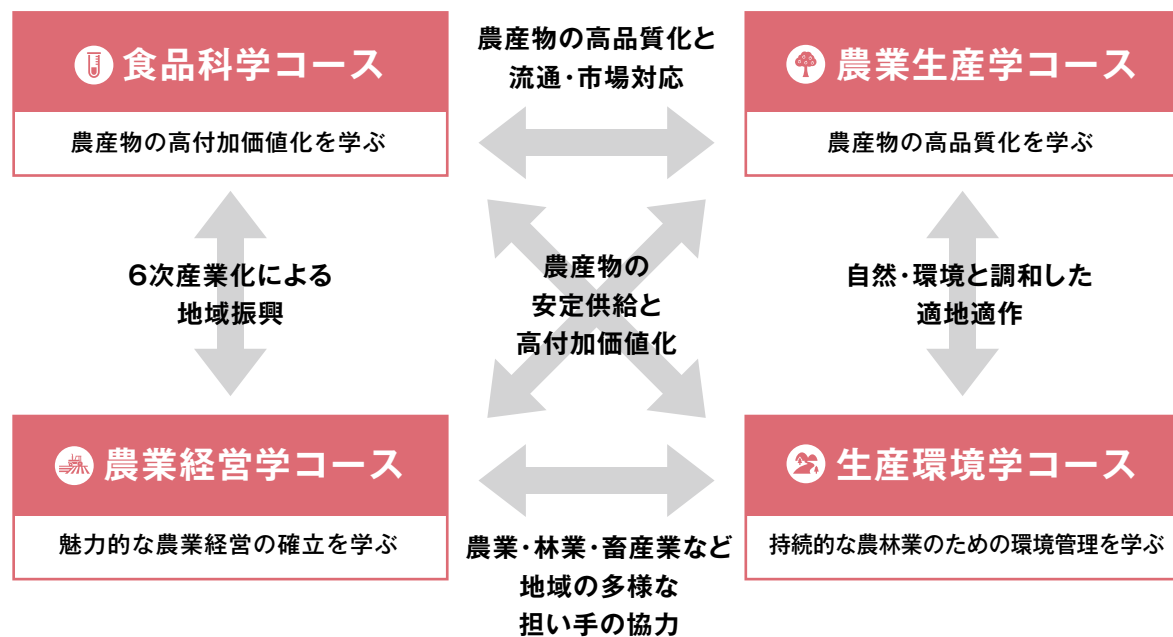


農学専門教育

4領域を学び食と農のプロになる

✓ 多角的に学べる

フードチェーンの上流にあたる「生産環境学」、中流の「農業生産学」、下流の「食品科学」、そして全体を見通す「農業経営学」という、4つの履修コースから専門的に学びます。専門知識を身につけるだけでなく、各コースが有機的に結びついた教育を実施。近年重要視されている「消費者視点で考える農産物生産」など、専門分野を超えた学際的な思考力を養います。



食品科学コース



- 食品機能学I・II
- 食品分析学
- 食品素材科学
- 食品加工学I・II
- 食品保蔵学
- 発酵・醸造学I・II
- 食品安全学

食品の栄養素や機能を分析するための専門的な知識と技能を身につけるコースです。併せて安全性やおいしさなどに優れた食品の製造を理解し、新商品開発に挑戦できる人材や、発酵や醸造学の学びを通して地域の食の伝統的な強みを活かせる人材の育成を目指します。

特徴的な科目

食品加工学II

食品加工により、安全性、保存性、栄養性、健康機能性、嗜好性、利便性などが向上し、付加価値が生まれます。本講義では食品の加工工程による変化を科学的に学びます。



食品分析学

食品分析学では、一般成分分析法、機器分析法について最新の食品研究の動向や福島県内外での事例などを交えて解説を行うことで、多成分不均一素材としての食品の適切な評価、最適な制御法を学び、将来各人がそれぞれの現場で活用できる基礎知識の修得を目指します。



農業生産学コース



- 作物学概論
- 作物育種学
- 環境保全型農業論
- 蔬菜・花き園芸学
- 果樹園芸学
- 応用昆虫学
- 植物病理学
- 土壌科学
- 植物栄養学
- 飼料資源学

作物栽培に関する最新技術や知見を駆使し、作物生産、食料生産、栽培資源利用などの農業生産に関わる諸問題を解決する専門知識と技術を身につけます。その上で新品種の開発と既存品種の見直し、栽培技術の革新、病害虫の農業被害管理といった技能の修得を目指します。

特徴的な科目

応用昆虫学

昆虫は、地上で最も繁栄した動物群で、農業を始め人間生活と深く関わっています。本講座では、昆虫の生理・生態の基礎、主要作物害虫の生態・被害、様々な防除法、環境保全型の害虫管理法等について学びます。



果樹園芸学

福島を代表する果樹に関して、「福島の飛躍」を目指し、樹体生理に基づいた栽培方法の解析、ICT/AI技術の導入、海外輸出に関連した流通技術、「復興」をキーワードに放射性Csの果樹園における動態に関して学びます。



生産環境学コース



- 森林科学
- 森林生態系管理学
- 森林保全学
- 森林利用学
- 里山管理論
- 農村計画学
- 環境水文学
- 土壌物理学
- 農業リモートセンシング
- スマート農業論

生産環境の保全と活用に対する専門知識や技術を身につけるために、森林・農地・水環境等の生産資源と生産活動を管理・運用するシステムを学びます。また本学類以外のコース科目の学びを通して、多角的視野から生産環境を探索し、保全と活用を実践できる人材の育成を目指します。

特徴的な科目

森林科学

森林は生態系の一部であるとともに、歴史的に人が大きく関わって現在の姿があります。木材資源、生物多様性の保全、地球環境問題、放射性物質による汚染、及び地域の農業との関係について実例に基づき学びます。



農業リモートセンシング

リモートセンシングは、宇宙や空から非破壊・非接触で地表面の状態を測ることができます。農業リモートセンシングでは、この技術の原理と実例を基に農業分野での活用方法、特にドローンを用いた方法について学びます。



農業経営学コース



- 農業経営学
- 農産物流通論
- 食品マーケティング論
- フードシステム論
- 農業経済学
- 協同組合学
- 食料・農業政策学
- 農林資源経済論

フィールドワークを重視した農業経営学を軸に、生産から加工・流通を経て消費に至るフードシステムに関わる問題を解決する知識と技能を身につけます。また他コースの科目を履修することで得られる多角的な視点で、今後の地域農村社会の現場を担える人材の育成を目指します。

特徴的な科目

農業経営学

市場ニーズに対応した農業経営のあり方・経営戦略を、地域の事例も踏まえ考えていきます。農産物の市場・販売戦略、農場の規模と集約度、作物選択の理論と財務諸表に習熟し、農業経営者に必要な能力を涵養します。



農林資源経済論

森林や里山の資源を循環利用することにより集落や地域経済の活性化をどう実現するか理論面・実践面から学びます。「森は農の恋人」の考え方や、震災・原発事故の影響からの「里山の経済」立て直しの課題を考えます。



2 年次前期 ~ 3 年次通年 「農学実践型教育」

福島県全体がキャンパス

学生・教員・地域の人々がタッグを組んで、自治体にて行う「食農実践演習」科目。足繁く現地を訪れて、課題の解決に向けて学びを深めるカリキュラムです。この演習のもっとも肝心な部分は、食品科学・農業生産学・生産環境学・農業経営学という4つの履修コースから学生・教員が集まり、専門コースの混成部隊としてチームが編成されます。コースの異なるチームメイトと協力しながら、月に何度か地域に通い、課題を分析し、解決策を提案します。実践性・貢献性を重んじるとともに、学際的な交流を大切にするプログラムで、これが農学実践型教育にほかなりません。また、本学類の専任教員が総員で取り組むのも、実践型教育にかけける熱意の表れ。地域社会に貢献しながら、将来に広く役立つ学際性・実践力を育みます。



プロジェクト実施地域

福島市

猪苗代町

郡山市

いわき市



〔地域課題・キーワードの例〕

▶ 6次産業化

ワイン・日本酒、発酵食品（納豆・味噌など）、機能性食品、医福食農連携

▶ 先端農業の推進

スマート農業とICT（情報通信技術）活用、GAP認証、魅力的な農業の事業モデル構築

▶ 福島ブランドの復興

県特産品のブランディング（米・畜産・園芸）、風評払拭、地産地消マルシェ

▶ 地域再生

里山再生、循環型農業、菜の花で地域づくり、バイオマス活用と地方創生

01 現場に向き合って、課題を分析&解決策を提案

「農学栄えて農業減ぶ」という言葉にも表現されているように、日本の農は、学問と現場がかけ離れてしまいがちでした。本学類では、現場が抱えている課題を解決する「農学・食品科学の原点」に立ち返り、学生自身が地域に通い、課題の発見から解決策の提案までを経験。学んだ専門知識を応用する実践力を身につけます。



02 4コースの学生・教員と地域の人々が連携

4つの履修コースの学生・教員を組み合わせた混成チームが、地域の人々と連携して各プロジェクトに挑戦。それぞれの専門知識を発揮し合うことで、地域が直面する課題に複合的に対応します。大切なのは、相手に分かるように専門知識を伝えられるコミュニケーション能力。専門の枠を超えて協力し合える学際性を養います。



03 すべては課題解決のためあらゆる知・技・人を結集

福島県内の地域課題に取り組むなかで、時には「他県の技術を取り入れるべき」というケースもあるでしょう。課題解決のために必要であれば、先進的な国・地域を視察したり、他県から先端技術の開発者を招いたり、関連分野の学会に参加したりすることも。県境・国境を越えた活動が、グローバルな視野・能力を育みます。



04 日本の将来的な課題を先取りしているのが福島

農林業の担い手不足の解消から、食品の安全性の確保まで、今後の日本が直面する課題を先取りしているのが、震災後の福島県です。「農学実践型教育」では被災地の復興に貢献できるだけでなく、その成果を全国や世界に発信したり、卒業後に出身県などで経験を活かしたりすれば、広く社会に貢献することができます。



在学生からの
メッセージ

Student's
Message



食農学類 2年 [福島県立須賀川桐陽高等学校出身]

深谷 咲里愛さん

※学年は取材当時のものです。

元々生物の授業が好きで、特に微生物が農業や発酵食に使われていることを知り、農業に興味を持ちました。食農学類は農業だけでなく食品についても学べることで、1年の時から実習があるカリキュラムに魅力を感じました。米や夏野菜を作ったり、樹木観察で木や虫を観察する授業もあり、その体験がとても新鮮です。

東日本大震災を経験して、原発事故による農作物の風評被害をなくす取り組みや、知識だけでなく先生方が経験してきたことを聞けるので、とても説得力のある授業です。入学した時は食品科学コース志望でしたが、4つのコースの概論を聞いて全部に魅力を感じてしまい、何を学ぼうか迷っています。



食農学類 2年 [福島県立相馬農業高等学校出身]

佐々木 海渡さん

※学年は取材当時のものです。

農業や食品産業は人類が存続する限り廃れることはないと考え、農業高校に進みました。その発展形として「食に関すること」全般を学ぶのに食農学類はぴったりでした。高校時代は食品が専門でしたが、食農では農業の基盤整備から栽培に関することも学びました。2年次後期にコース配属がありますが、1年次には先生方ほぼ全員が担当される講義がコース毎にあります。食農について全体を俯瞰するといつか、幅広く様々なことを知ることで、生産から加工、流通、環境まで含めて、多面的に農業や食品を考えられるようになりました。

土壌微生物学に興味があるのですが、これが微妙に2つのコースにまたがっているため、どちらを選ぶか迷っています。食農学類は選択の幅が広いので、将来の仕事の可能性も広がると思います。

大学院

Graduate school

大学院には地域デザイン科学研究科、共生システム理工学研究科、食農科学研究科、教職実践研究科の4つの研究科をおき、高度な教育研究活動を展開。各研究科の専門性を活かした高度専門職業人・研究者を育成しています。また、社会人にも門戸を開き、社会人特別入試、昼夜開講制、長期履修制度、土日集中開講などを導入することで、スキルアップ、修士号、博士号取得などに意欲的な社会人のニーズにも対応します。東日本大震災以降、「福島」の使命として、災害復興、食と農の問題、再生可能エネルギーなどに対応したプログラムを設けることで、地域社会にとどまることなく、グローバルな視点で、世界に起こり得る諸課題に先進的に取り組みます。

一 地域デザイン科学研究科

修士課程

地域デザイン科学研究科は、既存の3研究科を統合し、人間文化専攻、地域政策科学専攻、経済経営専攻から成る新しい大学院として発足しました。多分野にわたる豊富なスタッフがタッグを組んで、複雑かつ困難な地域課題に挑み、新しい地域のあり方をデザインしていくことのできる高度職業人を養成します。



人間文化専攻

●言語文化コース ●地域文化コース ●スポーツ・芸術文化コース ●人間発達心理コース

人間文化専攻は4コースから構成され、人間と文化に関して様々な分野から研究を進めます。言語文化コースは、言語学などを中心に、日本語や英語などに関する研究を深めていきます。地域文化コースは、地域社会における様々な文化に関して歴史・地理・経済・社会・倫理・食物・被服などの人文・社会科学的・生活科学的な研究を進めます。スポーツ・芸術文化コースはスポーツ・健康科学、音楽、美術に関する専門的な研究と文化の創造を進めます。人間発達心理コースは、特に子どもの発達と人間の心理に関する専門的な研究を進め、問題行動への支援などを行います。

地域政策科学専攻

●法・政策コース ●コミュニティ探究コース

地域政策科学専攻は学際的な2コースから構成されます。地域課題を政策的に考究する法・政策コースと、文化やコミュニティの問題を扱うコミュニティ探究コースが置かれています。

経済経営専攻

●経済学コース ●経営学コース

①経済学コースでは経済学的諸問題について理論的・実証的な分析に取り組みます。②経営学コースではビジネスに関わる体系的な学修、会計学分野では会計・税務に関する科目群を集中的に学びます。

一 共生システム理工学研究科

博士前期課程

博士後期課程

「共生」の観点からさらに専門性を深化させ、新しいシステム科学を構築、発展、継承できる人材と、これらの課題解決に実践的に貢献できる高度専門職業人・研究者を養成します。



共生システム理工学専攻

博士前期課程

●数理・情報システムコース

数学、情報科学、経営システム工学、及びそれらを基礎とする数理・情報システム分野の研究を行っています。

●物理・メカトロニクスコース

物理学、機械工学、電気電子工学、制御工学、及びそれらを基礎とする物理・メカトロニクス分野の研究を行っています。

●物質・エネルギー科学コース

化学、材料工学、化学工学、エネルギー工学、及びそれらを基礎とする物質・エネルギー科学分野の研究を行っています。

●生命・環境コース

生物学、心理学、地学、気象学、水文学、及びそれらを基礎とする生命・環境分野の研究を行っています。

博士後期課程

●共生数理システム領域

さまざまな産業分野において地域社会のニーズに応え、人と共生可能な工学系システムの創出を支える能力を養成することに取り組みます。

●共生環境システム領域

持続循環型産業システムの創生、自然環境システムの解析・予測・保全、人間環境システムの管理・計画、人間の心理・生理を解明する能力の養成に取り組みます。

環境放射能学専攻

●環境放射能学コース

生態学・生物学またはそれらを基礎とする放射生態学分野、地球科学・数値シミュレーションまたはそれらを基礎とする放射能モデリング分野、化学・物理学・機械工学・電気工学またはそれらを基礎とする放射能計測分野の3分野に分かれて研究を行っています。

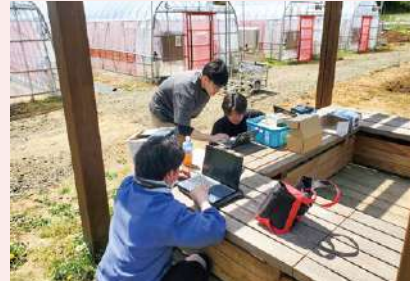
●環境放射能領域

環境における放射性核種の動態と関連する要因を解明し、予測評価、環境修復、放射線防護、廃炉、中間貯蔵、浄化など複数の課題解決に活用できる実践的かつ総合的な研究に取り組みます。

一 食農科学研究科

修士課程

食農科学の各分野の専門性を持ち、同時に学際性志向も兼ね備え、地域の課題を抽出して解決する力と国際的な地域課題にも対応できる力を持つ高度専門職業人・研究者を養成します。



食農科学専攻

●食品科学コース ●農業生産科学コース ●生産環境科学コース ●農業経営科学コース

1研究科・1専攻の体制のなかに食品科学、農業生産科学、生産環境科学、農業経営科学の4コースを設けています。本研究科の教育課程の方針として、食品科学の分野を含めた農学の全ての分野を扱い、食と農のフードチェーンを統合的に扱う人材の育成を目指した教育研究を行います。

一 連合農学研究科 (岩手大学大学院連合農学研究科)

博士課程

岩手大学大学院連合農学研究科は、設置大学が岩手大学、参加大学が弘前大学、山形大学、福島大学になります。各大学の特色を生かした教育と研究体制の強みを相互に生かした運営を行っています。食農科学研究科(修士課程)の大学院生(修士)が連合農学研究科(博士課程)へ進学し、更なる研究の展開や高度人材養成を行います。

生物生産科学専攻

生物資源科学専攻

地域環境創生学専攻

福島大学の指導教員は、岩手大学大学院連合農学研究科併任の指導教員として学生を指導します。福島大学から博士課程へ進学した学生は、岩手大学大学院連合農学研究科に在籍し、福島大学に配置されて研究を進めます。

一 教職実践研究科 (教職大学院)

専門職学位課程

「理論と実践の往還」を通して資質能力の向上を図り、地域課題や現代の教育課題に果敢に挑むイノベーション人材(高度専門職業人)としての教師を養成します。



教職高度化専攻

●ミドル・リーダー養成コース ●授業デザインコース ●特別支援教育コース

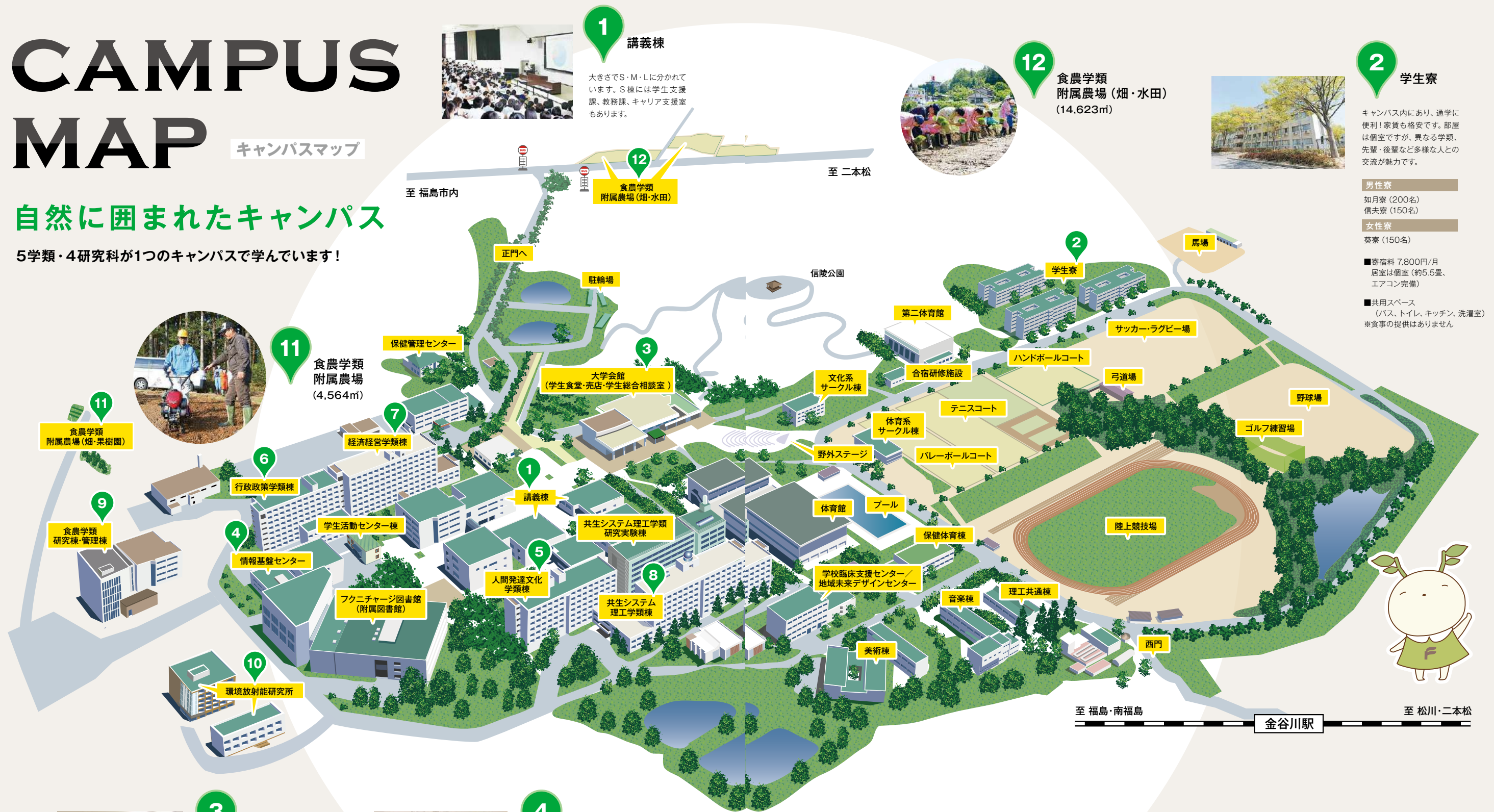
課題意識や経験年数に応じた3つのコースにより、「理論と実践の往還」による実践型教員養成機能に軸足を置きつつ、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力といった資質能力の高度化を図り、「ミドル・リーダー」「次のミドル・リーダー」「次世代のミドル・リーダー」を養成します。

CAMPUS MAP

キャンパスマップ

自然に囲まれたキャンパス

5学類・4研究科が1つのキャンパスで学んでいます！



1 講義棟

大きさをS・M・Lに分かれています。S棟には学生支援課、教務課、キャリア支援室もあります。

12 食農学類 附属農場 (畑・水田) (14,623㎡)

2 学生寮

キャンパス内にあり、通学に便利！家賃も格安です。部屋は個室ですが、異なる学類、先輩・後輩など多様な人との交流が魅力です。

男性寮
如月寮 (200名)
信夫寮 (150名)

女性寮
葵寮 (150名)

■寄宿料 7,800円/月
居室は個室 (約5.5畳、エアコン完備)

■共用スペース
(バス、トイレ、キッチン、洗濯室)
※食事の提供はありません

11 食農学類 附属農場 (畑・果樹園) (4,564㎡)

11 食農学類 附属農場 (畑・果樹園)

9 食農学類 研究棟・管理棟

3 学生総合相談室

大学生活で出会う様々な悩みや相談に対して、専門のカウンセラー (臨床心理士) 及び本学職員が対応しています。どんなことでもお気軽にご相談ください。

4 情報基盤センター

学内のネットワークに関することや、パソコン等の情報システムに関する技術的なサポートを行っています。

4 情報基盤センター

5 人間発達文化学類棟

6 行政政策学類棟

7 経済経営学類棟



8 共生システム理工学類棟



9 食農学類 研究棟・管理棟



10 環境放射能研究所



☆福岡大学は、福岡日産自動車株式会社とネーミングライツ・パートナー契約を締結し、附属図書館の愛称を「フクニチャージ図書館」としています。

フクニチャージ 図書館（附属図書館）

自分流の使い方ができる図書館

2015年に新館が完成した附属図書館。広くて明るい、大きな図書館に生まれ変わりました。従来からの静かに本を読み、勉強する場所をはじめ、さまざまなスタイルで学習ができるラーニングcommons「アリアcommons」が設置されています。会話をしながら、グループ学習などでもできるようになりました。イスや机を動かすことができるスペースもあり、自分好みの学習スタイルを見つけたり、目的や気分で場所を使い分けることもできる図書館です。約100万冊の図書館資料や、電子資源などを活用しながら、大学での学びを深めることができます。



学生食堂

生活スタイルに合わせて2つの食堂を使い分け。食堂で、学内で、自宅で、より自由に食事ができます。

おすすめ！食堂メニュー

食堂 Dining ReaF (リーフ)



数量限定の定食から丼や麺まで取り揃えています。好きなメインディッシュ、惣菜、サラダを組み合わせて選べるコーナーもあります。



1F 食堂 Dining ReaF (リーフ)

授業がある期間 平日 9:30~19:00 / 土曜 11:00~14:00 日祝閉店
※大学の長期休暇期間 平日・土曜 11:00~14:00

人気メニュー

Quick Lunch グリーン



1年を通してほかほかのお弁当が食べられ、夏には冷たい麺も登場！テイクアウトもイートインもどちらもOK！

〈Menu Ranking〉



1位 | 牛焼肉丼 2位 | 台湾混ぜうどん 3位 | チーズデミハンバーグ丼



2F Quick Lunch グリーン

授業がある期間 平日 11:00~14:00 土日祝日閉店

福島大学生協

福島大学生協は、新入生の入学準備や住まいの斡旋から、就職活動や卒業まで大学生活のサポートを行っています。

福島大生協購買店「Shop Re:act」

大会館1階にある購買店では飲料、お菓子から日用品、文具など大学生活に必要なものを取り揃えています。店内にあるサービスカウンターは、自動車学校の斡旋や資格取得、オリジナル講座の相談もできる複合窓口です。

授業がある期間 平日 9:30~19:00 / 土曜 11:00~14:00 日祝閉店
※大学の長期休暇期間 平日・土曜 11:00~14:00



3つの アリアcommons (ラーニングcommons)

1~3階の各フロアにある会話が可能な学習スペース。3つそれぞれに特徴があり、一人でもグループでも、自分にあったスタイルで学習できます。



個人・グループで使える学習室

4名まで利用できる個室「サクラスタディールーム」と5名以上で予約できるプロジェクト・大型スクリーンがある「リーフセミナーーム」が利用可能。



フクニチリーディングルーム (開架閲覧室)

大学での学修に必要な本が置いてあり、静かに集中して勉強できる場所です。



震災関連資料コーナー

東日本大震災に関連した災害・復興・原発・ボランティアなどの資料があり、研究や学習での利用の他、個人の防災等にも役立てることができます。

☆福島大学は、福島日産自動車株式会社とネーミングライツ・パートナー契約を締結し、附属図書館の愛称を「フクニチャージ図書館」としているほか、フロア等にも愛称が付いています。
(例 ラーニングcommonsの愛称は「アリアcommons」)

年間スケジュール





福大生が語る

福大キャンパスライフ

大学は高校と違い、自分が学びたいことを自ら学び取る場所。
机にかじりついていないで、福島というフィールドに飛び出そう。
今ここで生きる哲学や、未来へ必要なものは、この土地と地域の人々が教えてくれます。

今の福島でしかできない 地域の再生や課題に取り組む

——大学で学んでいることは？
阿部さん 末吉ゼミで地域経済や経済地理学、地域復興などを学んでいます。テキストを熟読して疑問を見つけて、それを解決する思考力を高めたり、さらに教授との討論で理解を深めています。今年は学生主体で計画を立て、先生が研究されている米沢市や北上市の企業や工場を見学に行く予定です。
本田さん 行政政策学類は公務員を目指している学生も多く、地域や社会情勢を考える授業などを受けています。1年次は復興に関するゼミで飯舘村に行き、地域に密着しながらどのような地域づくりがいいのかを学びました。
——飯舘村は震災時に全村避難指示が出たところ。村の方々と接してみてもうでしたか？
本田さん 地域のお祭りを手伝ったのですが、みんなで協力して復興を進めて行こうという、震災や原発事故に負けない力強さを感じました。
横田さん 私は民法のゼミで学んでおり、2～3人程度の班に分かれて判例を読み込んで検討したり、政策や地域づくりを学んでいます。昨年は災害復興学の授業で、相双地区の新たな町おこしなどを見てきました。



サークル探しから学内の情報まで 新入生の大学デビューの強い味方

——皆さんの活動について教えてください。
阿部さん 新入生歓迎実行委員会は、4月に入学してきた新入生向けにサークルオリエンテーションを開くことが活動のメインです。4月の2週と3週の水曜日の午後に教室を割り振って、サークルの紹介をしてもらいます。例年だと、その後にスポーツを通してサークル同士の仲を深める新入生歓迎スポーツ大会があるのですが、今年は引継ぎの関係で運営できなかったため、来年は復活させたいですね。
本田さん 今年の福大祭は11月1日と2日なので、うちの活動はこれからが本番です。3日間のスポーツフェスティバルと合わせて5日間の盛大なイベントになります。実行委員会は1年生が中心で、これからステージ担当や模擬店担当など8つの小委員会に分かれて活動を開始します。一大イベントなので事務的な作業も多く大変なこともあります。委員会に所属している自分たちも楽しめるイベントにしていきたいです。
横田さん 学生ジャーナリストは大学の広報強化を目的とした団体で、学生目線で大学の広報を行っています。私は学食や広場で流れている学内ラジオ「め



ばえのたね」(通称:めばラジ)の番組を制作・放送する放送班に属しています。ほかにも福大の公式マスコットキャラクター「めばえちゃん」の運用や企画を担当するめばえ班、X(旧Twitter)やInstagramを運用するSNS班、写真を使って大学の広報や魅力を伝えている写真班が活動しています。普通の学生生活では関わらないサークルや、興味深い活動をしている方と関わることができるので、とてもやりがいがあります。
——印象に残っている取材先は？
横田さん 学生が中心になって、行政政策学類の学生論文集「嶺風(れいふう)」を編集している委員会があるんです。編集で工夫しているポイントや、表紙のデザインも毎年凝っていて面白く、それが印象に残っていますね。
——本田さんは、どんな福大祭にしたいですか？
本田さん 学生だけでなく一般のお客さまもたくさん来てくださるので、「福大祭ってこんなに面白いんだ」とか「来て良かった」と思っていたらいいように、一般の方々もたくさん巻き込んだ大学祭にしたいですね。
——阿部さんは2年次に福大祭の実行委員長もされていましたね。
阿部さん 学祭の先輩から見込まれて新歓の委員長にも選んで貰った…と言えば聞こえがいいんですが、先輩から「名前を貸して」と言われて、いつの間になっていたみたい(笑)。就活との同時進行で大変でしたが、学祭の時以上に全部のサークルの代表と話す機会があり、知見を広げることができました。
——体育会系の先輩後輩のノリですね(笑)。
本田さん 僕と泰成さんは学祭でも繋がりがあり、バイト先も一緒に、すごく頼りになる先輩です。
——来年は知らないうちに新歓の委員長にされているかもしれませんよ。
本田さん 要注意ですね(笑)。

豊かな自然と仲間たちに囲まれて 基礎科目から最新の学問分野まで

——福島大学の推しポイントを教えてください。
横田さん 学類制を取っているので、ほかの学類の授業も履修できます。私も去年は食農学類の授業、今年は人間発達文化学類の授業を取っています。専攻だけでなく、自分が学びたいことをいろいろ選択できるのはいいですね。また、大学内にいる野良猫のTNR活動(Trap(捕獲)、Neuter(不妊手術)、Return(元の場所に戻す))や餌やりなどをしている「福島大学ねこサークル」があるためか、キャンパスに人懐っこい猫がいっぱいいます(笑)。



行政政策学類 2年
福大祭実行委員長
本田 諒成さん
〔福島県立会津学鳳高等学校出身〕

行政政策学類 3年
学生ジャーナリスト
横田 結羽さん
〔群馬県立桐生高等学校出身〕

経済経営学類 4年
新入生歓迎実行委員長
阿部 泰成さん
〔仙台育英学園高等学校出身〕



——猫好きには勉強や研究の合間の癒しですね(笑)。
本田さん ジェンダーや多様性など、時代に合わせた教育に力を入れていると思います。1年次にジェンダーについて考える授業を受けましたし、昨年の福大祭では「ミス・コンテスト」ならぬ「オール・ジェンダー・コンテスト」をやっていました。
阿部さん やはり自然の豊かさではないかと。最初は山の上の大学に歩いて登校するのはだるいかなと思っていましたが、四季の移り変わりを楽しみながらの登下校は楽しいものでした。福島大学は東北と関東の境にある国公立大学なので、いろいろなところから学生が集まる立地の良さがあります。また、本田君が言ったジェンダー学入門のほかにもSDGsに関する選択科目もあるので、そういった社会的課題を学びたい人にはもってこいだと思います。
本田さん ひとつのキャンパスにすべての学類が集まっているから、ほかの学類の友人ができるのもいいところです。人との繋がり、大事です。
横田さん 学類も出身地も多彩なので、話題には事欠かないと思います。ラジオの取材でも地元の話も専攻も十人十色で、何を伺っても毎回新鮮で楽しいですよ。

楽しいキャンパスライフが 皆さんを待っています。

——入学を考えているかたにメッセージを！
横田さん 福島大学は、学類を越えて自分が学びたいことが学べます。いろいろな人がいるので、友だちを作るのにもとてもいいところだと思います。福大に入って、楽しいキャンパスライフを過ごしてください。
阿部さん ちょっと被りますが、経済から食農、理工系まで本当に幅広い学類を学ぶ学生がひとつのキャンパスに集まっているのは、とても珍しいのではないかと思います。自分が学びたいことの選択肢が広がることはいい点だと思うので、ぜひ入学してください。
本田さん ジェンダーやSDGs、脱炭素型エネルギーや放射線科学など、時代に合わせた教育や研究を行っています。時代や流れに左右されることなく、学生が自分で考え解を導き出していく教育を行っています。自分で物事を考える力を育てる、そういった学びができることが強みです。それと、福島大学に入学したら、ぜひ福大祭実行委員会に入ってください。お待ちしております。

STUDENT'S LIFE

福島大学生のキャンパスライフをのぞいてみました！

ひとり暮らし

月々の生活費 | ■家賃 40,000円 ■食費 30,000円

一人暮らしの楽しさと
大変さを満喫しながら
休日はよさこいで祭りを
盛り上げています。

食農学類
農業経営学コース 3年
佐藤 蓮さん
福島県 いわき秀英高等学校 出身

ひとり暮らし

月々の生活費 | ■家賃 45,000円 ■食費 20,000円

自然と友人たちに癒されて
ホームシックを克服。
勉強もサークルも楽しい毎日です。

食農学類
農業生産学コース 3年
植松 美結さん
群馬県立渋川女子高等学校 出身

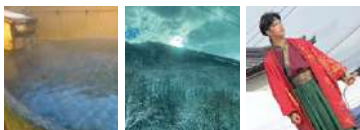
アパート探しは両親に任せたのですが、金谷川にいる親戚から大学とアパートしかないと聞いて南福島駅の近くになりました。一人暮らしを始めた当初は掃除洗濯が大変で、親のありがたさが身に沁みました。自炊もきちんとしており、鶏肉の照り焼きなどをよく作ります。

よさこいサークル「福島学生“源種”～seed～」でリーダーを務めています。伊達市や本宮市などのお祭りに参加したり、県外にも遠征します。地域のお祭りに参加すると、その地域の方々とのが繋がり強まるのが楽しいですね。休日はほとんどよさこいです。

いわき市で祖父母が農業をやっていたので、子どもの頃の楽しい思い出から農業に関わることを学びたいと考えました。1年次に米や野菜の栽培も含めて広く農業について学び、農業経営学コースでは農産物の流通について学んでいます。ここで学ぶうちに生産以外にもできることがたくさんあると気づいたので、将来は種苗業界から農業を支えていきたいと思っています。

My Favorite! -お気に入り-

「温泉で体を癒す時間も大切」



旅行、特に温泉が大好きで、最近では友人たちと山形の上山温泉に行きました。カプセルトイレも好きなのですが、よさこいのほうにお金がかかるので、今は自制しています(笑)。

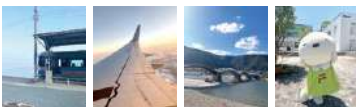
こちらに来た当初は地元が大好き過ぎてホームシックになり、「帰りたい、帰りたい」と言っていました。今では友人たちやバイト先などでいい関係に恵まれて、とても楽しい学生生活を送っています。一人暮らしもとても楽しく、最初は家事全般を自分でするのは大変で、親のありがたみを感じました。夜はまかない付きのアルバイトなのですが、平日の昼と週末は自炊することが多いです。

学生ジャーナリスト (GJ) というサークルと山岳部に入っています。GJではサークル代表と「めばえ班」の班長をやっており、めばえちゃんと大学の附属幼稚園で子どもたちと触れ合ったり、学園祭にも力を入れています。山岳部では雪のない5～11月に月1で会津磐梯山や月山などにトレッキングに行き、勉強もサークルも楽しく頑張っています。

生物が好きで食農学類に来たので、作物に関係することを研究し、将来はそういった作物栽培の知見を活かして、農家さんの力になればと思います。

My Favorite! -お気に入り-

「知らない土地に行くのが好き」



「大胆な旅行」をするのが好き(笑)。長期の休みには飛行機で九州や四国へ行きます。結構行き当たりばったりで、その土地の美味しいものや素敵な場所を見つけるのが楽しいのです。

1Day Schedule -私の1日-	
平日	休日
7:00 起床	8:00 起床
8:40 講義	10:00 趣味
12:00 昼食	12:00 昼食
13:00 実習	13:00 サークル
17:00 アルバイト	17:00 自主練
23:00 帰宅	21:30 外食 (友人と)
0:30 就寝	22:30 帰宅、就寝

2nd Grade Timetable [3年生前期の時間割]					
	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1限	—	—	スマート農業論	森林利用学	—
2限	マーケティング	農業簿記論	環境経営学	農村経営学	食農英語
3限	農業経営学演習	—	—	—	実践演習
4限	農業経営学演習	—	—	—	実践演習
5限	—	—	—	—	—

1Day Schedule -私の1日-	
7:30 起床・朝食	朝食をとり授業の準備をします。
8:40 授業	勉強をします。
12:00 帰宅・昼食	午前からの授業が多いので帰ってお昼を食べます。
13:00 自由	この時間に課題をすることが多いです。
17:00 アルバイト	福島駅周辺でアルバイトをしています。
24:00 帰宅	終電で金谷川に帰ります。
25:00 就寝	

2nd Grade Timetable [3年生前期の時間割]					
	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1限	植物病理学	森林生態系管理学	スマート農業論	植物栄養学	—
2限	—	環境保全型農業論	—	飼料資源学	食農科学英語演習
3限	農業生産学実験・実習	—	—	—	食農実践演習
4限	農業生産学実験・実習	—	—	—	食農実践演習
5限	—	—	—	—	—

福島大学の魅力！

福島大学には福島や東北だけでなく、北海道や名古屋など様々なところから学生が集まっています。食農学類には福島県出身者は実は3割しかいません。それだけここで学べる内容は魅力的なのかなと思います。キャンパスも自然が多く、ゆったりした環境が自分には合っていて、学業に専念できています。

福島大学の魅力！

都会があまり得意ではないので、自然に囲まれたキャンパスは落ち着けるし、勉強にもいい環境です。周りの人たちもみんなすごく優しく、困ったことがあってもすぐ助けてくれます。食農学類は2年次後期からコースが分かれるので、教養科目を学びながらやりたいことや職業を見つけられるスタイルがいいなと思います。

▶ クラブ・サークル活動の紹介

Student Clubs and Societies

#春から福島大学

福島大学には、文化系公認サークル・体育系公認サークル、非公認サークル、その他自治会などがあります。4月中旬には、新入生歓迎運動実行委員会主催のサークルオリエンテーション（通称：サオリ）が開催され各サークルが学内で説明会を行います。学類を超えて友人をつくり、先輩からいろいろ教えてもらえる絶好のチャンスです。自分にあったサークルを探してみてください。



男子ソフトボール部 (SPARKS)

男子ソフトボール部SPARKSは水・土・日の週3回、野球場で活動しています。部員のほとんどが野球経験者ですが、ソフトボールの経験・未経験を問わず全員が楽しみながらプレーしています。2024年度は全日本インカレに出場し、充実したシーズンを送ることができました。体を動かしたいけど厳しいのは嫌だ！大学生活を楽しく充実させたい！そんな方にぴったりの部活です。



チアダンスサークル ~Peach Graffiti~

私たちPeach☆Graffitiは、大学内外のイベントでチアダンスのパフォーマンスを通して、福島大学と福島県の地域の皆さんが、元気と笑顔で溢れるよう活動しています。メンバーの大半はチアダンス未経験者ですが、メンバー同士で楽しみながら技術を高め合っています。ダンスがしたい人、誰かを笑顔にしたい人、チアダンスで最高の仲間とキラキラの大学生活を手に入れましょう☆



女子ラクロス部

女子ラクロス部は現在28名で活動しています！突然ですが、ラクロスを知っていますか？ラクロスは「クロス」と呼ばれる道具を使い、ボールを奪い合い、点数を競う競技です！マイナー競技と言われるだけあって部員ほとんどが大学から始めています。東北地区制覇を目標として掲げ、部員一丸となって日々練習しています。体を動かしたい人、大学で新しいことに挑戦したい人など、ぜひ個性豊かな先輩たちと充実した大学生活を送ってみませんか？



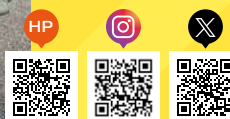
よさこいサークル 源種 (げんしゅ)

源種 (げんしゅ) は福島県内の学生で構成されるよさこいチームです！練習は土日の午後で、いろいろな学校から学生が集まるため、たくさんの人と交流することができます。サークル員の9割以上が大学でよさこいを人として活躍できます。踊り子はもちろん、太鼓隊や傘隊、旗士などとして活躍できます。ぜひ私たちと共に鳴子を手に取り、最高の青春を手に入れましょう！

福島大学ねこサークル(みくねこ)



福島大学と学内猫との共生を目指し、大学内の環境整備と猫たちの管理を企画・実施しているサークルです。猫好きなメンバーが100人近く活動しています。



ジャグリングサークル



主な活動は、日々の練習と福大祭や地域のイベントなどでのパフォーマンス。様々な催しで技を披露し、楽しい思い出をたくさん作りましょう！



福大Voteプロジェクト



期日前投票所の設置をメインに、投票率向上や若者の社会への関心向上を目標に、さまざまな活動をしている選挙啓発サークルです。少人数で和気あいあいと楽しく活動しています！



居合道部



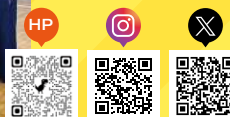
居合道とは刀を使って型を演武し、その美しさを競う武道です。武道や刀に興味のある方、新しいことを始めたい方にはぴったりの部活です。



剣道部



男女ともにインカレ出場を目標として、剣道場で週4回練習しています。経験者、未経験ともに大歓迎！マネージャーも大募集中です。



混声合唱団



全日本合唱コンクールでは、例年東北大会まで駒を進め、昨年は全国大会に出場しました☆合唱の実力をつけたい方、合唱に興味がある方を待っています！



統一サークル連合公認サークル

福島大学では、学生の自主的な学問探究及び文化・スポーツ活動の振興と発展を期することを目的に、学生の自治組織として統一サークル連合を組織しています。統一サークル連合公認サークルには、学生自治会などから財政上の助成などが行われています。公認されているサークルは以下の通りです。

文化系公認サークル

- | | | | | |
|-------------------------------|---------------|------------------------|----------------|-------------|
| ● アカベラサークル
Rainbow Pumpkin | ● 音楽プロデュース研究会 | ● ジャグリングサークル | ● ハートフル☆スタジオ | ● 文芸部 |
| ● ESS (英会話研究会) | ● 化学研究会 | ● 写真部 | ● はらい川セツルメント | ● 放送部 |
| ● 裏千家茶道部 | ● COLORs | ● しゅわ手話研究会 Drops | ● ピア☆カン | ● 漫画研究会 |
| ● SF研究会 | ● 管弦楽団 | ● 書道研究会 | ● 美術研究会 | ● 旅行同好会 |
| ● 演劇研究会 | ● 考古学研究会 | ● 吹奏楽団 | ● 福島大学ねこサークル | ● F-cation |
| ● お笑い同好会 | ● 混声合唱団 | ● HEARTS
(学生ボランティア) | ● 福島大学農林サークル福桃 | ● サークルホップ |
| | ● 児童文化研究会 | | ● Folk&Rock研究会 | ● 学生ジャーナリスト |

体育系公認サークル

- | | | | | |
|------------------|---------------|---------------------------|---------------------------------|----------------|
| ● 居合道部 | ● 硬式テニス部 | ● 女子ラクロス部 | ● 男子ソフトボール部
(SPARKS) | ● 馬術部 |
| ● オリエンテーリング部 | ● 硬式野球部 | ● スキー部 | ● 男子バスケットボール部 | ● バドミントン部 |
| ● 弓道部 | ● サッカー部 | ● ストリートダンス同好会
(D.FOOL) | ● 男子バレーボール部 | ● 福島大学トライアスロン部 |
| ● 競技ダンス部 | ● 山岳部 | ● ソフトテニス部 | ● 男子ラクロス部 | ● ラグビー部 |
| ● 行政政策学類陸上競技部 | ● 柔道部 | ● 卓球部 | ● チアダンスサークル
~Peach Graffiti~ | ● 陸上競技部 |
| ● 経済バスケットボール部 | ● 準硬式野球部 | ● ハンドボール部 | | ● ワンダーフォーゲル部 |
| ● 剣道部 | ● 女子バスケットボール部 | | | ● なぎなた部 |
| ● 福島学生"源種"~seed~ | ● 女子バレーボール部 | | | |

就職・進路支援

**学生が
選んだ未来**
(2023年度)

就職率
※2023年度卒業生進路

99.1%

就職先	人数
県内就職	289人
県外就職	481人
教員	110人
公務員	222人
企業	438人
進学	130人



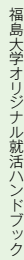
SUPPORT 1

キャリアセンターの利用

キャリアセンターには、会社案内が揃っており、先輩方が残してくれた就職試験報告書などと合わせて、さまざまな資料の閲覧ができます。このほか、公務員・教員採用試験関係資料、就職に関するガイドブックの貸し出しも行っています。



福島大学オリジナル就職ハンドブック



SUPPORT 2

進路・就職相談

自分の将来を真剣に考えれば考えるほど、答えがわからなくなったり、迷いが生じたり。就職するまでには、誰もが不安を感じるものです。そんな時は、キャリア相談員に話してください。どんなに小さな悩みでも、相談に応じます。

〔相談日〕
月曜～金曜 10:00～17:00



SUPPORT 4

業界研究・インターンシップフェア

全学年・全学類・全研究科を対象
 に、本学主催の業界研究・インター
 ンシップフェアを開催しています。

福島県内外から多数の企業・官公
 庁が出展。業界や職種を知ることが
 できる絶好の情報収集の機会と
 なっています。



SUPPORT 3

各種就職ガイダンス

開催される就職ガイダンスは、年間約40件。講演会や説明会などを通して、就職活動に必要な知識や情報の提供を行うなど、がんばる学生に対して、多彩なサポートを行っています。

1・2年生

主に3年生向けに行われるガイダンスに、見学者として参加することができます。

3・4年生

就活スタートアップ講座、業界研究講座、教員関係、公務員関係、インターンシップ対策講座、SPI説明会・webテスト、エントリーシート作成講座、面接対策講座、グループディスカッション対策講座、マナー講座ほか

キャリア相談員による実践型就職ミニセミナーの開催やゼミなどへの出張就職セミナーの実施

1・2年生 主に3年生向けに行われるガイダンスに、見学者として参加することができます。

3・4年生 関係、インターンシップ対策講座、SPI説明会・webテスト、エントリーシート作成講座、面接対策講座、グループディスカッション対策講座、マナー講座ほか

SUPPORT 5

保護者の皆様へのサポート

毎年開催されている大学祭の時期に、「保護者のための就職セミナー」を実施して、就職活動の環境や、親の関わり方などについて、理解を深める機会にしています。また、保護者宛てに各種情報提供も行っています。



進路状況

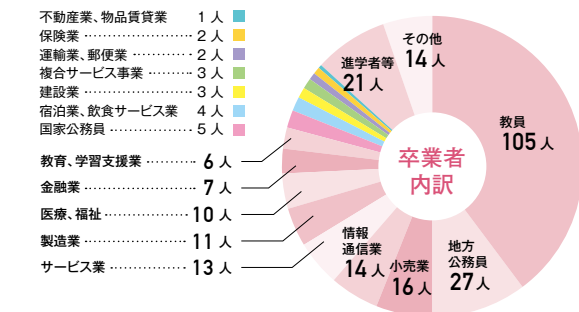
※進路データは2023(令和5)年度卒業生実績

※進路データは2023(令和5)年度卒業生実績

人間発達文化学類

卒業生 **264**人

- 就職者：229人
- 進学者等：21人
- その他：14人

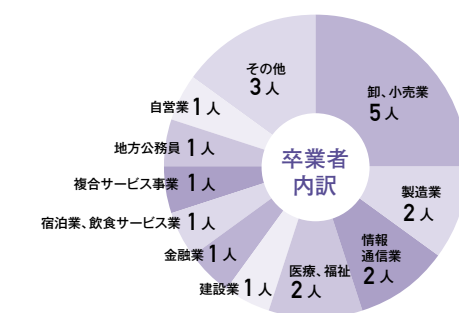


【公立学校教員】 福島県、宮城県、山形県、秋田県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、千葉県
 【私立学校園教員】 仙台育英高等学校、東北学院中学校・高等学校、わかわばた幼稚園
 【保育士】 福島県、二本松市、長井市、いわき、さくら保育園
 【公務員】 法務省、福島地方法務局、福島県、若手県、栃木県、仙台市、宇都宮市、特別区
 【企業】 セキスイハイム東北(株)、アイリスオーヤマ(株)、サッポロビール(株)、INTEC日本、日本赤十字社、福島民友新聞社、東北銀行、福島県自衛自動車(株)、東北銀行(株)、大和証券(株)

行政政策学類 夜間主

卒業生 **20** 人

- 就職者：17人
- その他：3人



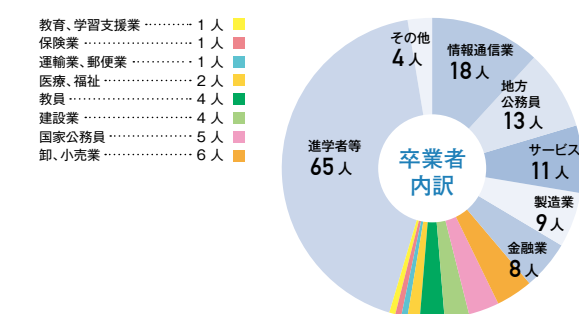
【公務員】いわき市

【企業】高柳電設工業㈱、㈱デンソーエアクール、㈱福島芝浦電子、㈱福島民報社、㈱共栄システムズ、福島小松ソフトウェア㈱、ナラサキ産業㈱、㈱ダイユーエイト、ブックオフコーポレーション㈱、㈱パル、㈱東邦銀行、ホテルグローバルビュー郡山、福島赤十字病院、㈱ハートケア、JA全農福島県本部

共生システム理工学類

卒業生 **152人**

- 就職者：83人
- 進学者等：65人
- その他：4人



【公務員】国土交通省、国土交通省東北地方整備局、税務専門官、関東支庁調査局、福島県、秋田県、栃木県、会津若松市、仙台市、白石市、名取市、横浜市、福島県警、神奈川県警

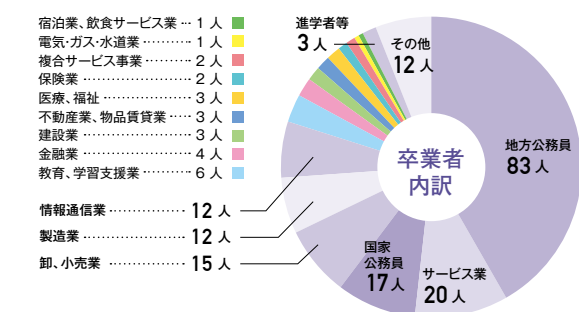
【公立学校教員】福島県

【企業】㈱熊谷組、東芝プラントシステム㈱、㈱東北村田製作所、NECソリューションイノベーション㈱、㈱インフコ、㈱日立情報通信エンジニアリング、JR東日本㈱、㈱三井、㈱アイシンビッグ、㈱東邦銀行、山形銀行、㈱りそなホールディングス、中央コンサルタンツ㈱

行政政策学類

卒業生 **199**人

- 就職者：184人
- 進学者等：3人
- その他：12人



就職先一例

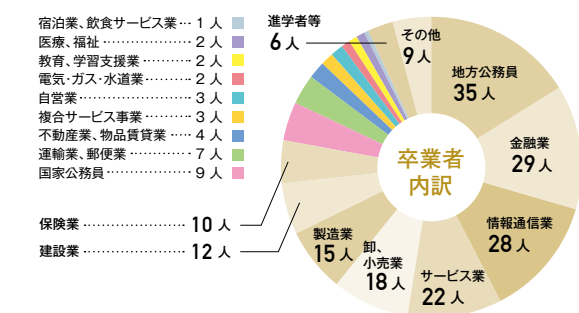
【公務員】厚生労働省、防衛省、東北運輸局、福島地方方法務局、仙台地方検察局、福島労働局、
さいたま労働基準監督署、国土地院官、福島県庁、若手県、茨城県、栃木県、群馬県、福島市、会津若松市、郡山市、郡山市、盛岡市、つくば市、宇都宮市、さいたま市、特別区、福島県警

【企業】㈱東北村田製作所、㈱寺岡精工、福島キャンパル、常盤共同火力㈱、㈱東北新報社、㈱オーケーニクス、㈱クシノのアオキ、㈱福島銀行、㈱けんうちょう、東京海上日動火災保険㈱、㈱アークシステム、㈱ケルクル、㈱Jくしま未来、福島県立文化財団、東北大学

経済経営学類

卒業生 **217** 人

- 就職者：202 人
- 進学者等：6 人
- その他：9 人



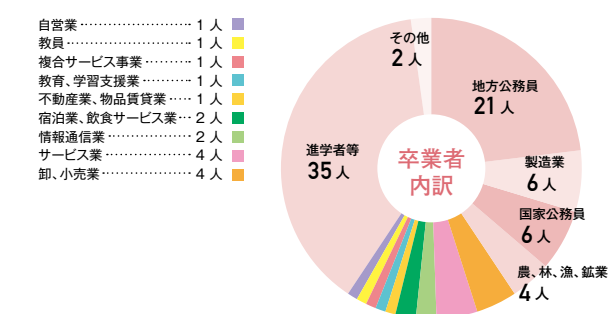
【公務員】 仙台国税局、東北財務局、仙台法務局、東北運輸局、厚生労働省、出入国在留管理
局、東京出入国管理局、福島県、岩手県、山形県、茨城県、福島市、郡山市、南相馬市、仙台市、山
形市、行方市、笠間市、日立市、中央区

【企業】 日本東高道路開発、味の素AGF(株)、クリナップ(株)、東北電力(株)、積水化学工業、JR東日本
旅客鐵道、東北銀行、仙台海運ビル、第七十七銀行、仙台市営住宅、住宅金融支援機構、
みずほ銀行、アール・エフ・仙台放送(株)、仙台市消防局、有限会社あづま電機工業(株) ㈱アミエ

食農学類

卒業生 **91**人

- 就職者：54人
- 進学者等：35人
- その他：2人



【公務員】農林水産省、農林水産省東北北政局、国税庁、林野庁、福島県、青森県、岩手県、栃木県、新潟県、長野県、静岡県、福島市、郡山市、仙台市

【公立学校教育機関】福島県

【企業】関ヶの、関ワスリステ、山崎製パン、仙波糖化工業(株)、関波里、YKKグループ、JA全農青森センター、三菱商船パッキング(株)、関コーポレマル、関デリアシ、関オーブナハイス、農業・食品産業技術総合研究機構、東北緑化環境保全センター、JA全農福島県本部

入試データ

2025年度 入学試験統計

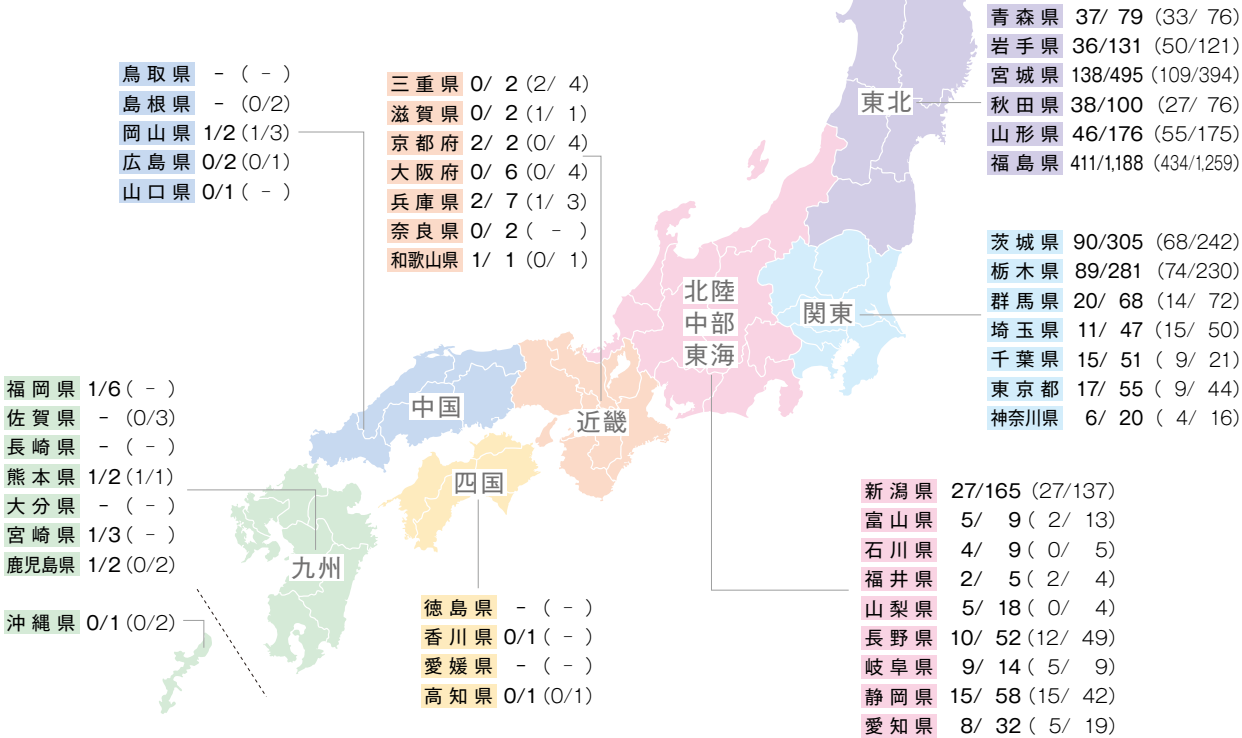
学 類	入試種別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
人間発達文化学類	一般選抜(前期)	154	423	352	198	190
	一般選抜(後期)	12	245	52	12	10
	学校推薦型Ⅱ (共通テスト課す)	74	103	103	71	71
	総合型選抜	20	42	42	26	26
	私費外国人	若干名	5	4	2	1
小計		260	818	553	309	298
行政政策学類	一般選抜(前期)	108	213	209	118	111
	一般選抜(後期)	35	325	118	48	41
	学校推薦型Ⅰ	42	78	78	42	42
	総合型選抜(夜間主)	20	18	17	17	16
	私費外国人	若干名	3	3	2	2
	小計	205	637	425	227	212
経済経営学類	一般選抜(前期)	114	365	343	151	140
	一般選抜(後期)	40	550	191	49	32
	学校推薦型Ⅰ(A)	25	31	31	25	25
	学校推薦型Ⅰ(B)	25	27	27	25	25
	総合型選抜 (共通テスト課す)	11	11	11	7	7
	私費外国人	5	19	13	5	4
小計		220	1,003	616	262	233

学 類	入試種別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
共生システム理工学類	一般選抜(前期)	102	204	186	122	109
	一般選抜(後期)	50	327	107	65	56
	学校推薦型Ⅱ (共通テスト課す)	16	33	33	9	9
	総合型選抜	32	51	51	33	33
	私費外国人	若干名	8	6	3	2
小計		200	623	383	232	209
食農学類	一般選抜(前期)	60	136	132	65	56
	一般選抜(後期)	20	196	49	29	27
	総合型選抜	20	51	51	29	29
	私費外国人	若干名	2	2	2	2
	小計	100	385	234	125	114
合計		985	3,466	2,211	1,155	1,066

※政府派遣留学生3名は含まない

志願者・入学者の都道府県別分布

※都道府県名 入学者数/志願者数 () 前年度



学費・奨学金

入学科	282,000 円	授業料	年額 535,800 円
	夜間主 / 141,000 円		夜間主 / 年額 267,900 円

納入方法	入学手続前に所定払込用紙により金融機関で振り込み、入学手続時に納入書(大学提出用)を提出。	納入方法	入学後、前期分と後期分に分けて、年額の2分の1相当額をそれぞれ4月、10月に学生本人指定口座から引き落とし。
------	---	------	--

※入学時及び在学中に入学料・授業料の改定が行われた場合は、改定時から新たな入学料・授業料が適用されます。
※入学時には、入学料のほかに別途修学関係経費、各種会費が必要になります(学類によって金額は異なります)。

学費免除について

学類生	大学院生
国の修学支援新制度により、日本学生支援機構の給付奨学生となった方(非課税世帯、それに準ずる世帯、多子世帯の方)は支援区分により入学料及び授業料が免除となります。(第Ⅰ区分・多子世帯:全額免除、第Ⅱ区分:2/3免除、第Ⅲ区分:1/3免除)※日本学生支援機構給付奨学金は、入学の前年度に高校に申込を行ってください。または入学後、すぐに学生支援課へ申込を行ってください。また、修学支援新制度の対象とならない方については、入学料及び授業料の徴収を一定の期日まで猶予する制度があります。	経済的理由により入学料及び授業料の納入が困難な方に対し、家計基準に応じ学費を減免します。また学類生同様、学費の徴収を猶予する制度があります。博士後期課程の学業優秀者に対しては、選考のうえ授業料を免除する制度があります。

奨学制度

日本学生支援機構奨学金

給付奨学金	高等教育の修学支援新制度により、日本学生支援機構が、対象となる学生へ奨学金を給付します。支援区分と通学区分により給付月額が決まります。
貸与奨学金	無利子の第一種奨学金と利息のつく第二種奨学金があります。第一種奨学金の貸与条件である学業成績と家計の困窮度は、第二種奨学金よりも厳しく設定されています。

日本学生支援機構給付奨学金の場合

奨学金の種類	金額/月(国立大学の場合)
自宅外通学	第Ⅰ区分 66,700 円
	第Ⅱ区分 44,500 円
	第Ⅲ区分 22,300 円
	第Ⅳ区分 16,700 円
自宅通学	第Ⅰ区分 29,200 円
	第Ⅱ区分 19,500 円
	第Ⅲ区分 9,800 円
	第Ⅳ区分 7,300 円

しのぶ育英奨学金 福島大学独自の給付型奨学金

● 本学に1年以上在学の学類生が対象です。 ● 4~5名程度を選抜き、毎月1人5万円 で1年間(総額60万円) 支給します。 ● 返還する必要はありません。

その他の奨学金

都道府県市町村、各種団体の制度もあります。

入学者選抜要項・各募集要項等の請求方法

入学者選抜要項発表は 7 月中旬 予定 です。各種詳細はウェブサイトをご確認ください▶
<https://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/seikyu.html>



受験生応援サイトにてWebオープンキャンパス開催

Webオープンキャンパス

各種詳細はウェブサイトをご確認ください▶



<https://www.fukushima-u.ac.jp/examination/>

- 動画で見る福島大学
- 福島大学のイトコロ
- 福大生から高校生へのメッセージ
- サークル活動紹介
- フォトギャラリー
- 360° パノラマビュー
- 学生生活(年間スケジュール)
- オンライン個別相談会(随時受付中) など